

広島市安全なまちづくりに関する  
市民アンケート調査  
報 告 書

令和2年3月

広島市市民局市民安全推進課



# 目 次

## I 調査の概要

1 調査目的	1
2 調査の方法	1
3 回収状況	1
4 報告書の見方	1

## II 調査結果

回答者の属性	3
問5 自分や身近な人が犯罪にあうかもしれないと不安を感じる事	5
問6 自分や身近な人が犯罪にあうかもしれないと不安を感じる場所	10
問7 地域の治安	13
問8 以前と比べた地域の治安	16
問7、問8 以前の治安状況と現在の治安状況	18
問9 地域の治安が以前と比べて良くなったと感じる理由	24
問10 地域の治安が以前と比べて悪くなったと感じる理由	27
問11 治安に対する安心感に変化のない原因	30
問12 犯罪を招く要因が強いと感じた迷惑行為や出来事	32
問13 迷惑と感じる回数の変化	36
問14 安全で安心して暮らしていくために強化されればよいと思う取組	39
問15 犯罪被害にあわないために心がけていること	41
問16 市政出前講座を受講した経験の有無	43
問17 安全なまちづくりに関する活動の認知度	45
問18 犯罪や防犯に関する情報入手媒体	47
問19 防災情報メールによる情報提供の認知度	51
問20 防災情報メールによる情報提供を利用していない理由	53
問21 インターネット上でトラブルに巻き込まれた経験の有無	54
問22 インターネット上で巻き込まれたトラブルの内容	55
問23 犯罪にあうかもしれないと不安を感じた場合の相談先	57
問24 暴力被害相談センターの認知度	60
問25 特殊詐欺の被害にあわないために行っている対策	62

問 26	高齢者が特殊詐欺の被害にあわないために行政や警察が行うべき取組	67
問 27	防犯活動への取組の有無	69
問 28	取り組んだことがある活動内容	71
問 29	防犯活動の成果	74
問 30	防犯活動の課題	76
問 31	防犯活動に取り組んだことがない理由	78
問 32	子どもの安全対策として行政や警察が強化すべき取組	81
問 33	地域や個人で取り組む防犯活動に対し、行政や警察がすれば良いと思う支援	83
問 34	防犯カメラの設置	85
問 35	防犯カメラで撮影されること	87
問 36	自宅の近くの道路や公園における暗がりや死角の有無	89
問 37	夜間の門灯や玄関灯などの点灯	90
問 38	一家一事業所一点灯運動の認知度	93
問 39	この1年間で流川・薬研堀地区へ行った経験の有無	95
問 40	流川・薬研堀地区の印象	97
問 41	以前と比べた放置自転車の数	100
問 42	犯罪被害者等のための相談窓口の認知度	101
問 43	知っている相談窓口	102
問 44	再犯防止に必要なだと思うこと	104
問 45	再犯防止のために広島市がすべきこと	107
問 46	『再犯防止のためには、犯罪をした人を社会から排除・孤立させるのではなく、再び受け入れることが自然にできる「誰一人取り残さない」社会の実現が大切である。』という意見について	110

### Ⅲ 自由意見

1	行政への意見・要望について	113
2	安心・安全に関する意見について	114
3	地域や町内に対する意見について	115
4	モラルやマナーについて	116
5	防犯教育について	117
6	防犯意識について	117
7	その他の意見について	118

# I 調査の概要



# I 調査の概要

## 1 調査目的

犯罪の起こりにくい安全なまちをめざして、治安に対する意識や安全・安心なまちづくりに対する意見、要望を把握し、「第3次広島市安全なまちづくりの推進に関する基本計画」改定の施策展開の基礎資料とするため調査を実施した。

## 2 調査の方法

### (1) 調査対象

広島市にお住まいの18歳以上の方の中から3,000人を無作為抽出

### (2) 調査方法

郵送法・無記名方式

### (3) 調査時期

令和元年12月11日（水）～令和2年2月3日（月）

## 3 回収状況

(1) 調査票配布数                      3,000 票

(2) 有効回収数                      1,363 票                      有効回収率                      45.4%

## 4 報告書の見方

(1) 本文及び図中に示した調査結果の数値は百分比（％）で示してある。これらの数値は小数点以下第2位を四捨五入しているため、全項目の回答比率の合計が100.0%とならない場合がある。

(2) 複数の回答を求めた質問では、回答比率の合計が100.0%を超えることがある。

(3) 回答者数20人以下の回答傾向は記述しないこととする。



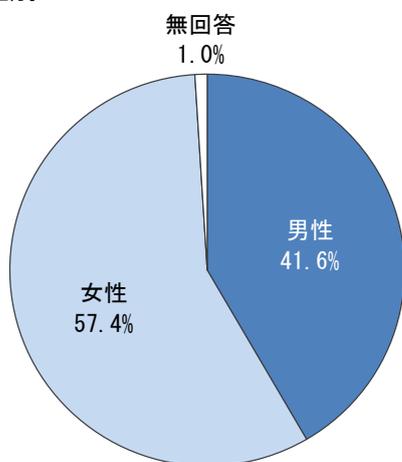
## II 調查結果



## II 調査結果

### —回答者の属性—

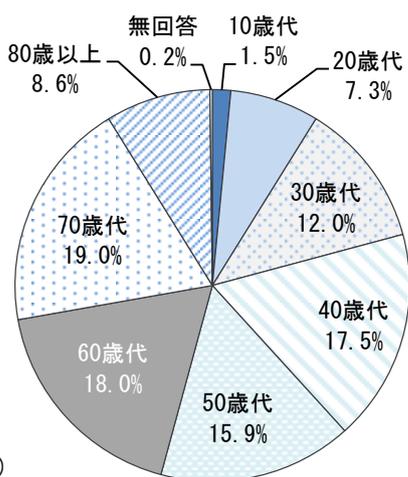
#### (1) 性別



(n=1,363)

	人数	(%)
男性	567	41.6
女性	783	57.4
無回答	13	1.0
合計	1,363	100.0

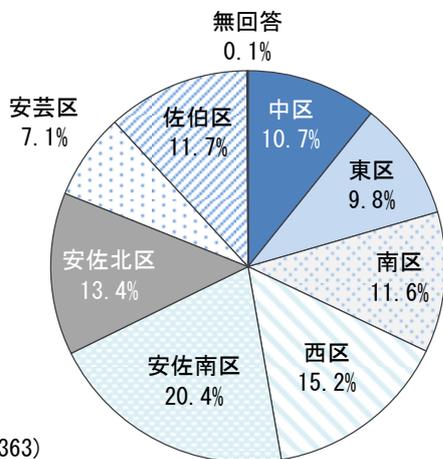
#### (2) 年代



(n=1,363)

	人数	(%)
10歳代	21	1.5
20歳代	99	7.3
30歳代	163	12.0
40歳代	238	17.5
50歳代	217	15.9
60歳代	246	18.0
70歳代	259	19.0
80歳以上	117	8.6
無回答	3	0.2
合計	1,363	100.0

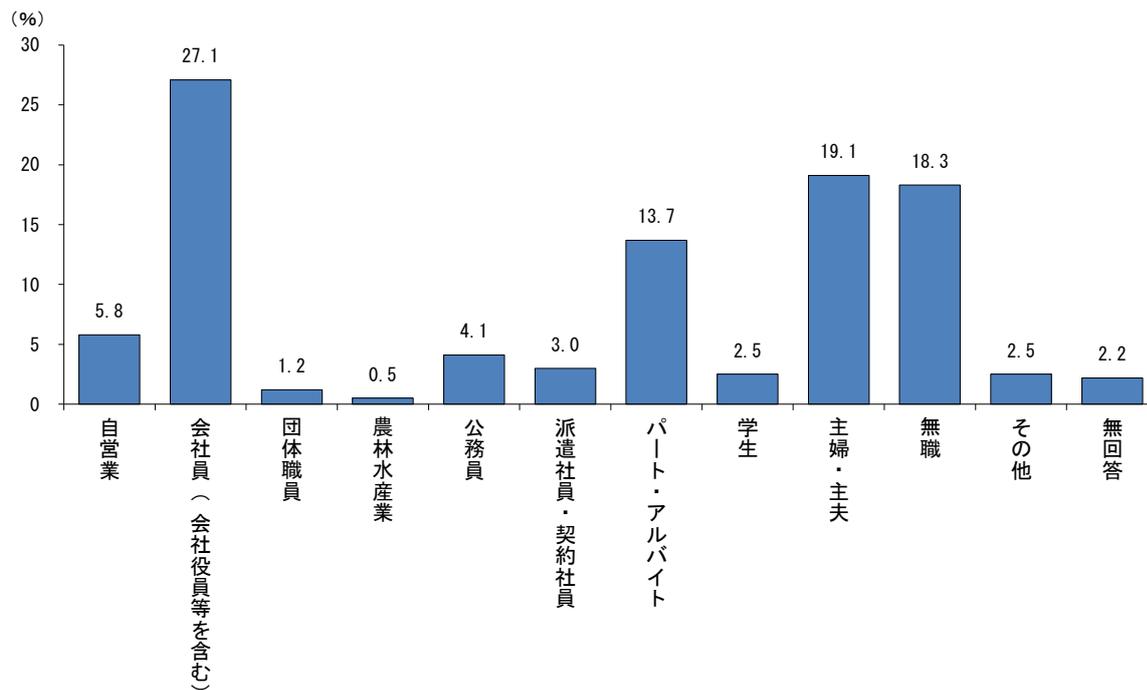
#### (3) 居住地区



(n=1,363)

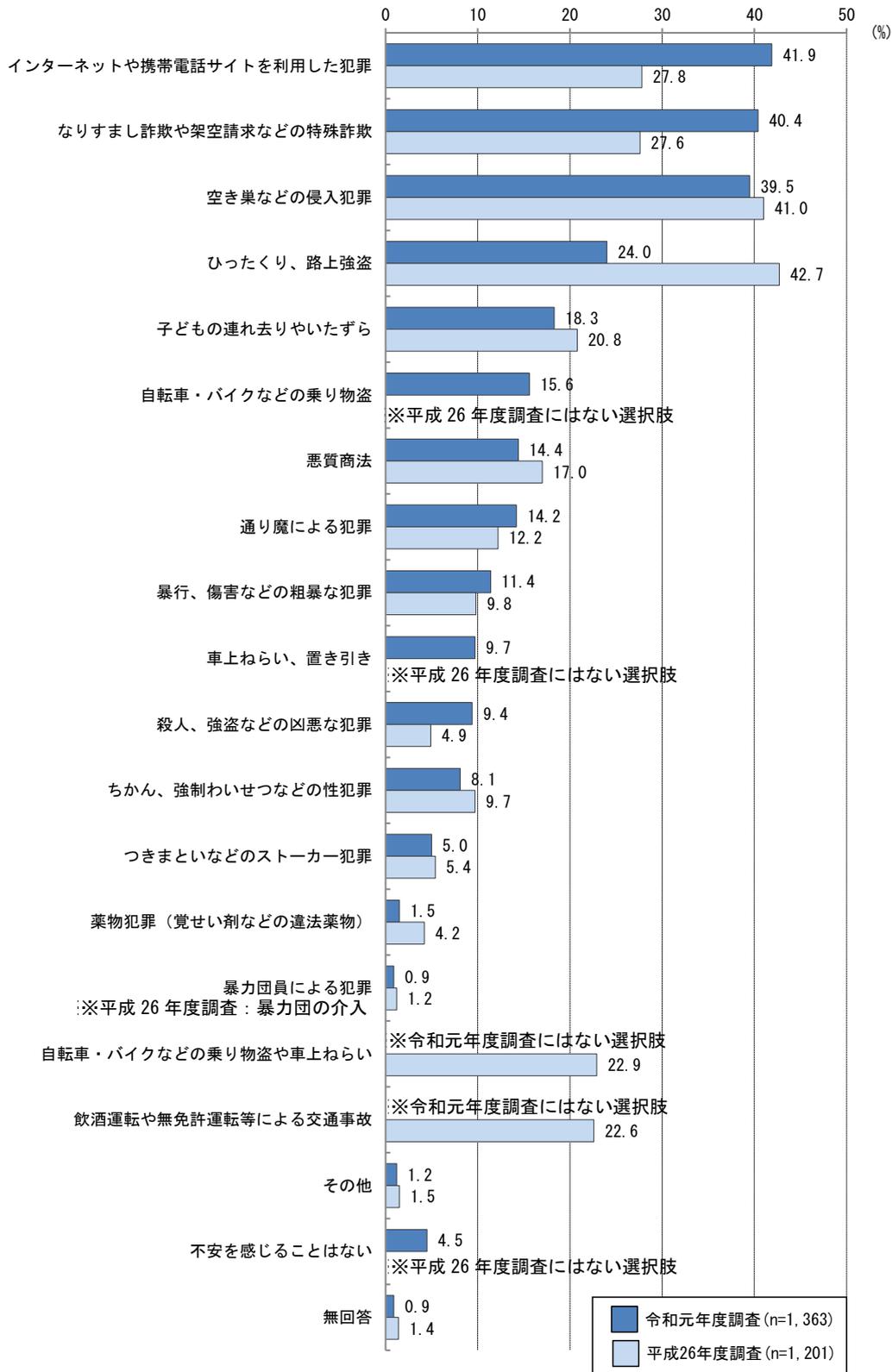
	人数	(%)
中区	146	10.7
東区	134	9.8
南区	158	11.6
西区	207	15.2
安佐南区	278	20.4
安佐北区	182	13.4
安芸区	97	7.1
佐伯区	159	11.7
無回答	2	0.1
合計	1,363	100.0

(4) 職業



	人数	(%)
自営業	79	5.8
会社員 (会社役員等を含む)	369	27.1
団体職員	17	1.2
農林水産業	7	0.5
公務員	56	4.1
派遣社員・契約社員	41	3.0
パート・アルバイト	187	13.7
学生	34	2.5
主婦・主夫	260	19.1
無職	249	18.3
その他	34	2.5
無回答	30	2.2
合計	1,363	100.0

問5 あなたが、日常生活において、自分や身近な人が犯罪にあうかもしれないと、不安を感じることは何ですか。(〇は、3つ以内)

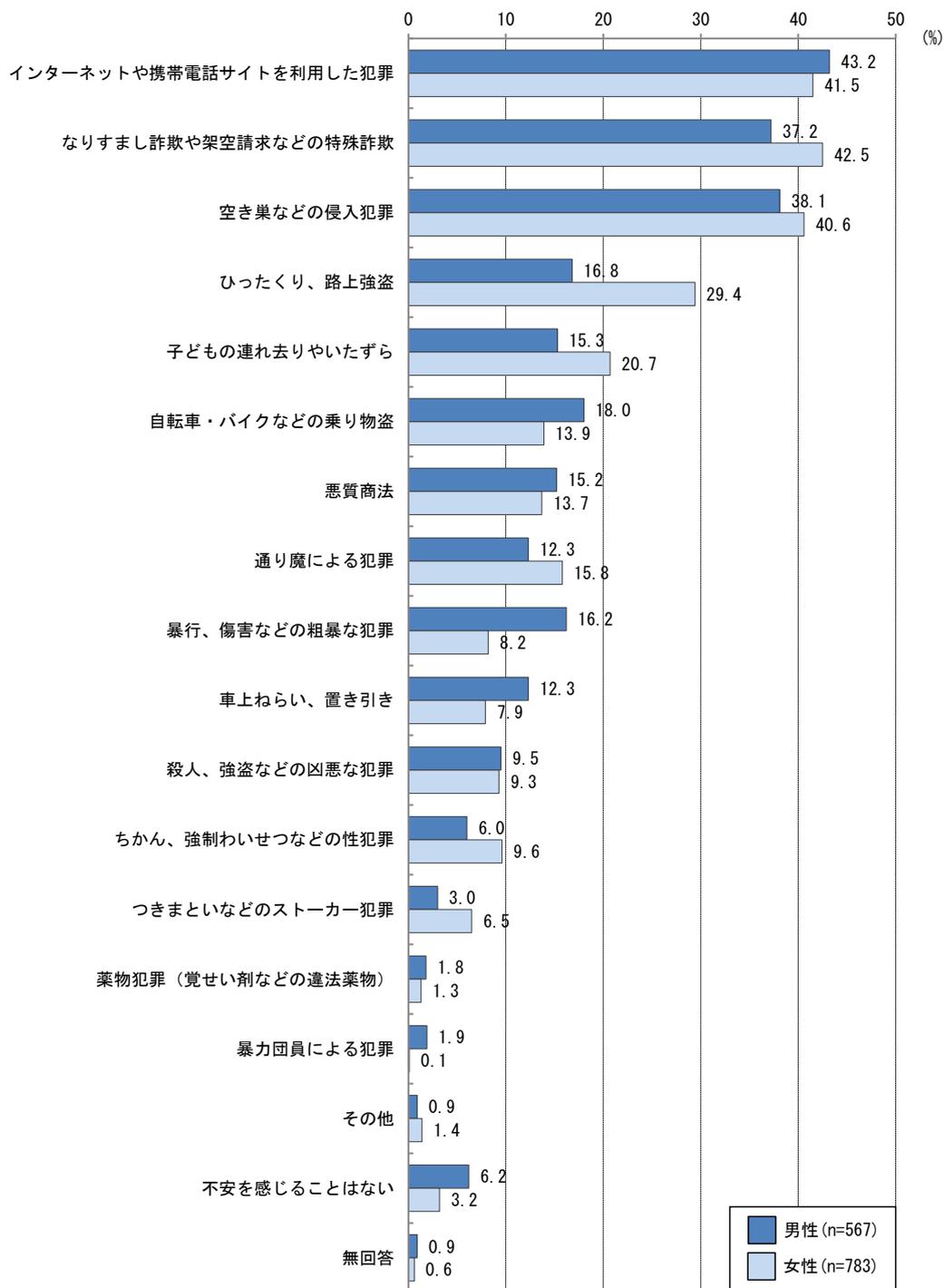


自分や身近な人が犯罪にあうかもしれないと不安を感じることについて、「インターネットや携帯電話サイトを利用した犯罪」との回答が41.9%と最も高く、次いで「なりすまし詐欺や架空請求などの特殊詐欺」(40.4%)、「空き巣などの侵入犯罪」(39.5%)などの順となっている。また、「不

安を感じることはない」との回答は4.5%となっている。

前回調査と比較すると、「インターネットや携帯電話サイトを利用した犯罪」との回答は14.1ポイント、「なりすまし詐欺や架空請求などの特殊詐欺」との回答は12.8ポイント今回調査が前回調査を上回っている。一方、「ひったくり、路上強盗」との回答は今回調査が前回調査を18.7ポイント下回っている。前回調査に比べ、インターネットや架空請求などパソコンや携帯電話を通じた犯罪が多くなっている。

【図表 自分や身近な人が犯罪にあうかもしれないと不安を感じること（性別）】



自分や身近な人が犯罪にあうかもしれないと不安を感じることについて、性別にみると、「なりすまし詐欺や架空請求などの特殊詐欺」との回答は女性（42.5%）が男性（37.2%）を5.3ポイント、「ひったくり、路上強盗」との回答は女性（29.4%）が男性（16.8%）を12.6ポイント、「子どもの連れ去りやいたずら」との回答は女性（20.7%）が男性（15.3%）を5.4ポイント上回っている。一方、「暴行、傷害などの粗暴な犯罪」との回答は男性（16.2%）が女性（8.2%）を8.0ポイント上回っている。

【図表 自分や身近な人が犯罪にあうかもしれないと不安を感じること（年代別）】

		(%)								
		件数	犯罪電話インターネットを利用した携帯	なりすまし詐欺や架空請求などの特殊詐欺	空き巣などの侵入犯罪	ひったくり、路上強盗	子どもの連れ去りやいたずら	自転車・バイクなどの乗り物盗	悪質商法	通り魔による犯罪
全体		1,363	41.9	40.4	39.5	24.0	18.3	15.6	14.4	14.2
年代別	10歳代	21	57.1	28.6	9.5	14.3	4.8	52.4	0.0	0.0
	20歳代	99	44.4	30.3	20.2	19.2	12.1	17.2	10.1	22.2
	30歳代	163	42.9	25.2	28.2	26.4	44.2	16.0	6.1	22.1
	40歳代	238	45.4	34.9	39.1	18.5	39.9	17.2	7.6	20.2
	50歳代	217	53.0	41.5	40.1	26.3	8.3	22.6	14.3	13.4
	60歳代	246	48.8	52.8	41.5	22.4	11.4	15.4	15.0	9.8
	70歳代	259	32.4	44.0	49.4	29.7	7.7	8.9	20.5	8.5
	80歳以上	117	15.4	48.7	51.3	23.9	2.6	6.0	30.8	10.3

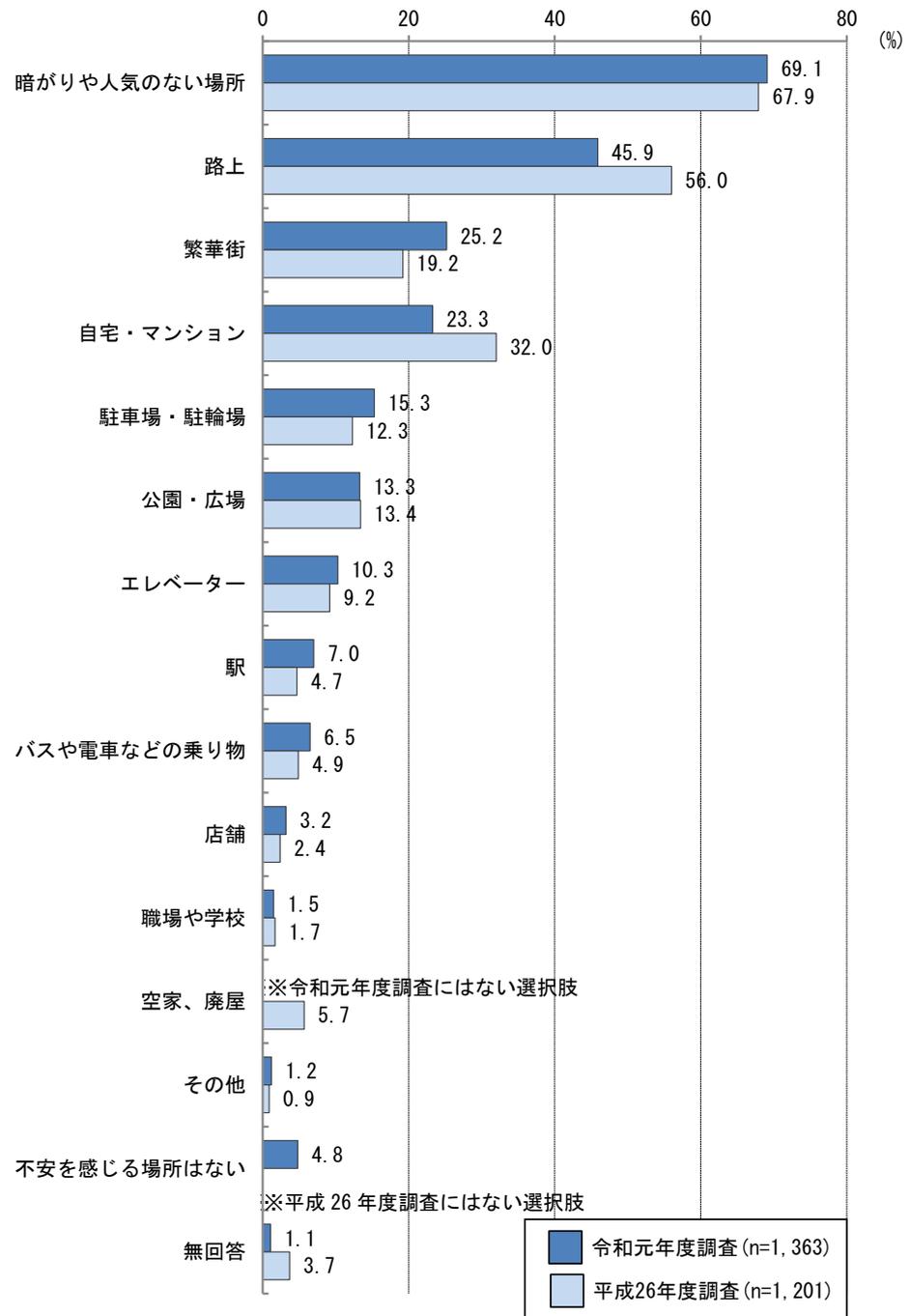
自分や身近な人が犯罪にあうかもしれないと不安を感じることに、年代別にみると、10～60歳代は「インターネットや携帯電話サイトを利用した犯罪」との回答が高く、他に10歳代では「自転車・バイクなどの乗り物盗」、30歳代では「子どもの連れ去りやいたずら」との回答が高くなっている。60歳代、80歳以上は「なりすまし詐欺や架空請求などの特殊詐欺」、70歳代、80歳以上は「空き巣などの侵入犯罪」との回答が高くなっている。

【図表 自分や身近な人が犯罪にあうかもしれないと不安を感じること（居住地区別）】

		(%)								
		件数	犯罪電話インターネットを利用した携帯	なりすまし詐欺や架空請求などの特殊詐欺	空き巣などの侵入犯罪	ひったくり、路上強盗	子どもの連れ去りやいたずら	自転車・バイクなどの乗り物盗	悪質商法	通り魔による犯罪
全体		1,363	41.9	40.4	39.5	24.0	18.3	15.6	14.4	14.2
居住地区別	中区	146	38.4	29.5	28.8	32.2	22.6	19.2	13.7	20.5
	東区	134	40.3	41.8	41.0	32.1	16.4	20.9	11.9	11.2
	南区	158	38.0	44.9	29.1	25.9	24.1	20.9	14.6	15.2
	西区	207	49.3	41.5	33.3	23.2	15.9	15.0	10.1	11.1
	安佐南区	278	44.6	41.7	42.1	20.5	18.3	12.9	14.0	14.4
	安佐北区	182	41.2	39.6	48.4	14.3	18.7	9.3	18.1	15.9
	安芸区	97	37.1	42.3	51.5	26.8	12.4	13.4	16.5	15.5
	佐伯区	159	40.3	41.5	44.7	24.5	16.4	16.4	17.6	11.3

自分や身近な人が犯罪にあうかもしれないと不安を感じることについて、居住地区別にみると、南区は「なりすまし詐欺や架空請求などの特殊詐欺」、西区、安佐南区は「インターネットや携帯電話サイトを利用した犯罪」、安佐北区、安芸区、佐伯区は「空き巣などの侵入犯罪」との回答が高くなっている。

問6 あなたが、日常生活において、自分や身近な人が犯罪にあうかもしれないと、不安を感じる場所はどこですか。（〇は、3つ以内）

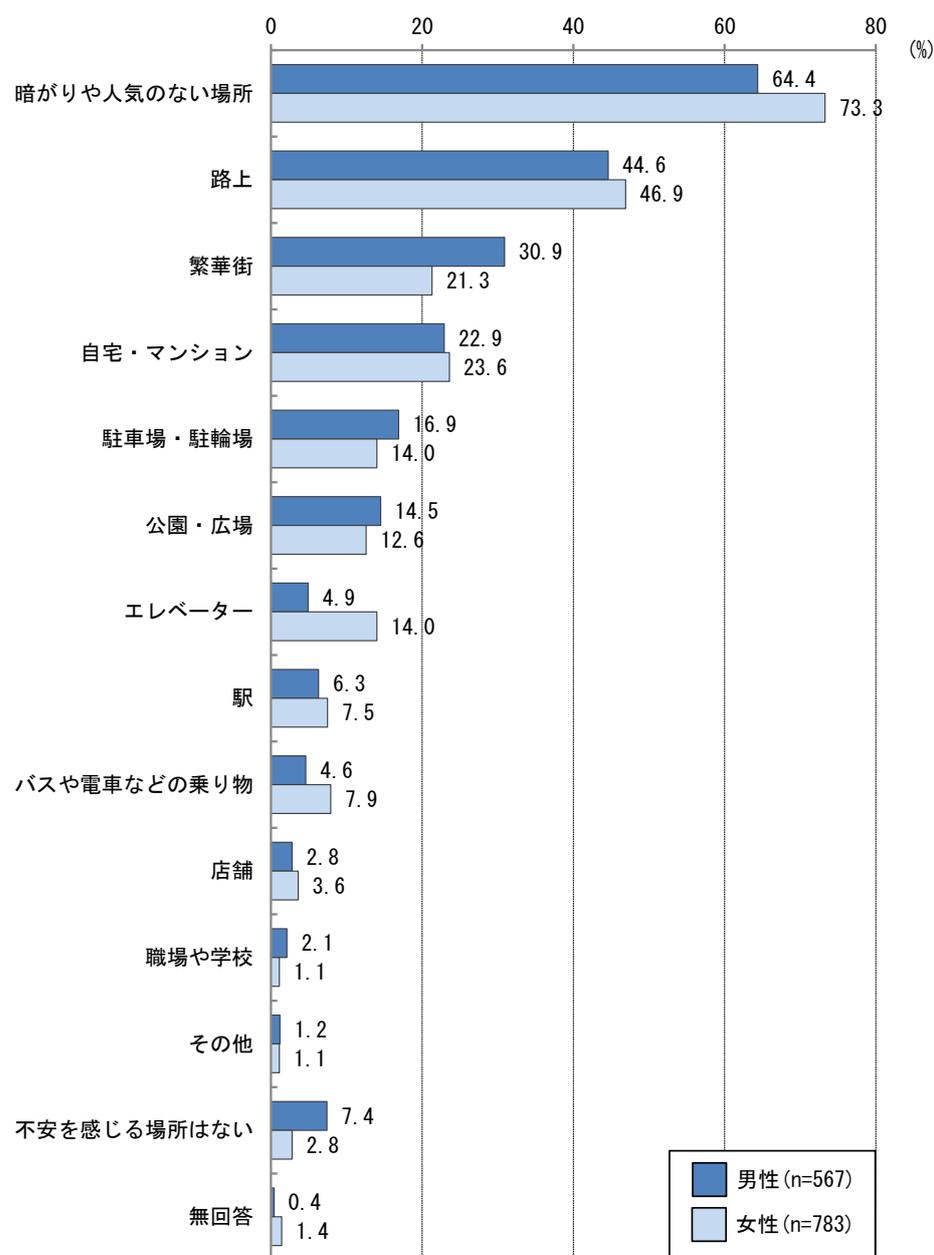


自分や身近な人が犯罪にあうかもしれないと不安を感じる場所について、「暗がりや人気のない場所」との回答が69.1%と最も高く、次いで「路上」（45.9%）、「繁華街」（25.2%）、「自宅・マンション」（23.3%）などの順となっている。また、「不安を感じる場所はない」との回答は4.8ポイントとなっている。

特に「暗がりや人気のない場所」、「路上」で自分や身近な人が犯罪にあうかもしれないと不安に感じている。

前回調査と比較すると、「路上」との回答は10.1ポイント、「自宅・マンション」との回答は8.7ポイント今回調査が前回調査を下回っている。一方、「繁華街」との回答は今回調査が前回調査を6.0ポイント上回っている。

【図表 自分や身近な人が犯罪にあうかもしれないと不安を感じる場所（性別）】



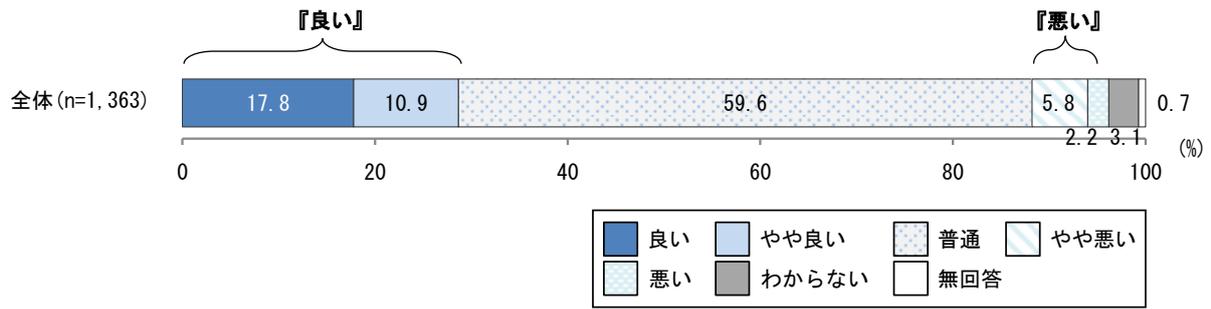
自分や身近な人が犯罪にあうかもしれないと不安を感じる場所について、性別にみると、「暗がりや人気のない場所」との回答は女性（73.3%）が男性（64.4%）を8.9ポイント、「エレベーター」との回答は女性（14.0%）が男性（4.9%）を9.1ポイント上回っている。一方、「繁華街」との回答は男性（30.9%）が女性（21.3%）を9.6ポイント上回っている。

【図表 自分や身近な人が犯罪にあうかもしれないと不安を感じる場所（居住地区別）】

		(%)							
		件数	所暗がりや人気のない場	路上	繁華街	自宅・マンション	駐車場・駐輪場	公園・広場	エレベーター
全体		1,363	69.1	45.9	25.2	23.3	15.3	13.3	10.3
居住地区別	中区	146	70.5	45.9	30.1	19.9	12.3	17.1	15.1
	東区	134	70.1	47.0	23.1	23.9	23.9	14.2	5.2
	南区	158	70.9	48.7	27.2	16.5	19.6	14.6	12.0
	西区	207	67.1	44.9	28.5	22.2	10.6	10.1	11.6
	安佐南区	278	69.1	45.0	26.6	23.7	13.7	11.5	8.6
	安佐北区	182	67.0	44.5	23.6	24.2	14.3	15.4	9.9
	安芸区	97	72.2	53.6	9.3	24.7	16.5	17.5	9.3
	佐伯区	159	69.2	42.1	25.8	32.1	15.7	10.1	10.7

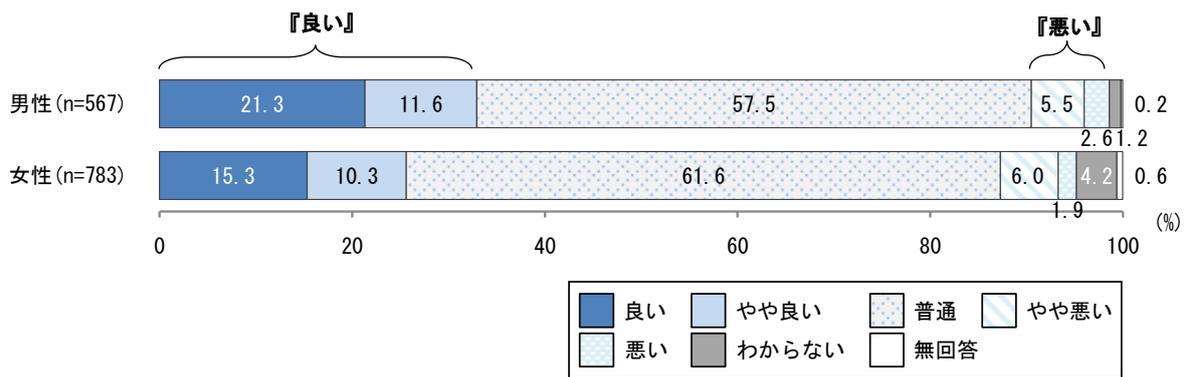
自分や身近な人が犯罪にあうかもしれないと不安を感じる場所について、居住地区別にみると、すべての地域で「暗がりや人気のない場所」との回答が7割前後と高くなっている。

問7 あなたは、お住まいの地域の治安についてどう感じていますか。(〇は、1つ)



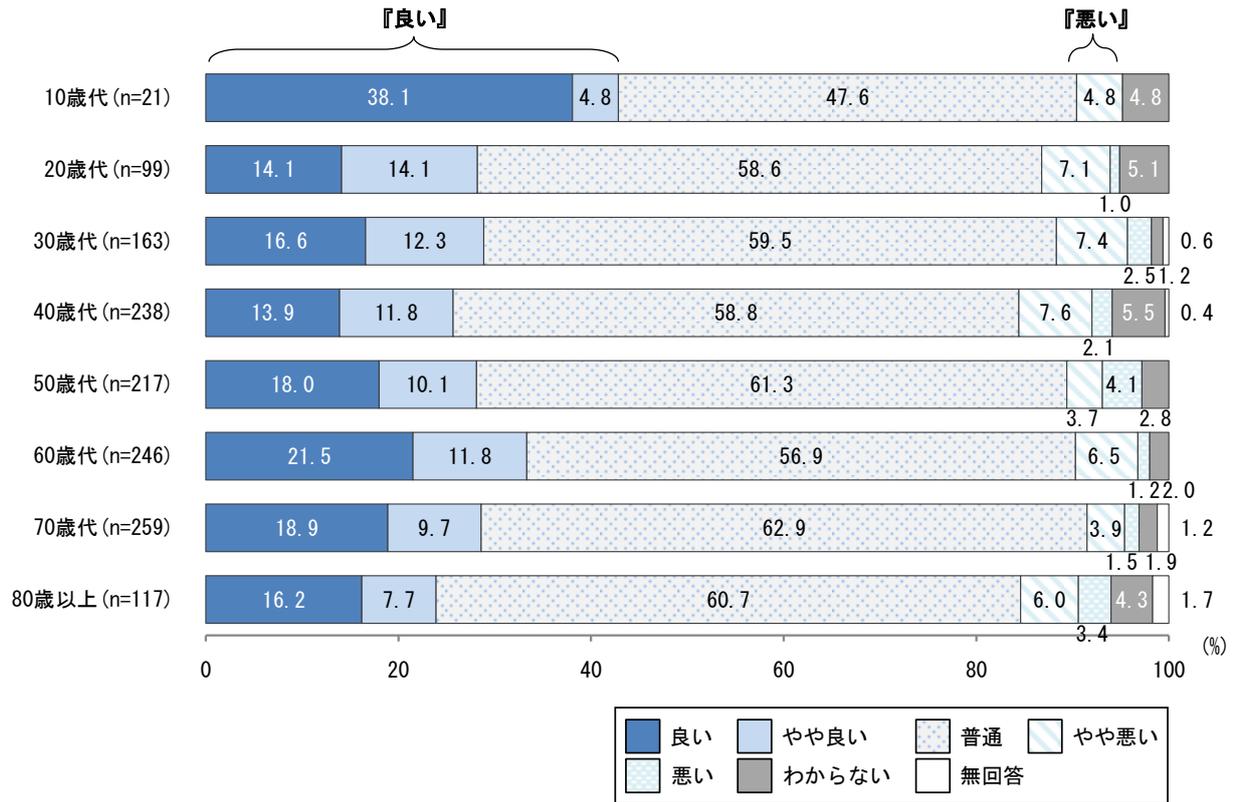
地域の治安について、『良い』（「良い」と「やや良い」を合計した割合）との回答が28.7%、「普通」との回答が59.6%、『悪い』（「悪い」と「やや悪い」を合計した割合）との回答が8.0%などとなっている。

【図表 地域の治安（性別）】



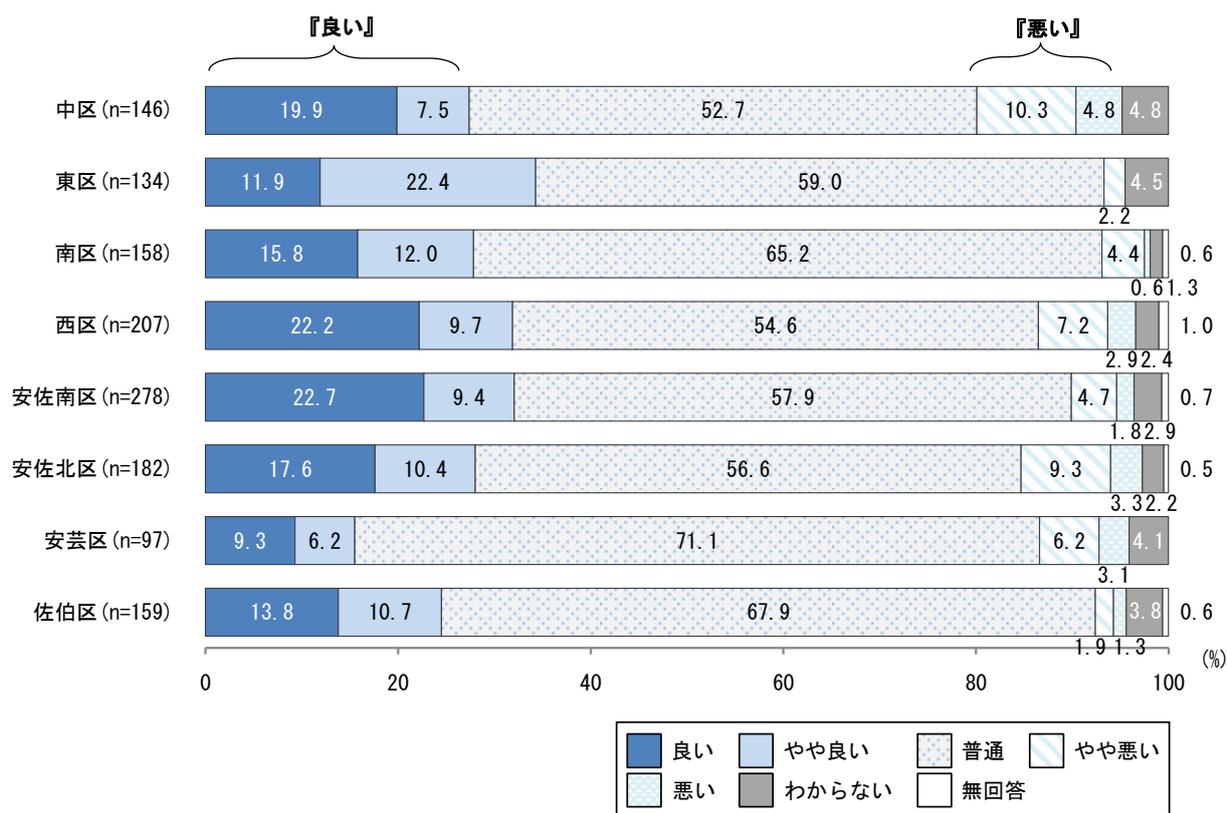
地域の治安について、性別にみると、『良い』との回答は男性（32.9%）が女性（25.6%）を7.3ポイント上回っている。

【図表 地域の治安（年代別）】



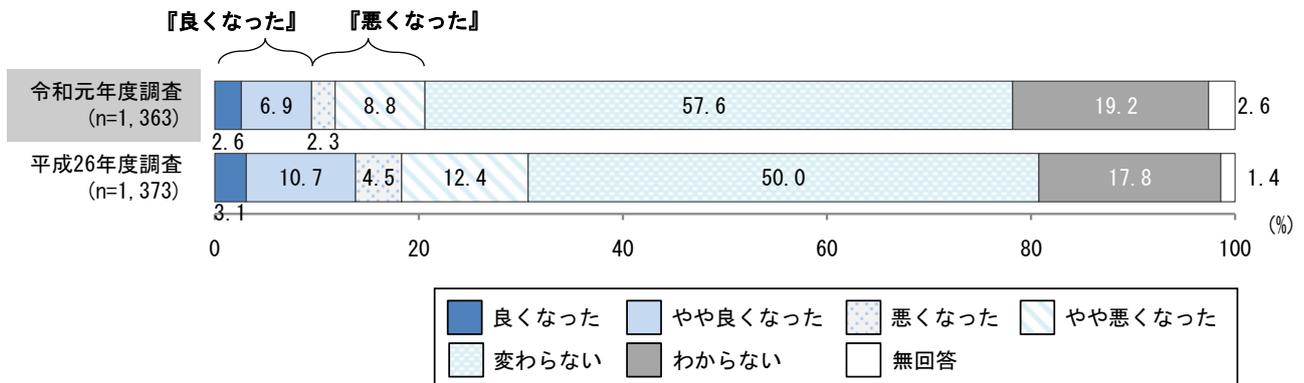
地域の治安について、年代別にみると、10歳代は『良い』との回答が4割超と他の年代に比べ高くなっている。

【図表 地域の治安（居住地区別）】



地域の治安について、居住地区別にみると、『良い』との回答は東区で3割台半ば、『悪い』との回答は中区で1割台半ばと高くなっている。

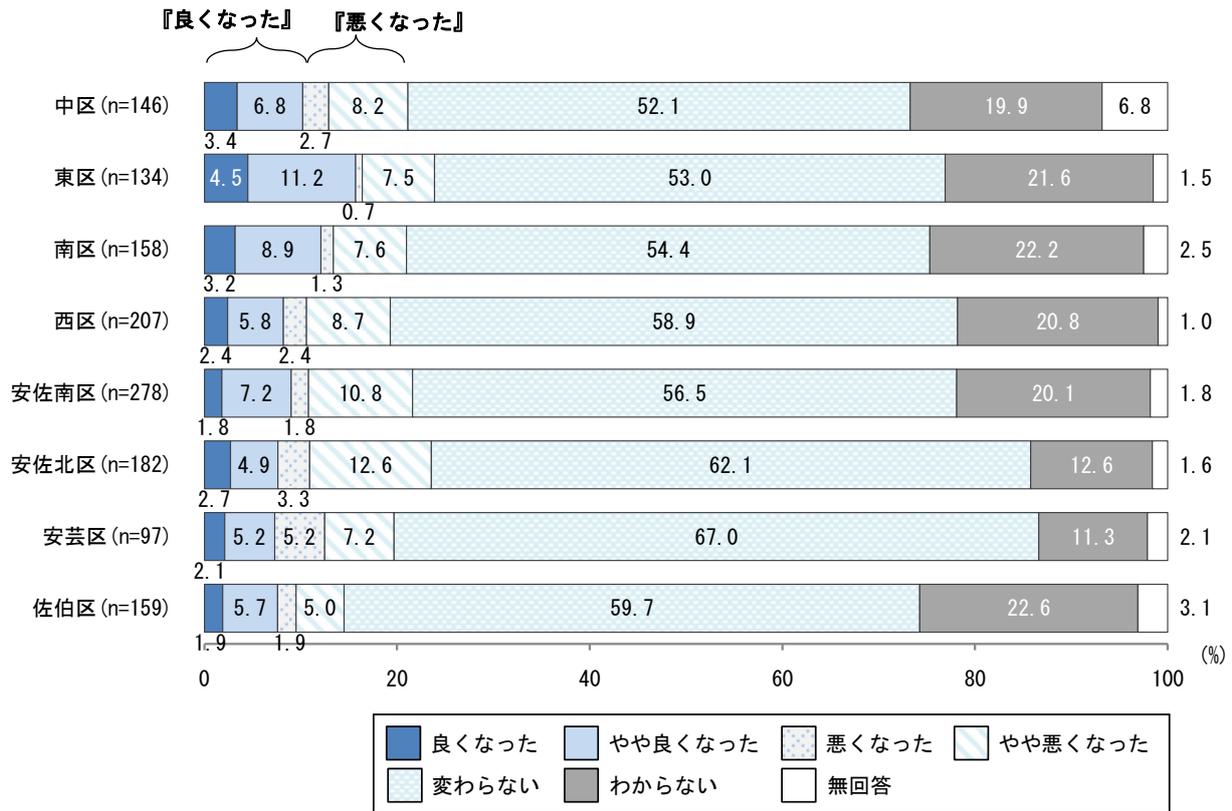
問8 あなたは、お住まいの地域の治安について、以前（おおむね5年前）と比べてどのように感じますか。（〇は、1つ）



以前と比べた地域の治安について、『良くなった』（「良くなった」と「やや良くなった」を合計した割合）との回答は9.5%、『悪くなった』（「悪くなった」と「やや悪くなった」を合計した割合）との回答は11.1%、「変わらない」との回答は57.6%などとなっている。

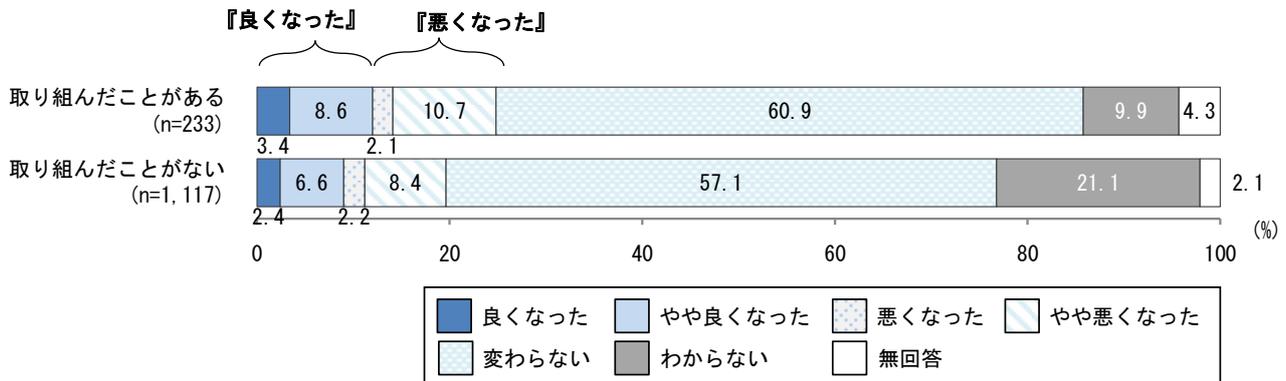
前回調査と比較すると、『悪くなった』との回答は今回調査が前回調査を5.8ポイント下回っており、「変わらない」との回答は今回調査が前回調査を7.6ポイント上回っている。つまり、体感治安が良くなったと感じる人の割合は9.5%と前回調査よりさらに低くなっているが、『悪くなった』との回答も減っているため、以前と比べ体感治安は好転してはいないが悪化もしていない。

【図表 以前と比べた地域の治安（居住地区別）】



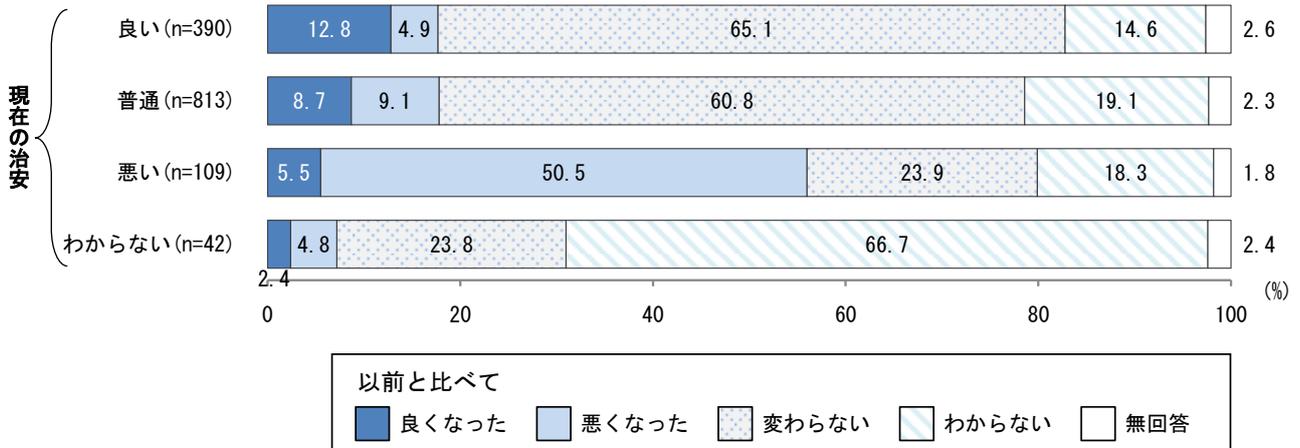
以前と比べた地域の治安について、居住地区別にみると、『良くなった』との回答は東区で1割台半ば、『悪くなった』との回答は安佐北区で1割台半ば、「変わらない」との回答は安芸区で約7割と高くなっている。

【図表 以前と比べた地域の治安（防犯活動への取組の有無別）】



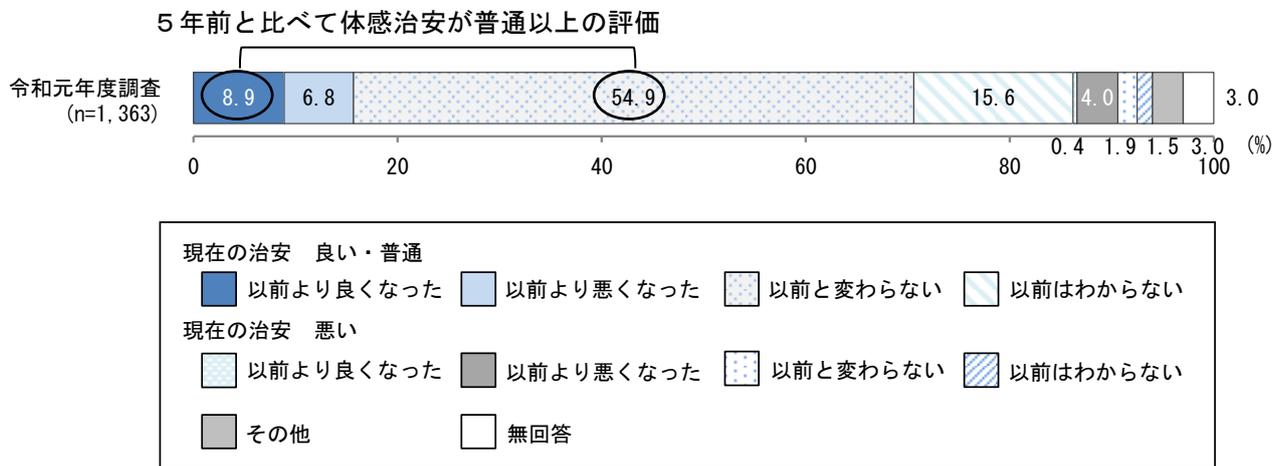
以前と比べた地域の治安について、防犯活動への取組の有無別にみると、「わからない」との回答は取り組んだことがない（21.1%）が取り組んだことがある（9.9%）を11.2ポイント上回っている。

問7、問8 以前の治安状況と現在の治安状況



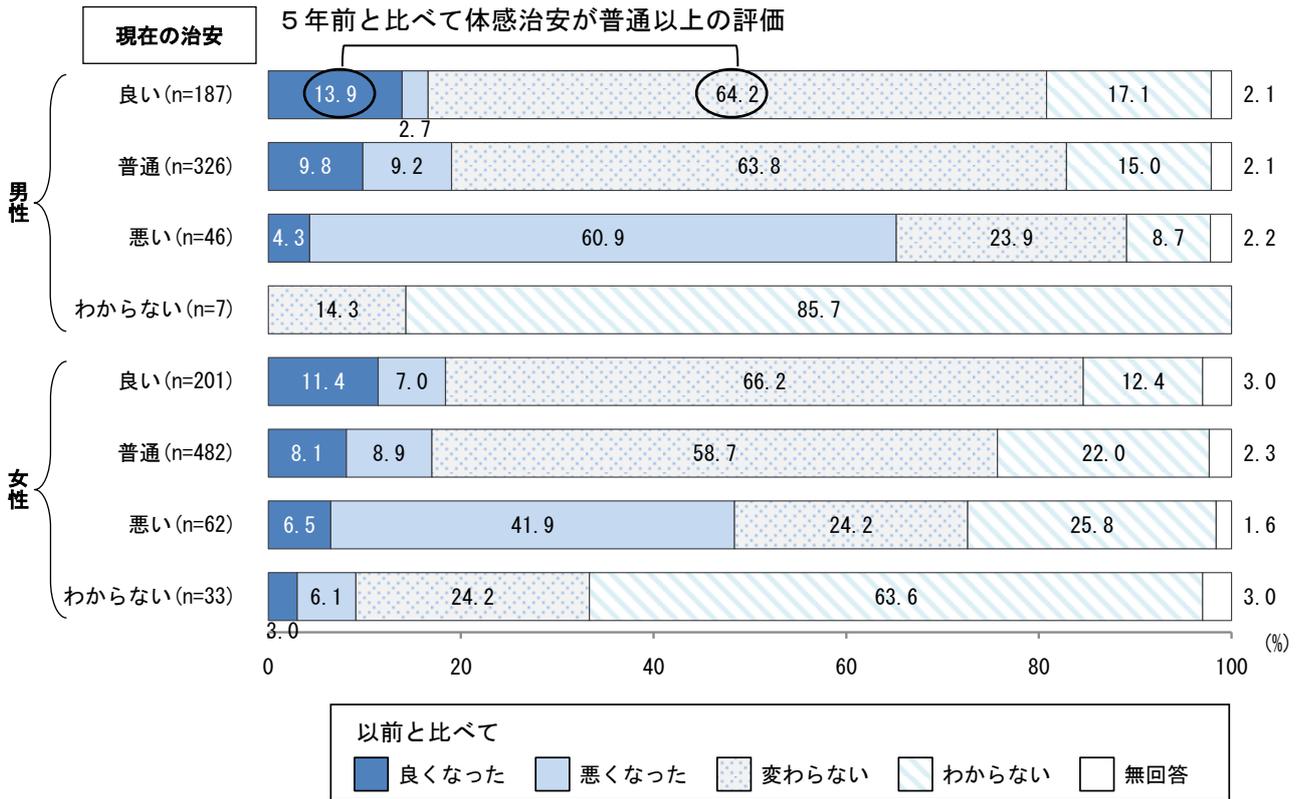
以前の治安状況と現在の治安状況について、「以前と変わらず良い」という評価（現在の治安が『良い』、以前と比べて「変わらない」と回答した人）が6割台半ば、「以前と変わらず普通」という評価（現在の治安が「普通」、以前と比べて「変わらない」と回答した人）が約6割、「以前と比べてさらに悪くなった」という評価（現在の治安が『悪い』、以前と比べて『悪くなった』と回答した人）が約5割となっている。

【以前の治安状況と現在の治安状況】



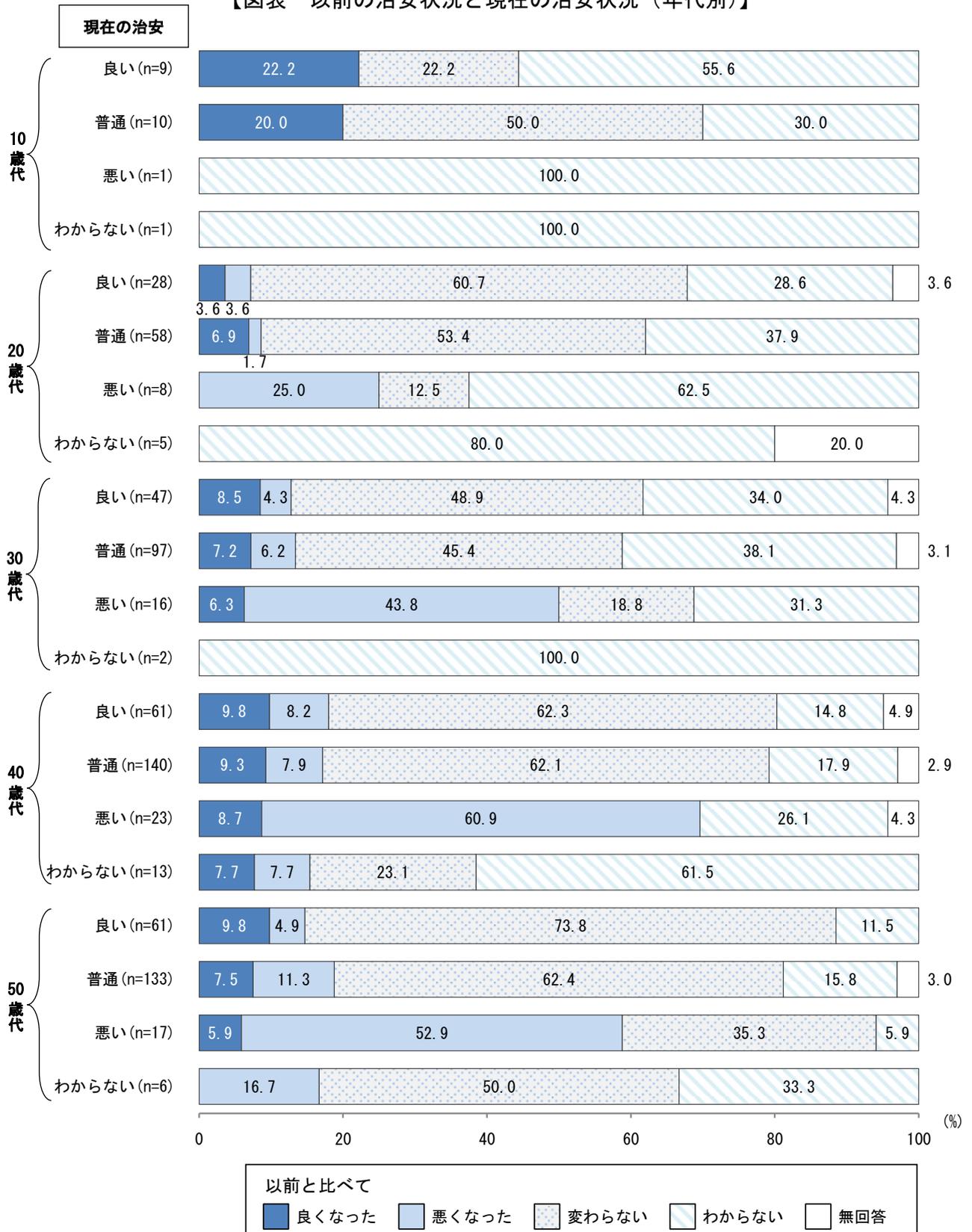
以前の治安状況と現在の治安状況について、現在の治安が良い・普通と感じている人を合算すると、5年前と比べて体感治安が普通以上の評価の人（現在の治安が良い・普通の人で「以前より良くなった」、「以前と変わらない」と回答した人）は63.8%となっている。つまり、過半数の人は5年前より体感治安を肯定的に評価しているため、以前と比べ治安は良くなっていないが現状として治安が悪いと感じているわけではない。

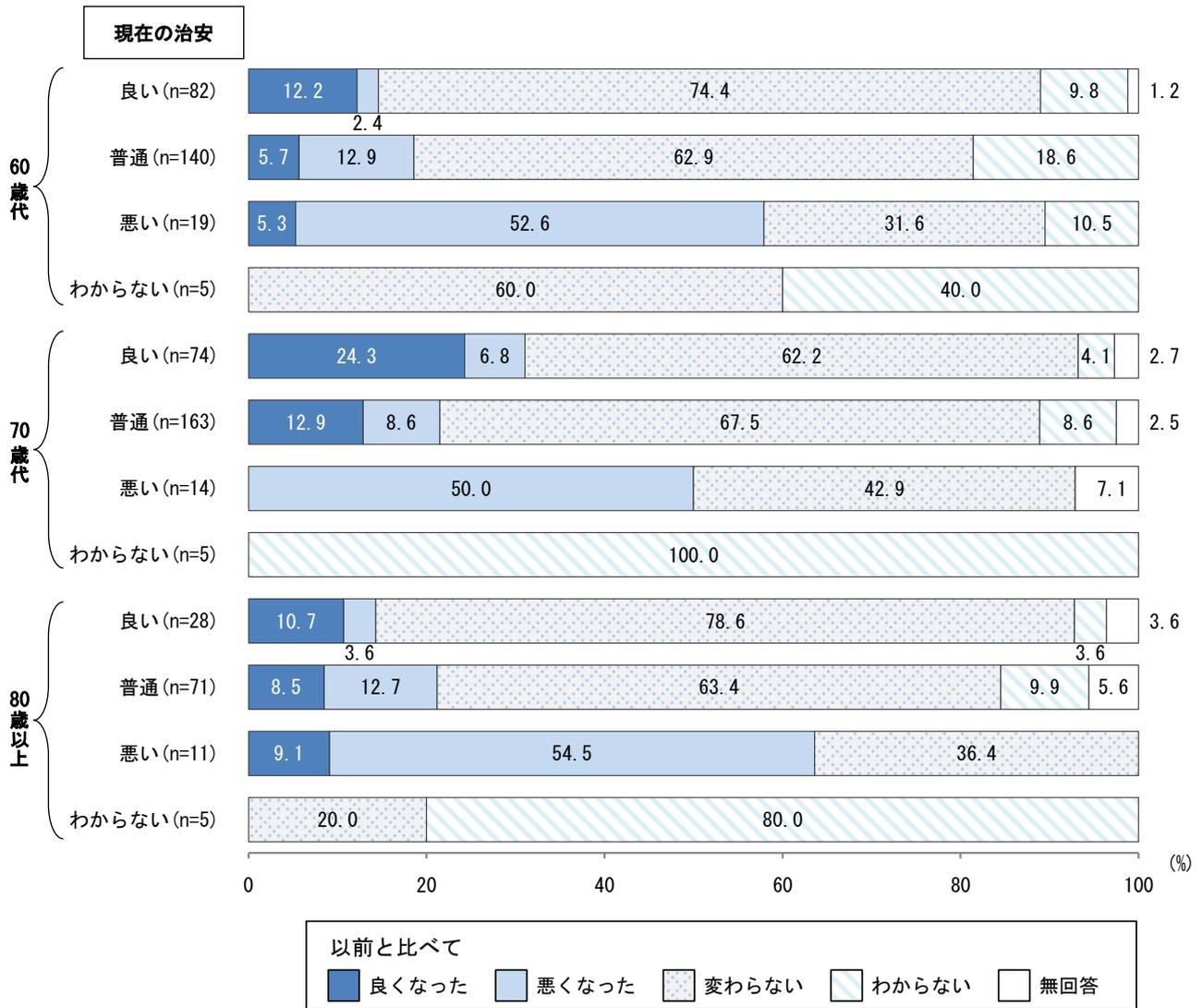
【図表 以前の治安状況と現在の治安状況（性別）】



以前の治安状況と現在の治安状況について、性別にみると、5年前と比べて体感治安が普通以上の評価の人は男女ともに約8割と大きな差はみられない。また、現在の治安を悪いと感じており、以前と比べてさらに悪くなったという評価の人は男性（60.9%）が女性（41.9%）を19.0ポイント上回っている。

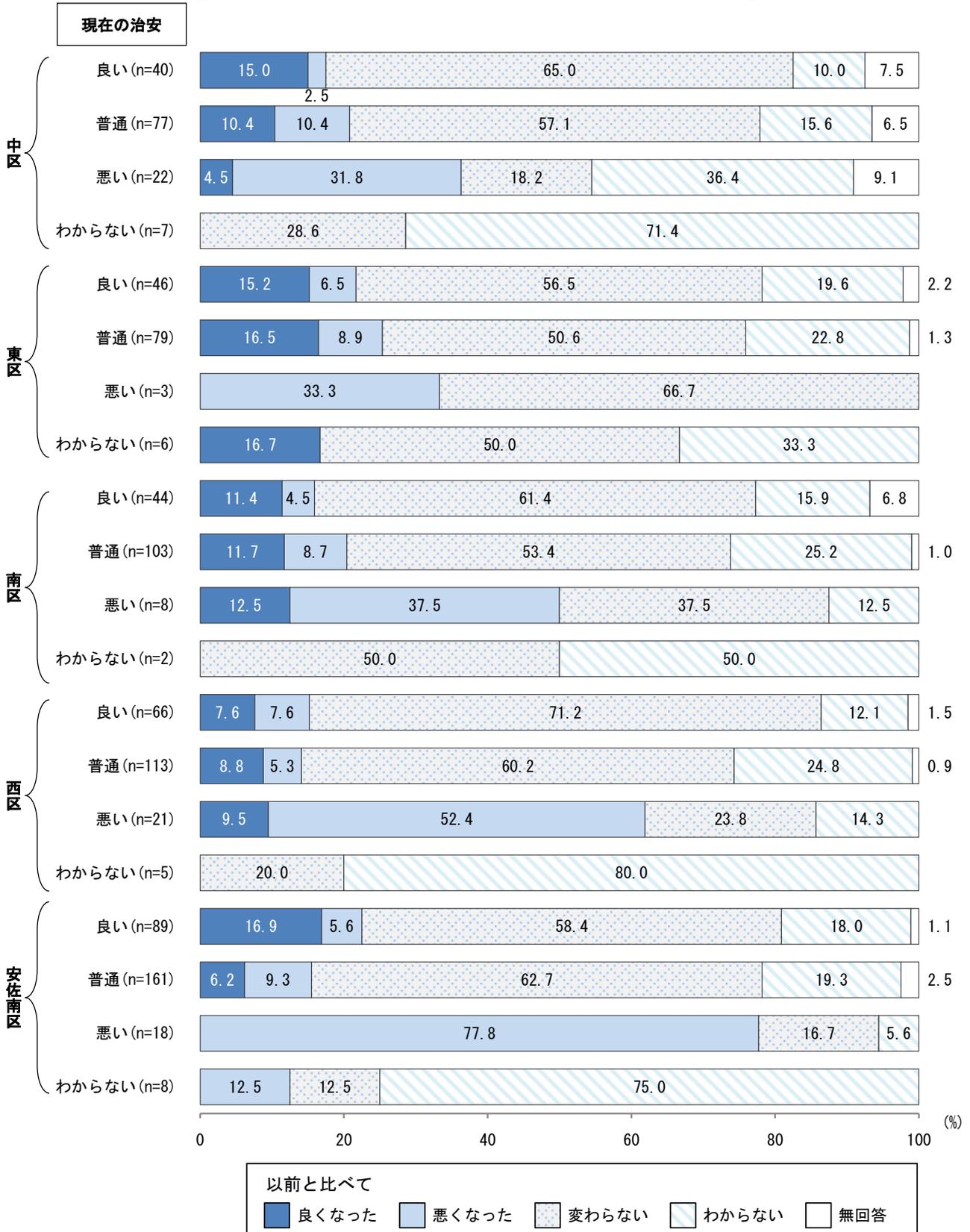
【図表 以前の治安状況と現在の治安状況（年代別）】

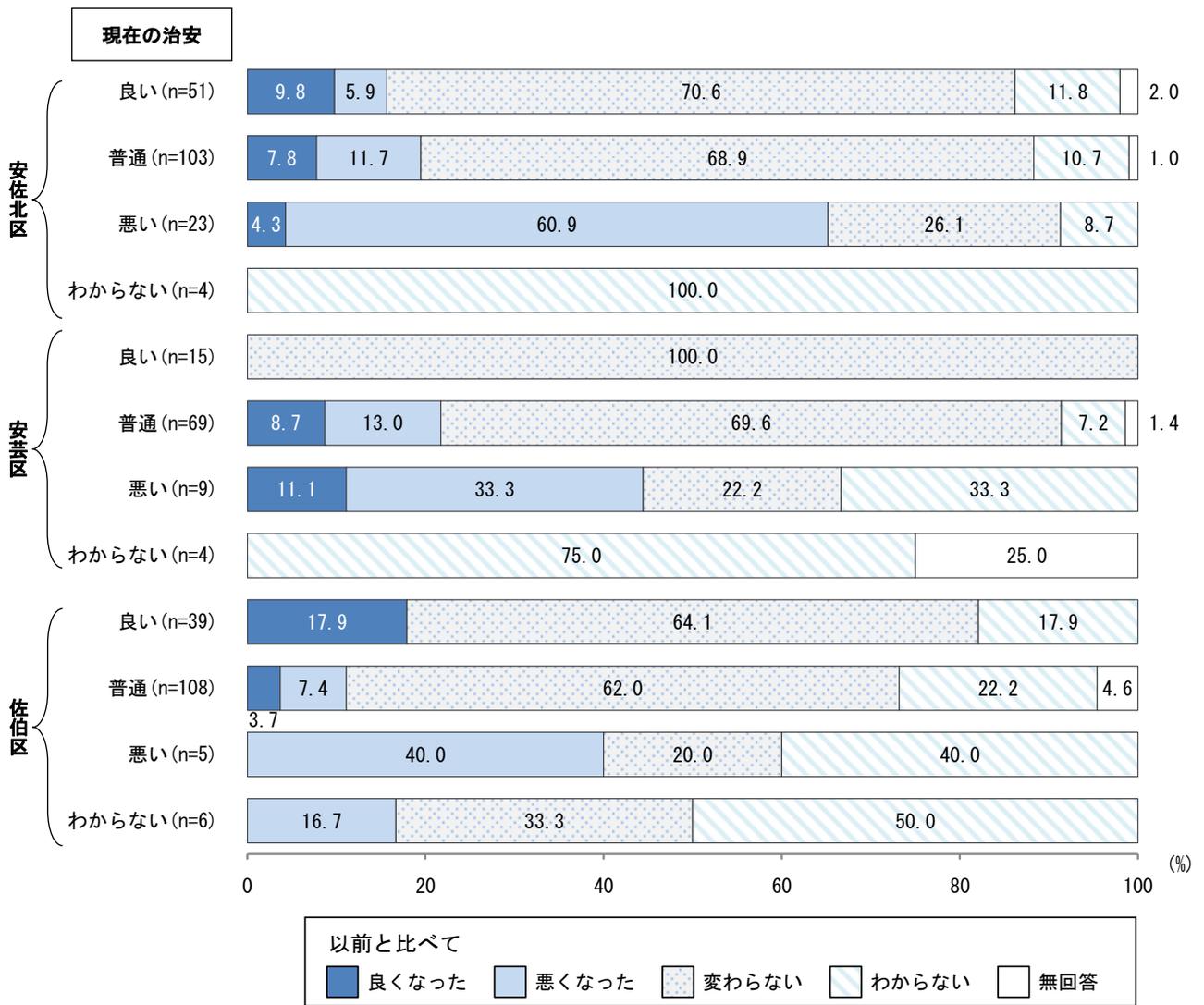




以前の治安状況と現在の治安状況について、年代別にみると、以前と比べてさらに良くなったという評価（現在の治安が『良い』、以前と比べて『良くなった』と回答した人）は70歳代で高くなっている。一方、以前と変わらず良いという評価は30歳代で低くなっている。

【図表 以前の治安状況と現在の治安状況（居住地区別）】

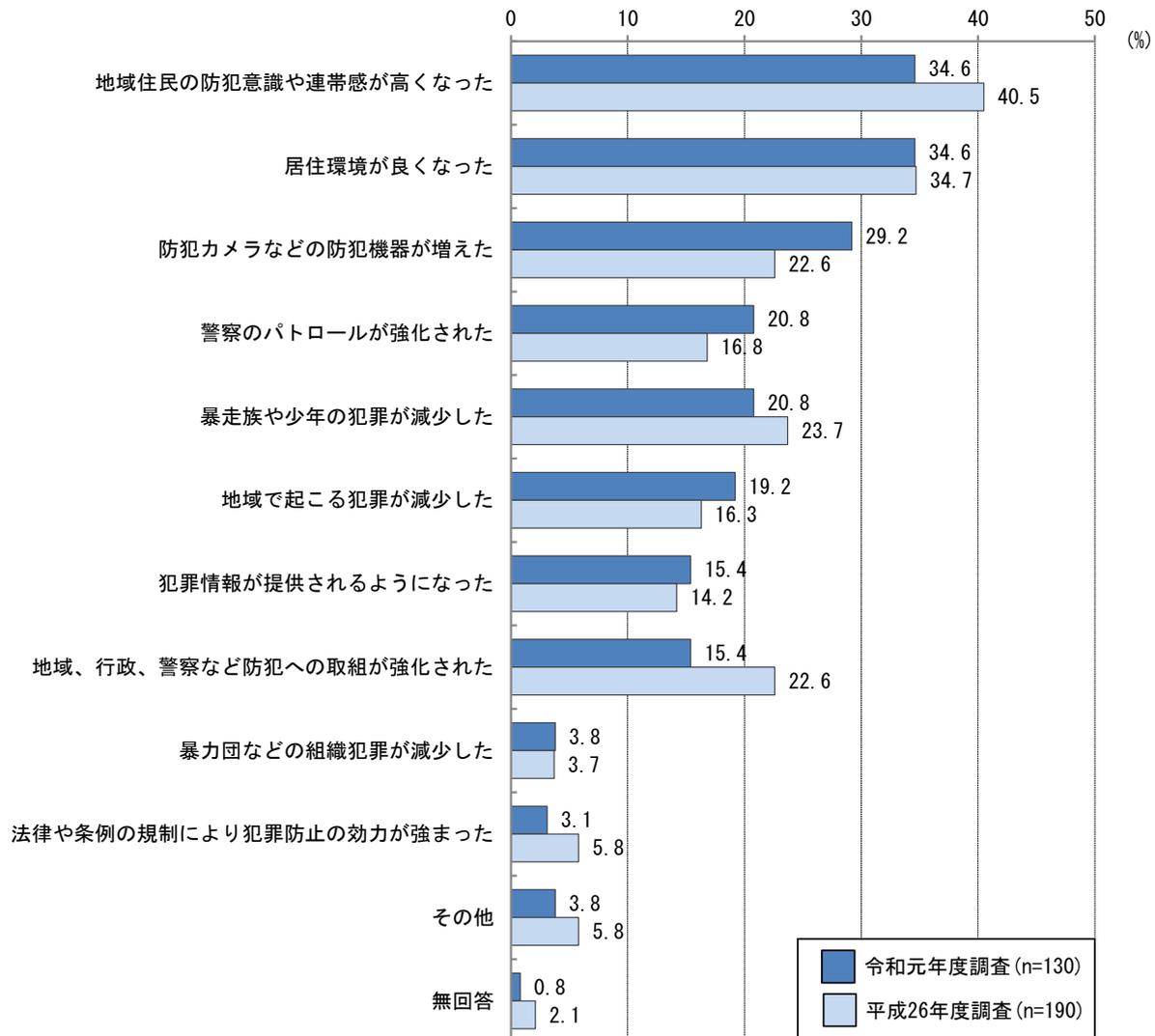




以前の治安状況と現在の治安状況について、居住地区別にみると、以前と比べてさらに悪くなったという評価は西区、安佐北区で高くなっている。

問9 【問8で、「1 良くなった」または「2 やや良くなった」と回答された方】

良くなったと感じる理由をお答えください。(〇は、3つ以内)



地域の治安が以前と比べて良くなったと感じる理由について、「地域住民の防犯意識や連帯感が高くなった」、「居住環境が良くなった」との回答がともに34.6%と最も高く、次いで「防犯カメラなどの防犯機器が増えた」(29.2%)などの順となっている。

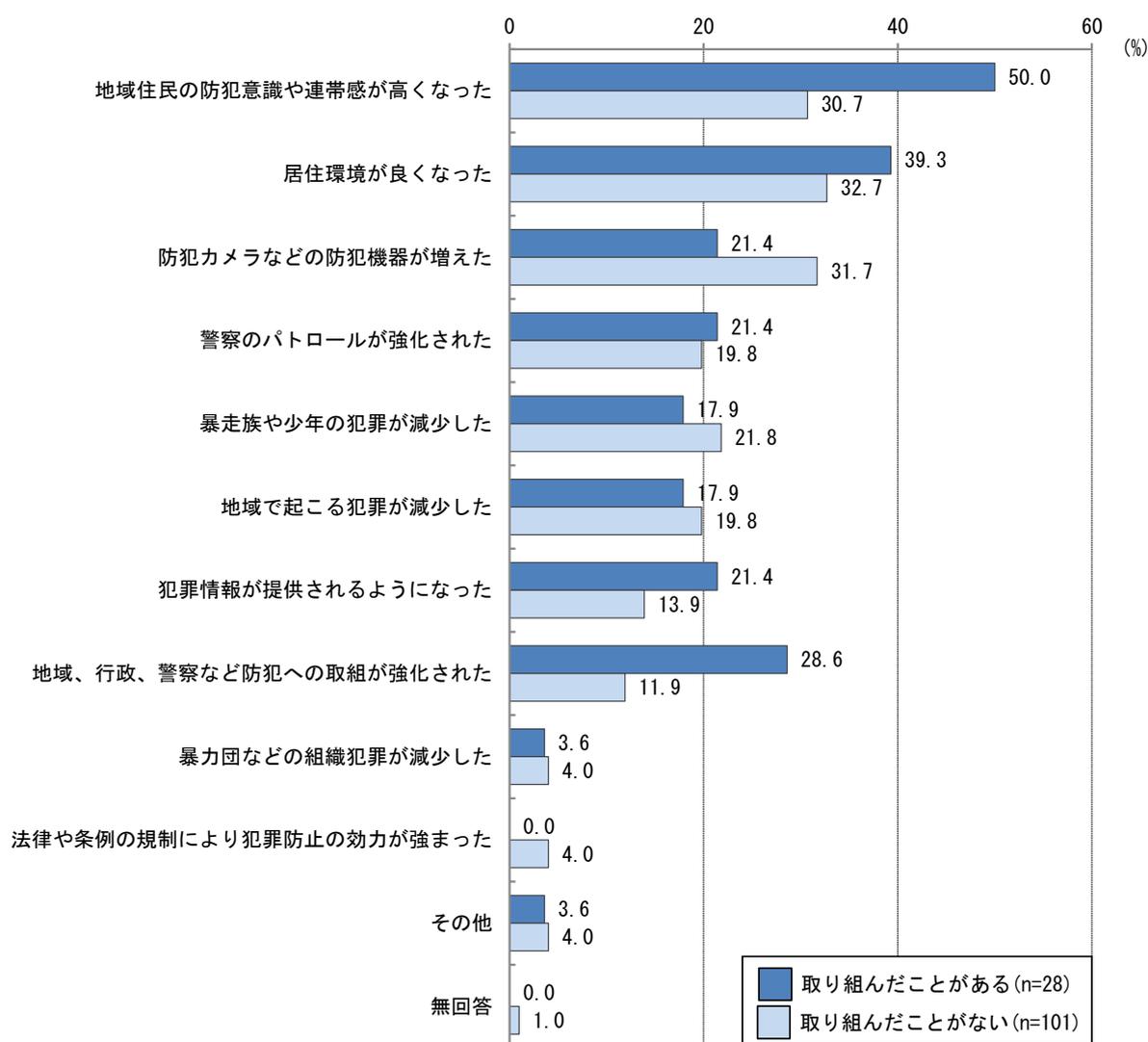
前回調査と比較すると、「地域住民の防犯意識や連帯感が高くなった」との回答は5.9ポイント、「地域、行政、警察など防犯への取組が強化された」との回答は7.2ポイント今回調査が前回調査を下回っている。一方、「防犯カメラなどの防犯機器が増えた」との回答は今回調査が前回調査を6.6ポイント上回っている。

【図表 地域の治安が以前と比べて良くなったと感じる理由（居住地区別）】

		(%)								
		件数	地域住民の防犯意識や連帯感が高くなった	居住環境が良くなった	防犯カメラなどの防犯機器が増えた	警察のパトロールが強化された	暴走族や少年の犯罪が減少した	地域で起こる犯罪が減少した	犯罪情報が提供されるようになった	地域への行政、警察などが強化された
全体		130	34.6	34.6	29.2	20.8	20.8	19.2	15.4	15.4
居住地区別	中区	15	33.3	46.7	53.3	13.3	13.3	13.3	6.7	0.0
	東区	21	38.1	42.9	28.6	23.8	14.3	9.5	19.0	19.0
	南区	19	31.6	26.3	26.3	15.8	10.5	21.1	10.5	26.3
	西区	17	29.4	35.3	41.2	23.5	0.0	29.4	17.6	17.6
	安佐南区	25	40.0	28.0	24.0	8.0	32.0	44.0	16.0	12.0
	安佐北区	14	35.7	35.7	21.4	35.7	28.6	0.0	21.4	28.6
	安芸区	7	42.9	57.1	0.0	14.3	57.1	0.0	14.3	0.0
	佐伯区	12	25.0	16.7	25.0	41.7	33.3	8.3	16.7	8.3

地域の治安が以前と比べて良くなったと感じる理由について、居住地区別にみると、東区、安佐南区では「地域住民の防犯意識や連帯感が高くなった」との回答が高くなっており、他に、東区では「居住環境が良くなった」、安佐南区では「地域で起こる犯罪が減少した」との回答も高くなっている。

【図表 地域の治安が以前と比べて良くなったと感じる理由（防犯活動への取組の有無別）】

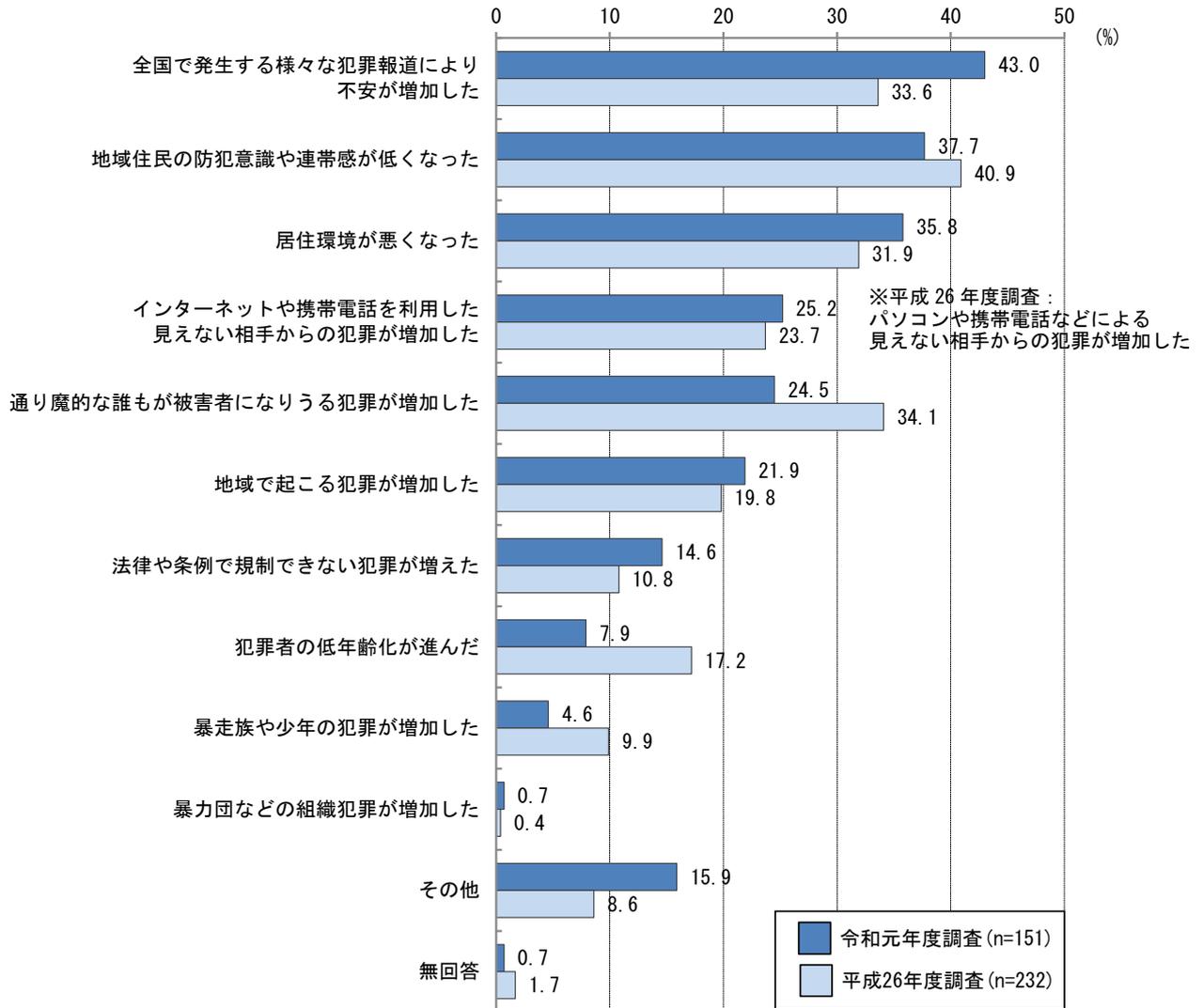


地域の治安が以前と比べて良くなったと感じる理由について、防犯活動への取組の有無別にみると、「地域住民の防犯意識や連帯感が高くなった」との回答は防犯活動に取り組んだことがある人（50.0%）がない人（30.7%）を19.3ポイント、「居住環境が良くなった」との回答は防犯活動に取り組んだことがある人（39.3%）がない人（32.7%）を6.6ポイント、「犯罪情報が提供されるようになった」との回答は防犯活動に取り組んだことがある人（21.4%）がない人（13.9%）を7.5ポイント、「地域、行政、警察など防犯への取組が強化された」との回答は防犯活動に取り組んだことがある人（28.6%）がない人（11.9%）を16.7ポイント上回っている。一方、「防犯カメラなどの防犯機器が増えた」との回答は防犯活動に取り組んだことがない人（31.7%）がある人（21.4%）を10.3ポイント上回っている。

防犯活動に取り組んだことがある人は「地域住民の防犯意識や連帯感が高くなった」、「居住環境が良くなった」、「地域、行政、警察など防犯への取組が強化された」との回答が高くなっているのに対し、取り組んだことがない人は「防犯カメラなどの防犯機器が増えた」との回答が高くなっている。

問10【問8で、「3 悪くなった」または「4 やや悪くなった」と回答された方】

悪くなったと感じる理由をお答えください。(〇は、3つ以内)



地域の治安が以前と比べて悪くなったと感じる理由について、「全国で発生する様々な犯罪報道により不安が増加した」との回答が43.0%と最も高く、次いで「地域住民の防犯意識や連帯感が低くなった」(37.7%)、「居住環境が悪くなった」(35.8%)などの順となっている。

「全国で発生する様々な犯罪報道により、不安が増加した」との回答が高くなっている。

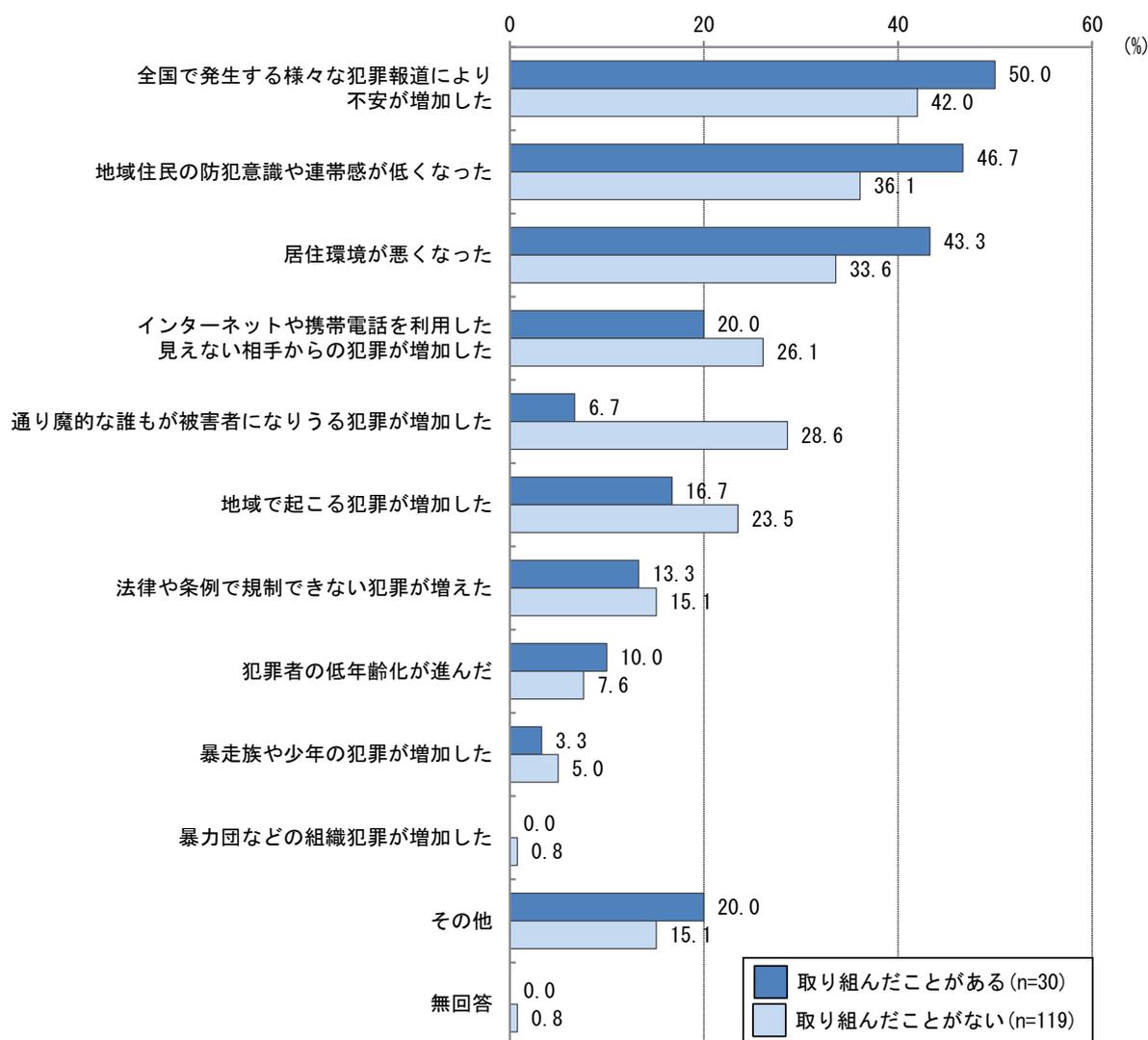
前回調査と比較すると、「全国で発生する様々な犯罪報道により不安が増加した」との回答は今回調査が前回調査を9.4ポイント上回っている。一方、「通り魔的な誰もが被害者になりうる犯罪が増加した」との回答は9.6ポイント、「犯罪者の低年齢化が進んだ」との回答は9.3ポイント、「暴走族や少年の犯罪が増加した」との回答は5.3ポイント今回調査が前回調査を下回っている。

【図表 地域の治安が以前と比べて悪くなったと感じる理由（居住地区別）】

		(%)									
		件数	増加した犯罪発生による不安がな	連帯感が低くなった	居住環境が悪くなった	加えられた手からの犯罪が増	電話を利用した見えな	インターネットや携帯	加害者になり魔的な誰かが被害	加えられた地域で起る犯罪が増	ない法律や条例で規制でき
全体		151	43.0	37.7	35.8	25.2	24.5	21.9	14.6		
居住地区別	中区	16	50.0	31.3	43.8	31.3	25.0	12.5	18.8		
	東区	11	36.4	54.5	18.2	27.3	0.0	9.1	9.1		
	南区	14	57.1	35.7	42.9	14.3	35.7	35.7	14.3		
	西区	23	39.1	43.5	26.1	26.1	30.4	26.1	8.7		
	安佐南区	35	42.9	34.3	45.7	25.7	20.0	14.3	14.3		
	安佐北区	29	41.4	31.0	20.7	20.7	27.6	27.6	17.2		
	安芸区	12	41.7	41.7	41.7	33.3	25.0	41.7	16.7		
	佐伯区	11	36.4	45.5	54.5	27.3	27.3	9.1	18.2		

地域の治安が以前と比べて悪くなったと感じる理由について、居住地区別にみると、西区は「地域住民の防犯意識や連帯感が低くなった」、安佐南区は「居住環境が悪くなった」との回答が高くなっている。

【図表 地域の治安が以前と比べて悪くなったと感じる理由（防犯活動への取組の有無別）】

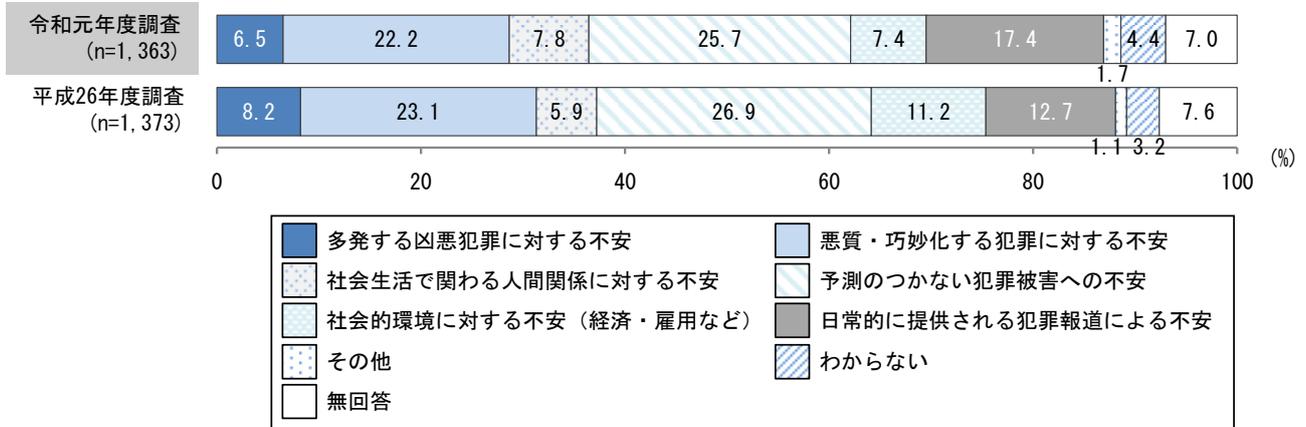


地域の治安が以前と比べて悪くなったと感じる理由について、防犯活動への取組の有無別にみると、「全国で発生する様々な犯罪報道により不安が増加した」との回答は防犯活動に取り組んだことがある人（50.0%）がない人（42.0%）を8.0ポイント、「地域住民の防犯意識や連帯感が低くなった」との回答は防犯活動に取り組んだことがある人（46.7%）がない人（36.1%）を10.6ポイント、「居住環境が悪くなった」との回答は防犯活動に取り組んだことがある人（43.3%）がない人（33.6%）を9.7ポイント上回っている。一方、「インターネットや携帯電話を利用した見えない相手からの犯罪が増加した」との回答は防犯活動に取り組んだことがない人（26.1%）がある人（20.0%）を6.1ポイント、「通り魔的な誰もが被害者になりうる犯罪が増加した」との回答は防犯活動に取り組んだことがない人（28.6%）がある人（6.7%）を21.9ポイント、「地域で起こる犯罪が増加した」との回答は防犯活動に取り組んだことがない人（23.5%）がある人（16.7%）を6.8ポイント上回っている。

防犯活動に取り組んだことがある人はメディアでの犯罪報道による不安の増加や地域住民の意識の低下、居住環境の悪化が高く、取り組んだことがない人は犯罪の増加が悪くなったと感じる理由として高くなっている。

問 11 刑法犯認知件数が減少しているにもかかわらず、市民の治安に対する安心感は、ほとんど変わっていないと言われています。その主な原因は、何だと思えますか。

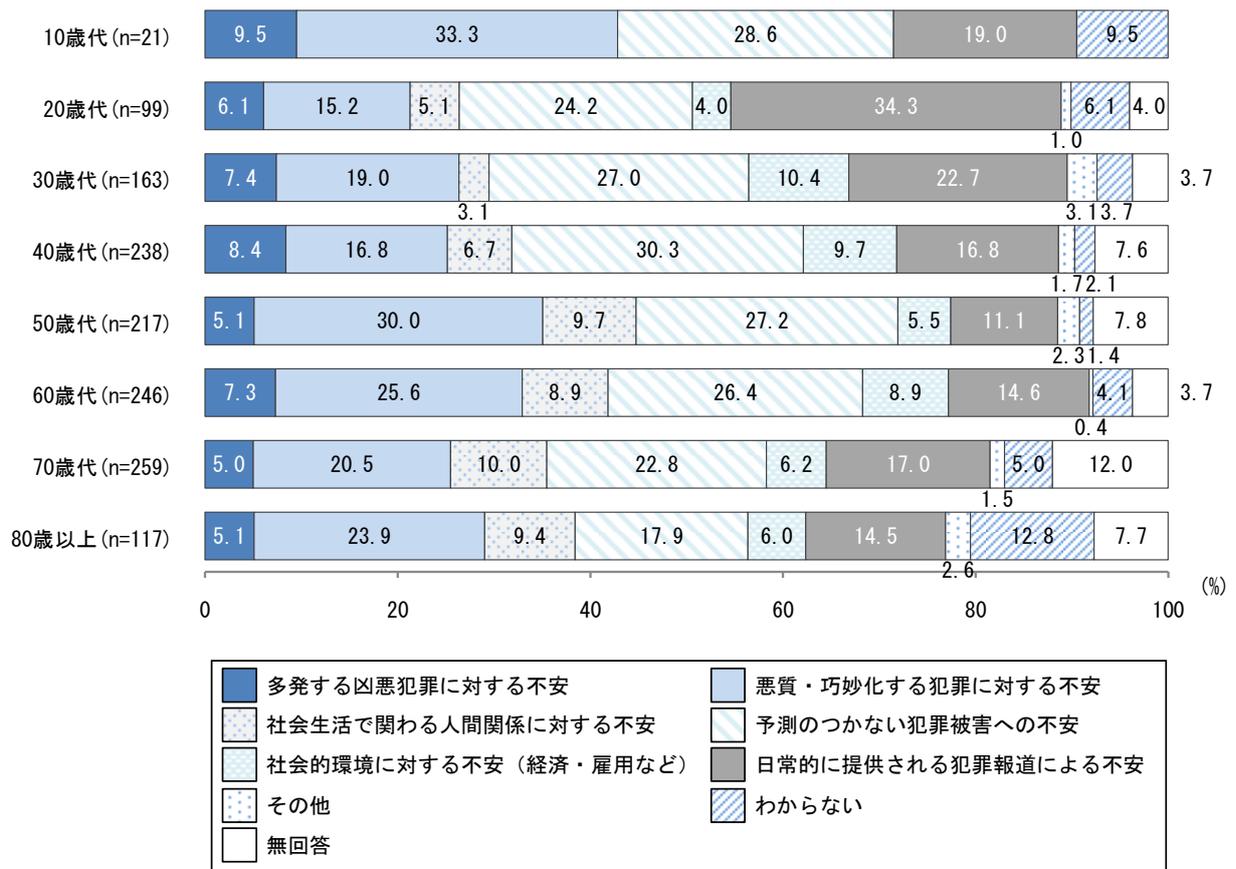
(○は、1つ)



治安に対する安心感に変化のない原因について、「予測のつかない犯罪被害への不安」との回答が25.7%と最も高く、次いで「悪質・巧妙化する犯罪に対する不安」(22.2%)、「日常的に提供される犯罪報道による不安」(17.4%)などの順となっている。

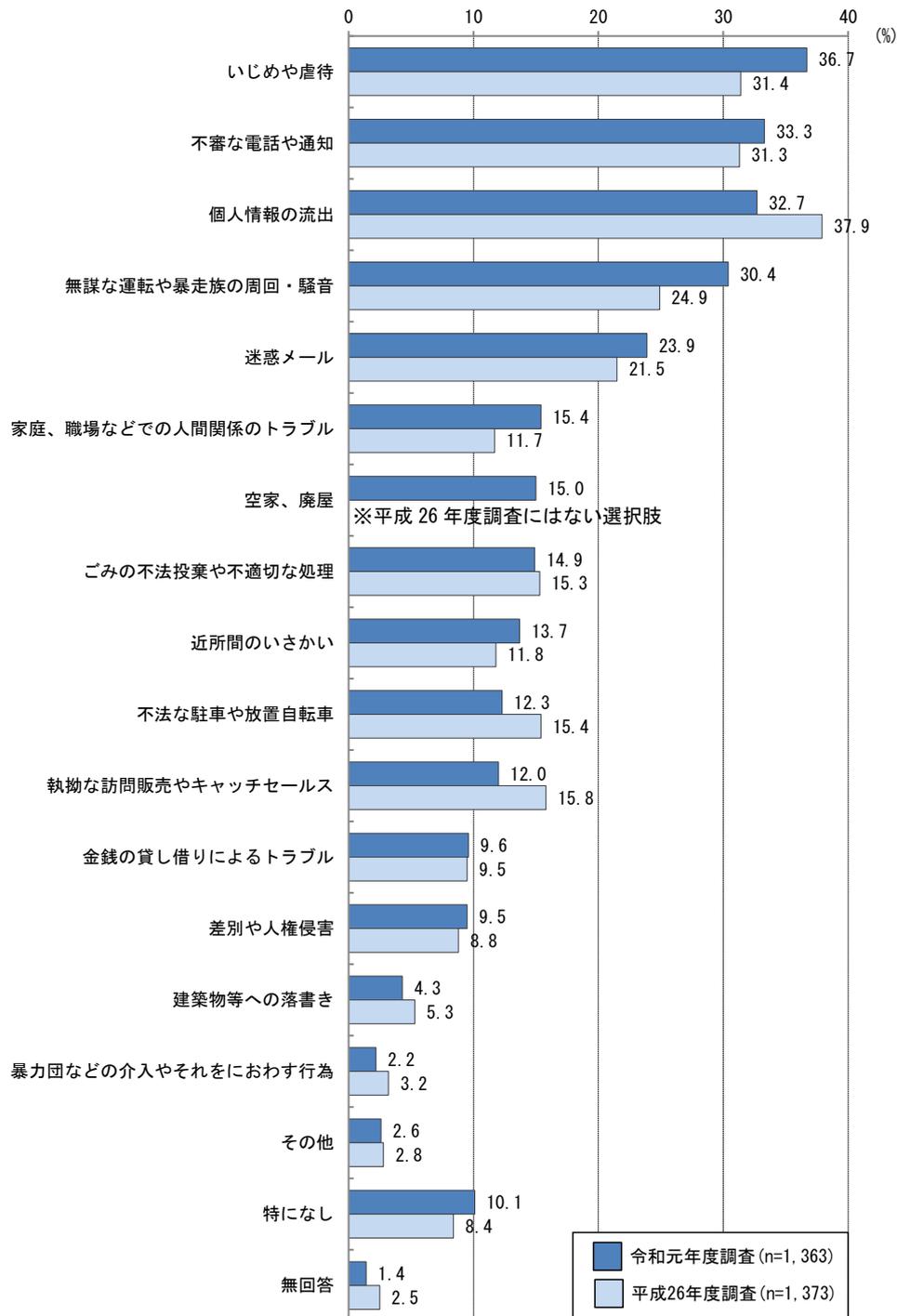
前回調査と比較すると、大きな差はみられない。

【図表 治安に対する安心感に変化のない原因（年代別）】



治安に対する安心感に変化のない原因について、年代別にみると、10歳代、50～60歳代は「悪質・巧妙化する犯罪に対する不安」、「予測のつかない犯罪被害への不安」、20歳代は「日常的に提供される犯罪報道による不安」、30～40歳代は「予測のつかない犯罪被害への不安」との回答が高くなっている。

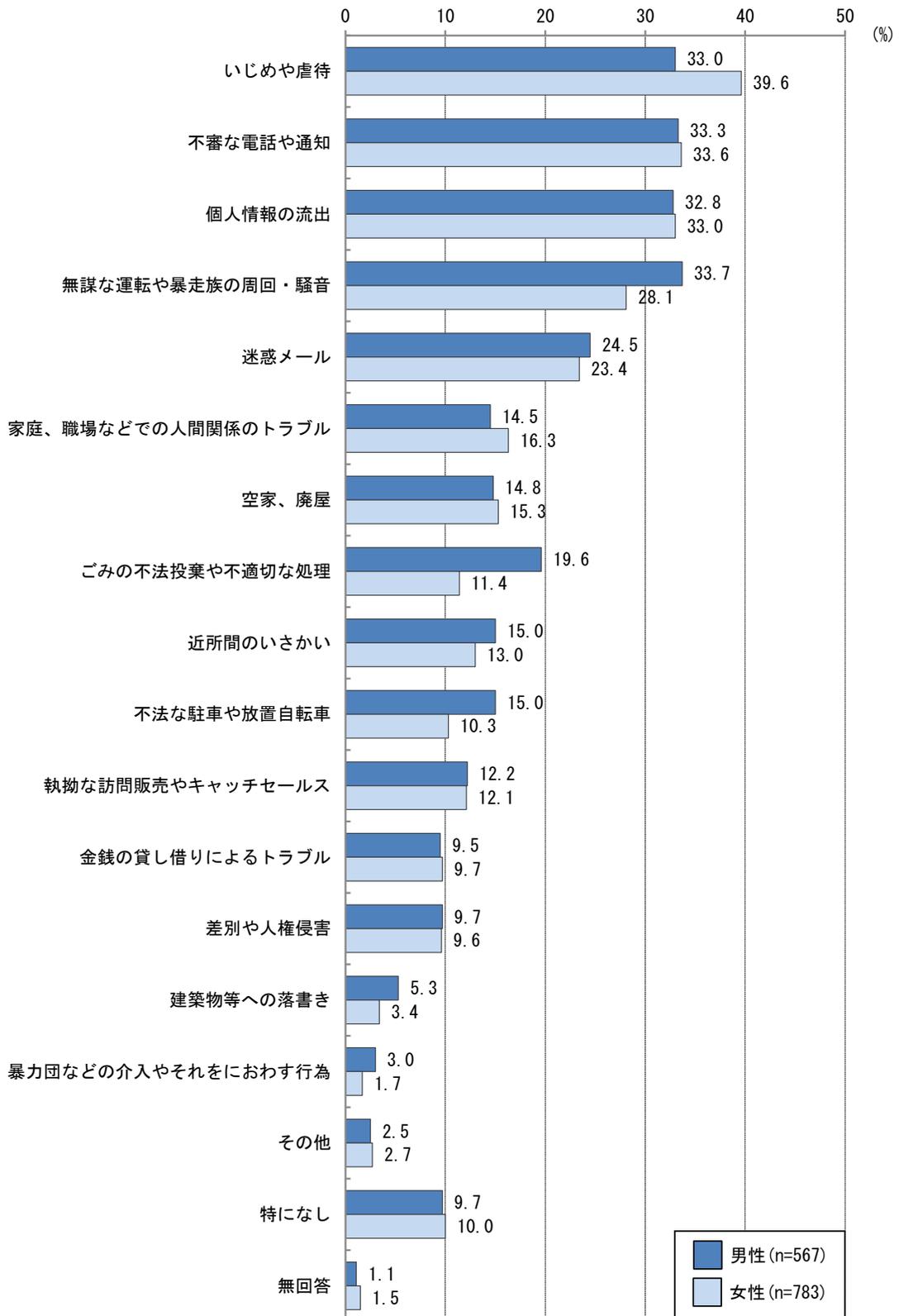
問 12 あなたが、最近、日常生活において、犯罪を招く要因が強いと感じた迷惑行為や出来事は何ですか。(〇は、いくつでも)



犯罪を招く要因が強いと感じた迷惑行為や出来事について、「いじめや虐待」との回答が36.7%と最も高く、次いで「不審な電話や通知」(33.3%)、「個人情報の流出」(32.7%)などの順となっている。

前回調査と比較すると、「いじめや虐待」との回答は5.3ポイント、「無謀な運転や暴走族の周回・騒音」との回答は5.5ポイント今回調査が前回調査を上回っている。一方、「個人情報の流出」との回答は5.2ポイント今回調査が前回調査を下回っている。

【図表 犯罪を招く要因が強いと感じた迷惑行為や出来事（性別）】



犯罪を招く要因が強いと感じた迷惑行為や出来事について、性別にみると、「いじめや虐待」との回答は女性（39.6%）が男性（33.0%）を6.6ポイント上回っている。一方、「無謀な運転や暴走族の周回・騒音」との回答は男性（33.7%）が女性（28.1%）を5.6ポイント、「ごみの不法投棄や不適切な処理」との回答は男性（19.6%）が女性（11.4%）を8.2ポイント上回っている。

【図表 犯罪を招く要因が強いと感じた迷惑行為や出来事（年代別）】

		(%)								
		件数	いじめや虐待	不審な電話や通知	個人情報の流出	無謀な運転や暴走族の周回・騒音	迷惑メール	家庭、職場などでの人間関係のトラブル	空家、廃屋	ごみの不法投棄や不適切な処理
全体		1,363	36.7	33.3	32.7	30.4	23.9	15.4	15.0	14.9
年代別	10歳代	21	52.4	19.0	33.3	14.3	28.6	28.6	9.5	9.5
	20歳代	99	44.4	25.3	43.4	36.4	20.2	32.3	6.1	10.1
	30歳代	163	41.1	23.3	39.3	33.1	20.2	23.9	16.6	9.8
	40歳代	238	37.0	26.1	32.4	36.6	31.1	12.2	13.0	13.0
	50歳代	217	40.6	32.3	36.9	29.0	36.9	20.7	12.0	17.1
	60歳代	246	37.8	35.4	33.7	34.6	24.0	15.4	19.5	13.0
	70歳代	259	29.3	45.6	27.8	25.1	17.0	6.2	16.6	19.3
	80歳以上	117	28.2	41.0	17.1	17.1	7.7	4.3	17.9	21.4

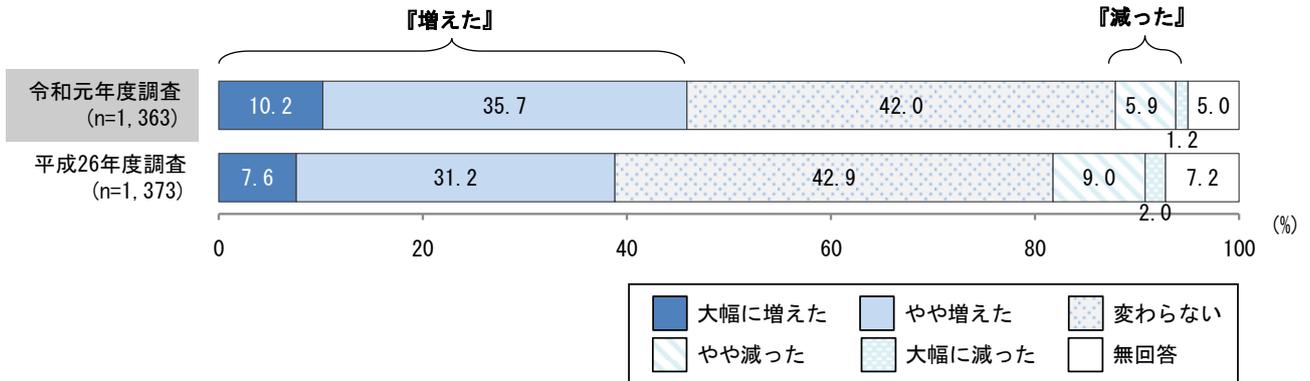
犯罪を招く要因が強いと感じた迷惑行為や出来事について、年代別にみると、10歳代は「いじめや虐待」、20歳代は「いじめや虐待」、「個人情報の流出」、70歳代は「不審な電話や通知」との回答が高くなっている。

【図表 犯罪を招く要因が強いと感じた迷惑行為や出来事（居住地区別）】

		(%)								
		件数	いじめや虐待	不審な電話や通知	個人情報の流出	無謀な運転や暴走族の周回・騒音	迷惑メール	家庭、職場などでの人間関係のトラブル	空家、廃屋	ごみの不法投棄や不適切な処理
全体		1,363	36.7	33.3	32.7	30.4	23.9	15.4	15.0	14.9
居住地区別	中区	146	37.7	31.5	31.5	33.6	18.5	11.0	11.6	17.8
	東区	134	38.1	30.6	35.8	32.1	26.1	17.9	22.4	14.9
	南区	158	36.1	33.5	34.2	29.1	20.3	18.4	10.8	12.7
	西区	207	35.3	29.5	35.3	28.5	29.0	15.0	10.6	18.8
	安佐南区	278	36.3	33.5	29.9	31.3	24.8	16.5	17.3	9.7
	安佐北区	182	33.5	35.2	29.7	31.3	23.6	12.6	19.2	16.5
	安芸区	97	42.3	46.4	32.0	30.9	19.6	14.4	17.5	17.5
	佐伯区	159	38.4	31.4	35.8	27.0	25.2	17.0	11.9	15.1

犯罪を招く要因が強いと感じた迷惑行為や出来事について、居住地区別にみると、中区、東区、佐伯区は「いじめや虐待」、安芸区は「不審な電話や通知」との回答が高くなっている。

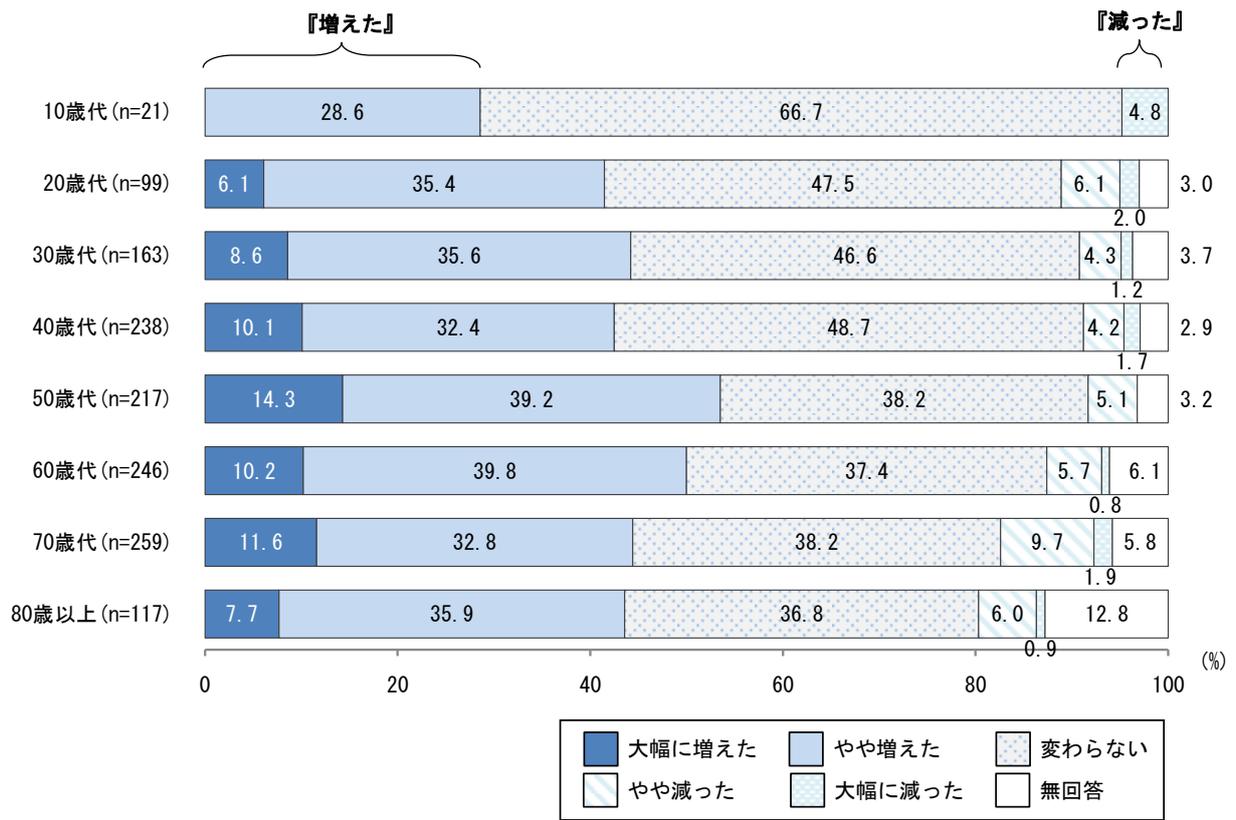
問13 あなたは、問12にあるようなことで、迷惑と感じる回数は、以前（おおむね5年前）と比べてどのように感じますか。（〇は、1つ）



迷惑と感じる回数の変化について、『増えた』（「大幅に増えた」と「やや増えた」を合計した割合）との回答が45.9%、「変わらない」との回答は42.0%、『減った』（「やや減った」と「大幅に減った」を合計した割合）との回答は7.1%となっている。

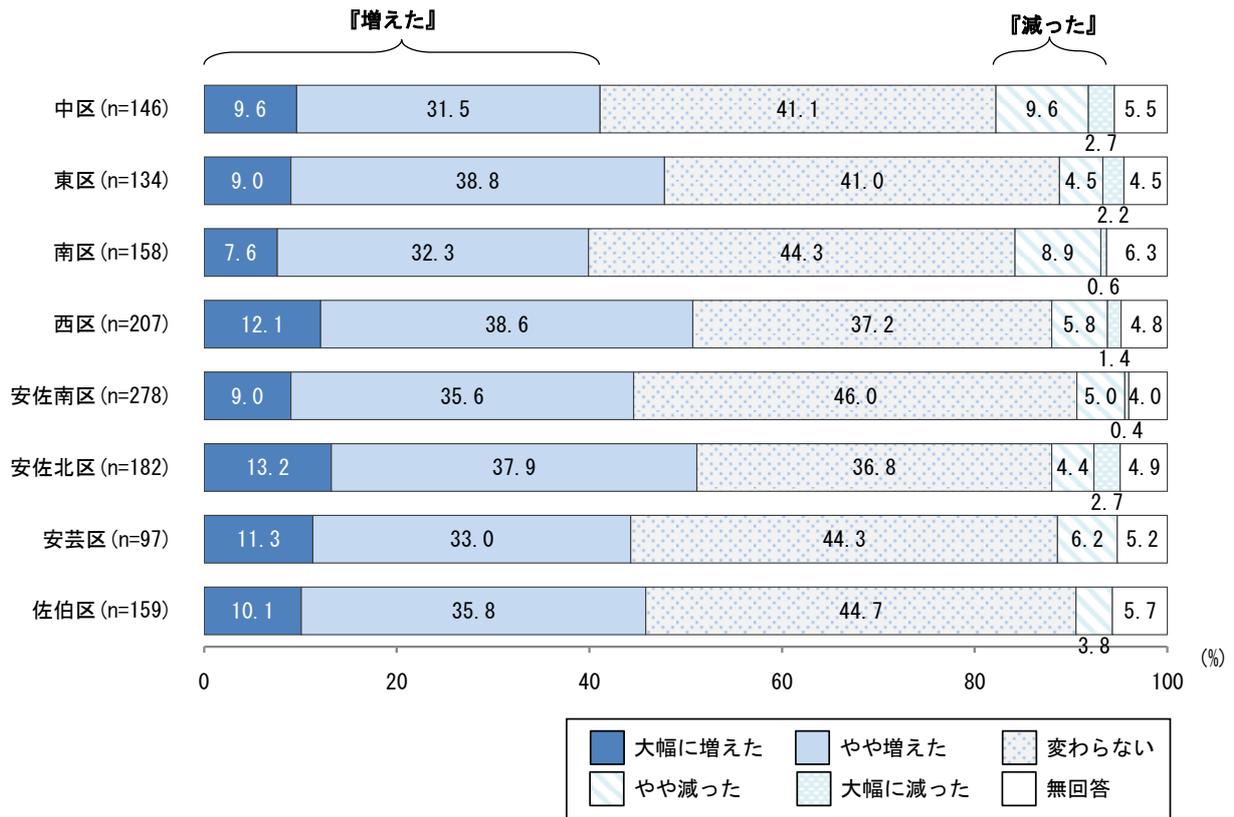
前回調査と比較すると、『増えた』との回答は今回調査が前回調査を7.1ポイント上回っている。

【図表 迷惑と感じる回数の変化（年代別）】



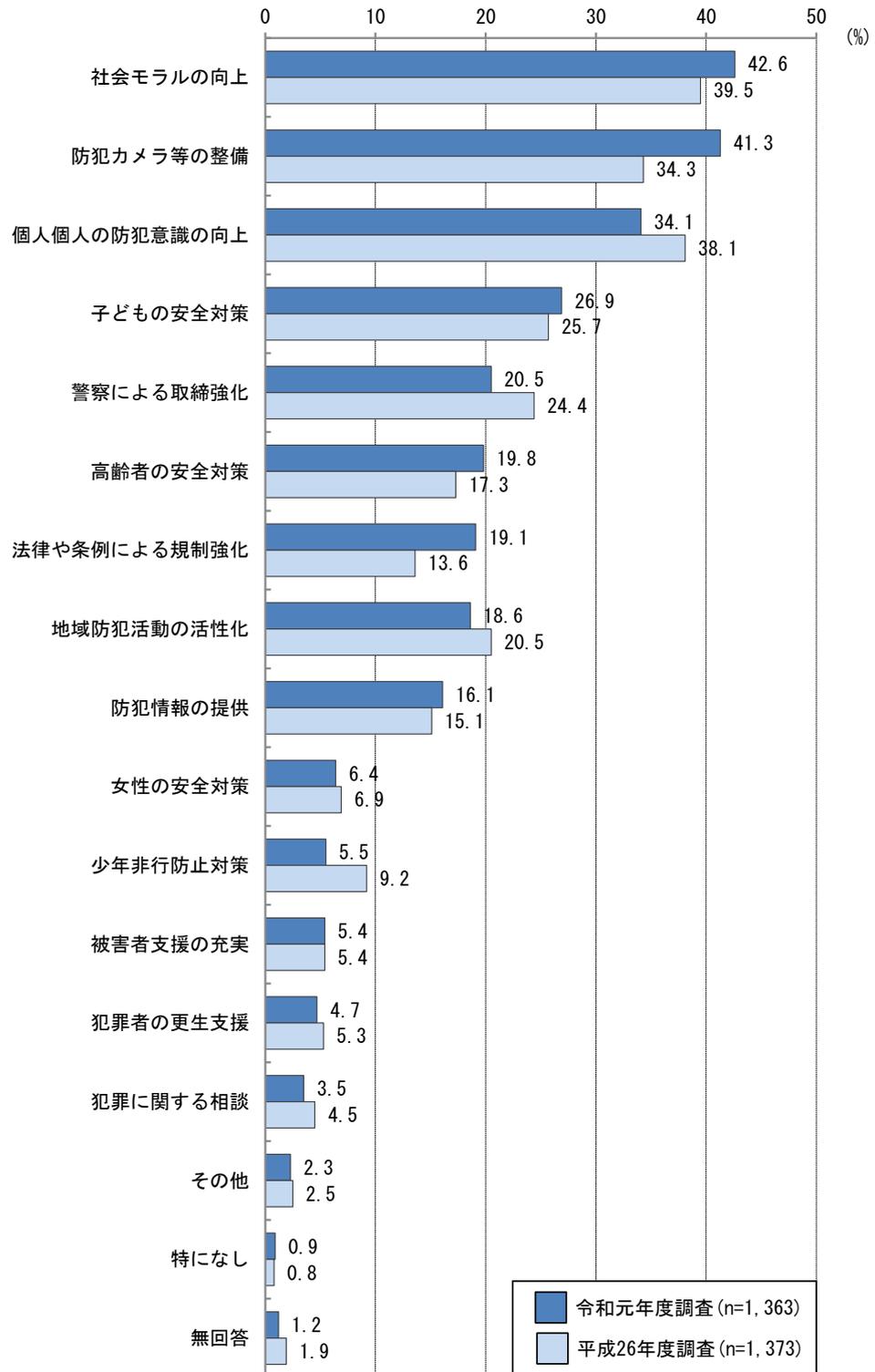
迷惑と感じる回数の変化について、年代別にみると、『増えた』との回答は50歳代で5割台半ばと高くなっている。

【図表 迷惑と感じる回数の変化（居住地区別）】



迷惑と感じる回数の変化について、居住地区別にみると、『増えた』との回答は西区、安佐北区で約5割と高くなっている。

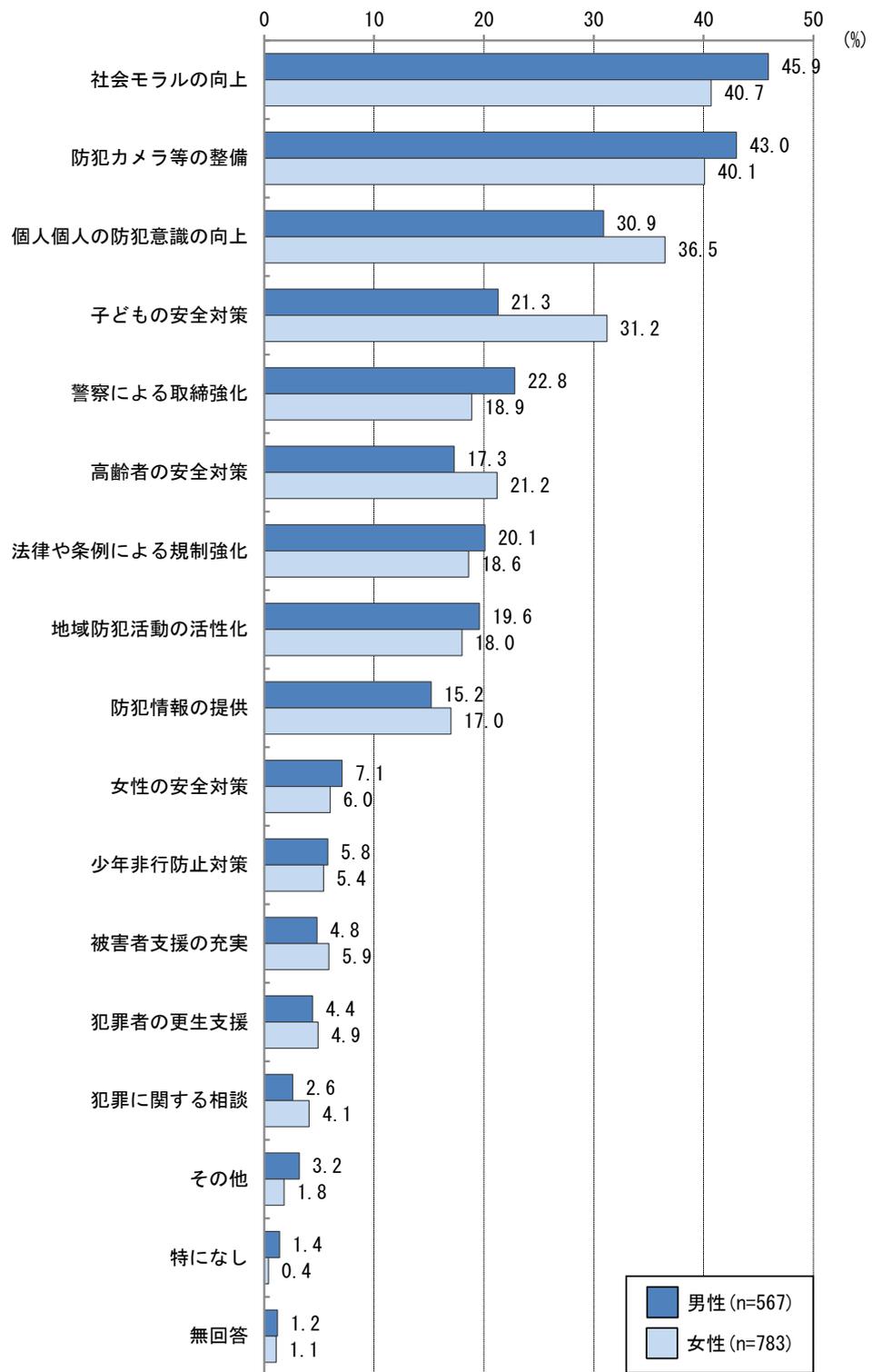
問 14 市民が、安全で安心して暮らしていくためには、どのような取組が強化されればよいと思われませんか。(〇は、3つ以内)



安全で安心して暮らしていくために強化されればよいと思う取組について、「社会モラルの向上」との回答が 42.6%と最も高く、次いで「防犯カメラ等の整備」(41.3%)、「個人個人の防犯意識の向上」(34.1%)などの順となっている。

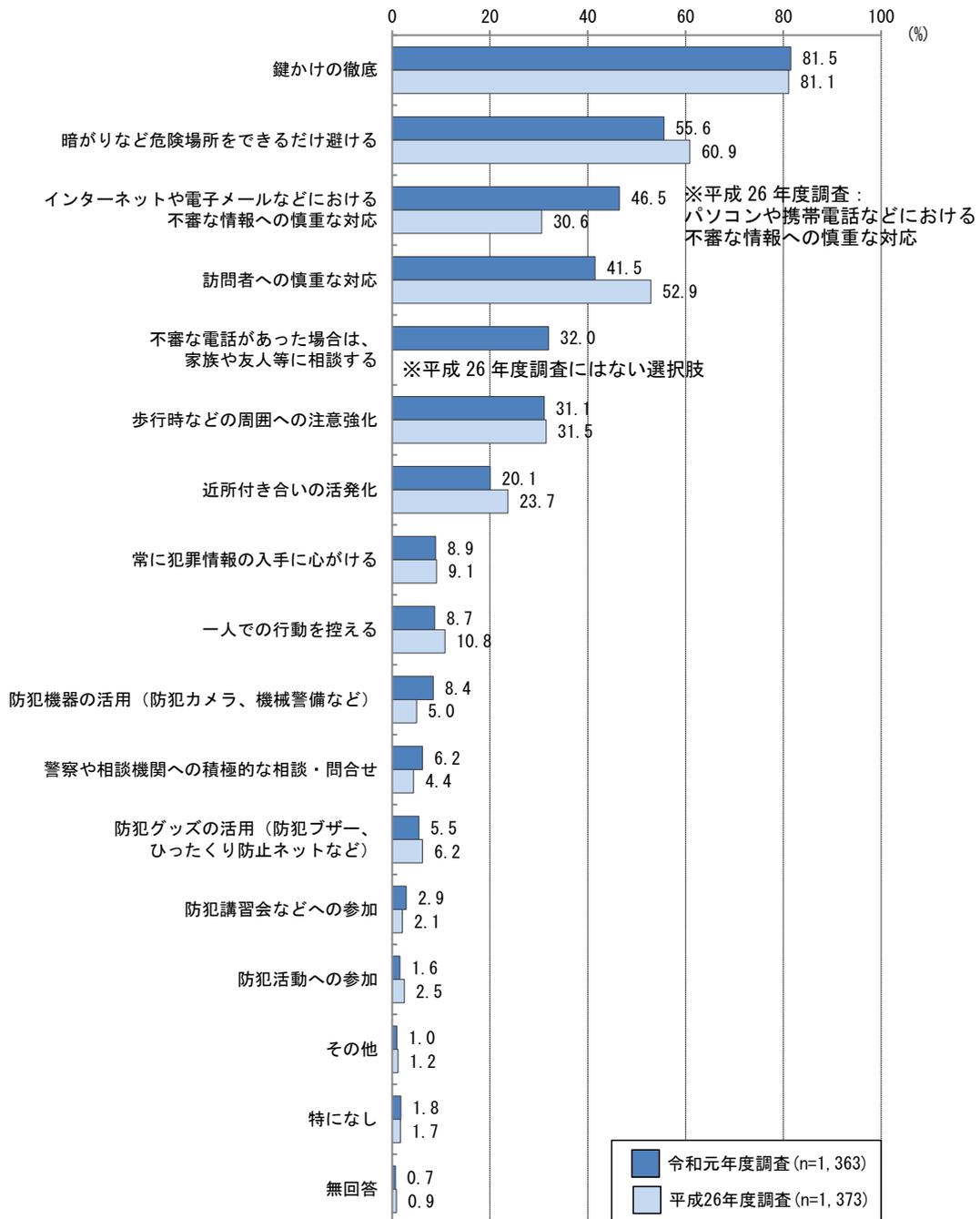
前回調査と比較すると、「防犯カメラ等の整備」との回答は 7.0 ポイント、「法律や条例による規制強化」との回答は 5.5 ポイント今回調査が前回調査を上回っている。

【図表 安全で安心して暮らしていくために強化されればよいと思う取組（性別）】



安全で安心して暮らしていくために強化されればよいと思う取組について、性別にみると、「社会モラルの向上」との回答は男性（45.9%）が女性（40.7%）を5.2ポイント上回っている。一方、「個人個人の防犯意識の向上」との回答は女性（36.5%）が男性（30.9%）を5.6ポイント、 「子どもの安全対策」との回答は女性（31.2%）が男性（21.3%）を9.9ポイント上回っている。

問 15 あなたが、日常生活において、犯罪被害にあわないために心がけていることは何ですか。(〇は、いくつでも)

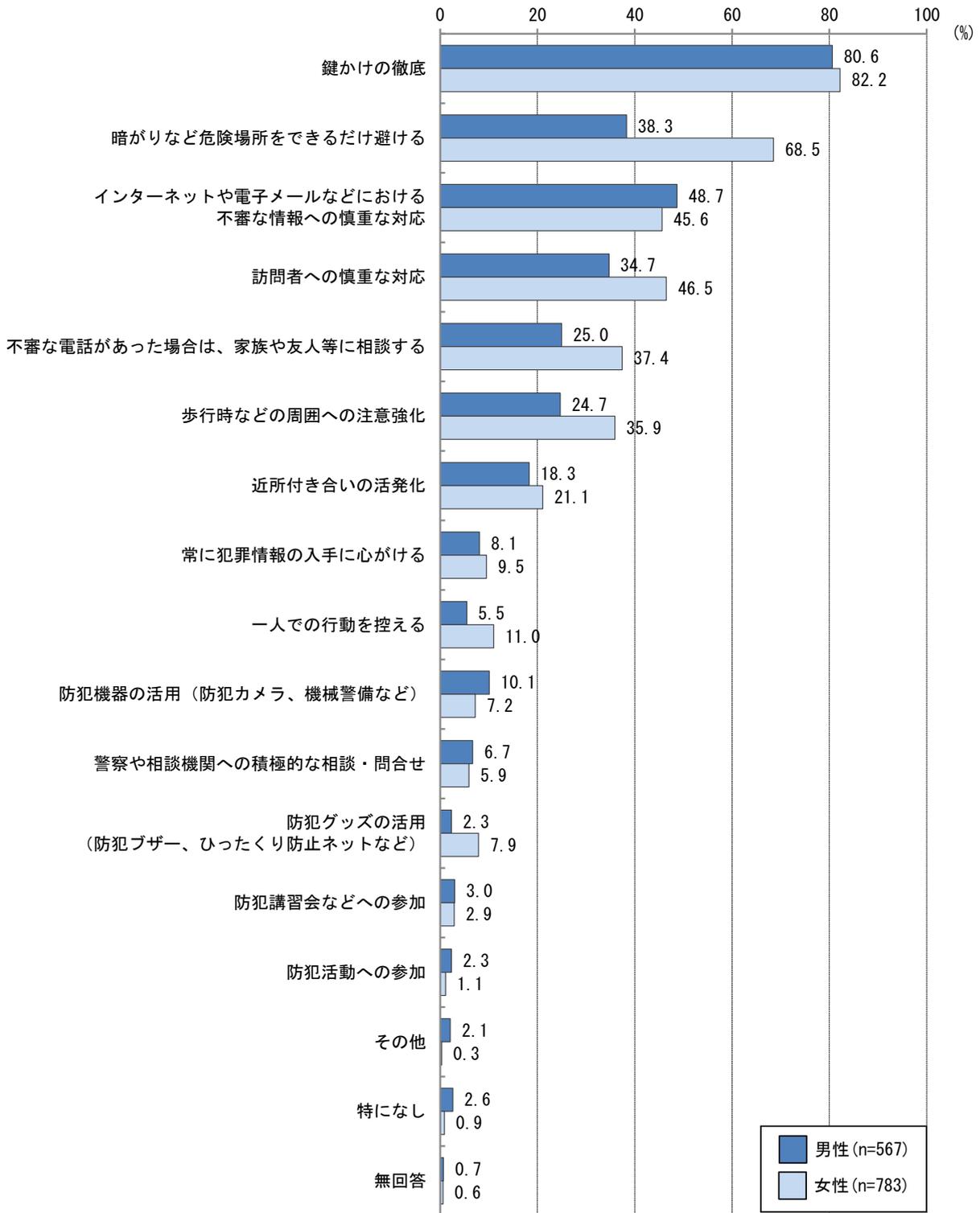


犯罪被害にあわないために心がけていることについて、「鍵かけの徹底」との回答が81.5%と最も高く、次いで「暗がりなど危険場所をできるだけ避ける」(55.6%)、「インターネットや電子メールなどにおける不審な情報への慎重な対応」(46.5%)などの順となっている。

多くの方が日常生活において犯罪被害にあわないために「鍵かけの徹底」を心がけている。

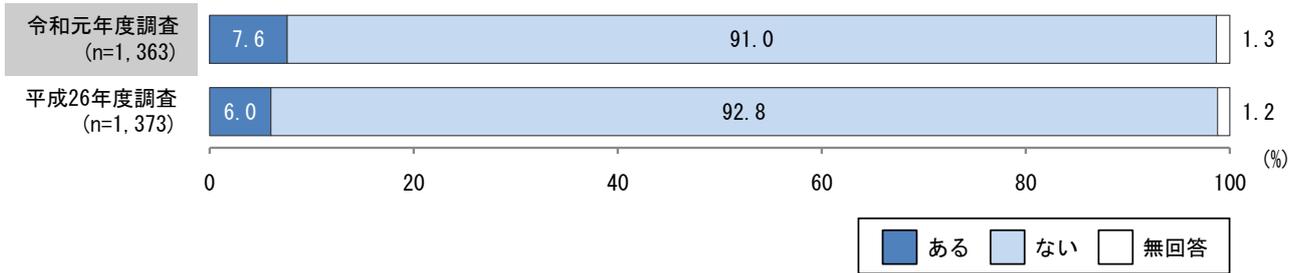
前回調査と比較すると、「暗がりなど危険場所をできるだけ避ける」との回答は5.3ポイント、「訪問者への慎重な対応」との回答は11.4ポイント今回調査が前回調査を下回っている。一方、「インターネットや電子メールなどにおける不審情報への慎重な対応」との回答は今回調査が前回調査を15.9ポイント上回っている。

【図表 犯罪被害にあわないために心がけていること（性別）】



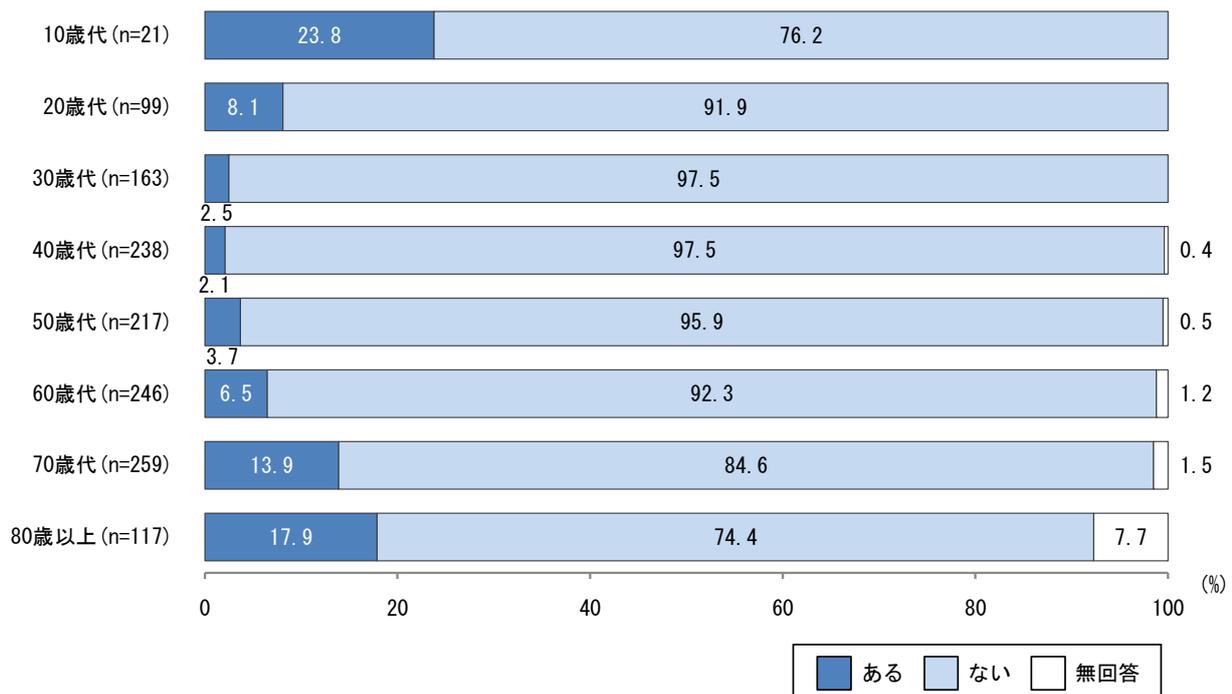
犯罪被害にあわないために心がけていることについて、性別にみると、「暗がりなど危険場所をできるだけ避ける」との回答は女性（68.5%）が男性（38.3%）を30.2ポイント、「訪問者への慎重な対応」との回答は女性（46.5%）が男性（34.7%）を11.8ポイント、「不審な電話があった場合は、家族や友人等に相談する」との回答は女性（37.4%）が男性（25.0%）を12.4ポイント、「歩行時などの周囲への注意強化」との回答は女性（35.9%）が男性（24.7%）を11.2ポイント上回っている。

問 16 あなたは、これまで市政出前講座（防犯教室等）を受講したことはありますか。  
 （○は、1つ）



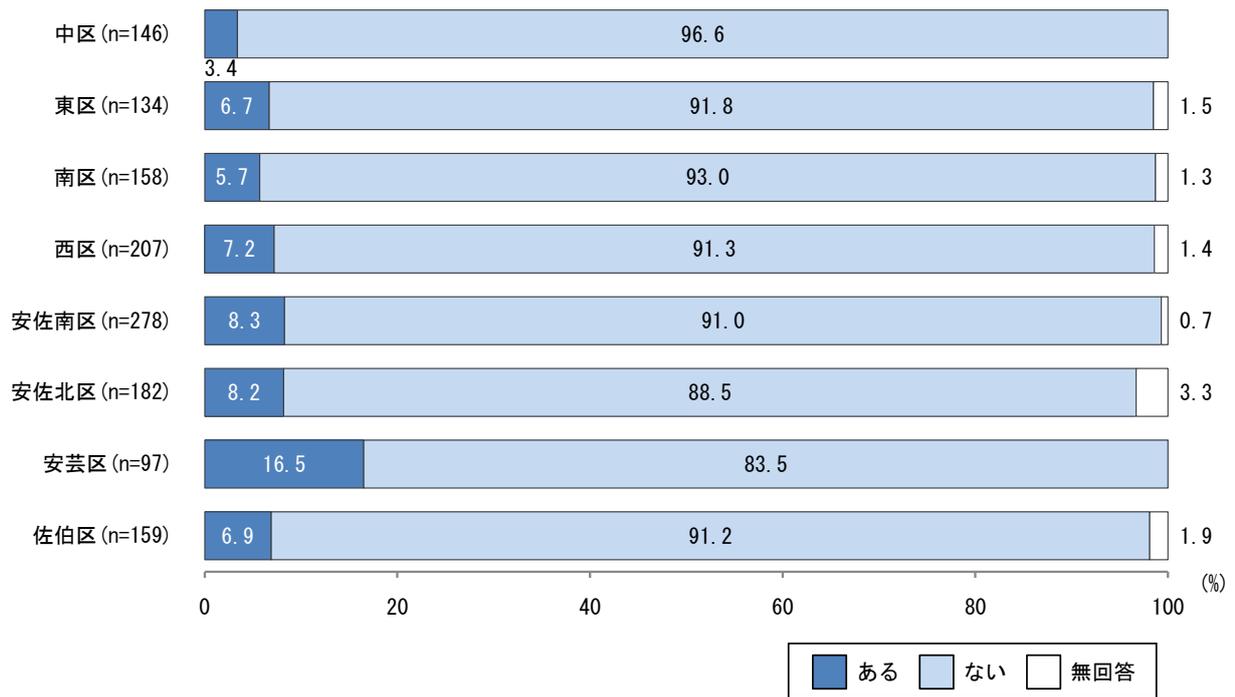
市政出前講座を受講した経験の有無について、「ある」との回答は7.6%、「ない」との回答は91.0%となっている。  
 前回調査と比較すると、大きな差はみられない。

【図表 市政出前講座を受講した経験の有無（年代別）】



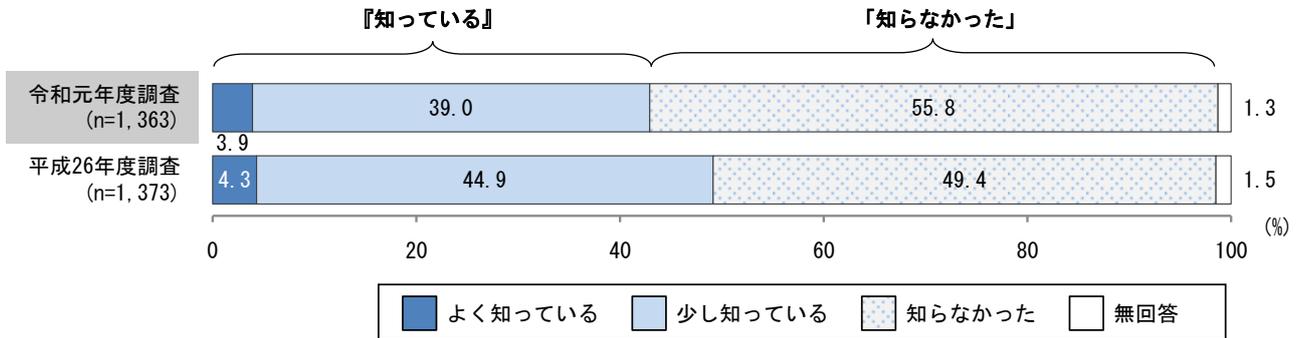
市政出前講座を受講した経験の有無について、年代別にみると、「ある」との回答は10歳代、80歳以上で2割前後と高くなっている。

【図表 市政出前講座を受講した経験の有無（居住地区別）】



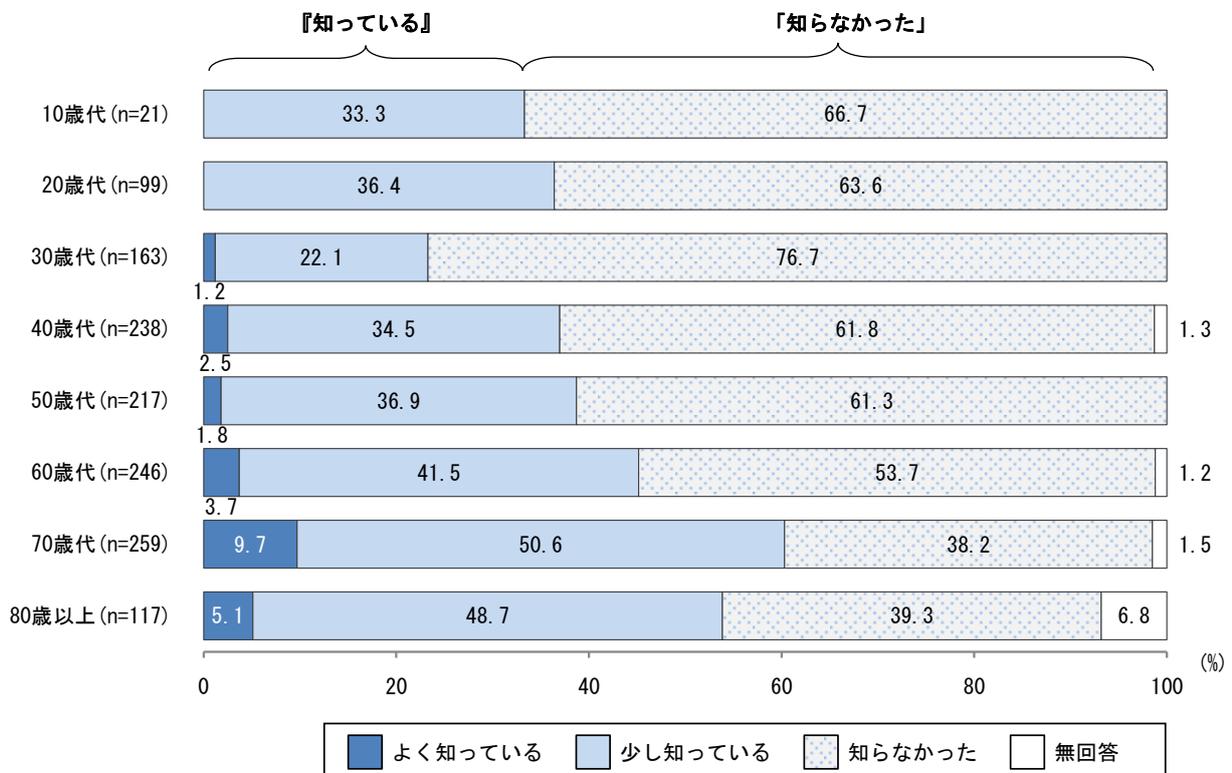
市政出前講座を受講した経験の有無について、居住地区別にみると、「ある」との回答は安芸区で1割台半ばと高くなっている。

問 17 あなたは、本市で、区ごとに、「減らそう犯罪安全なまちづくり推進協議会」（区によって名称は異なる。）が組織されたり、安全なまちづくりに関する様々な活動が行われていることをご存じですか。（〇は、1つ）



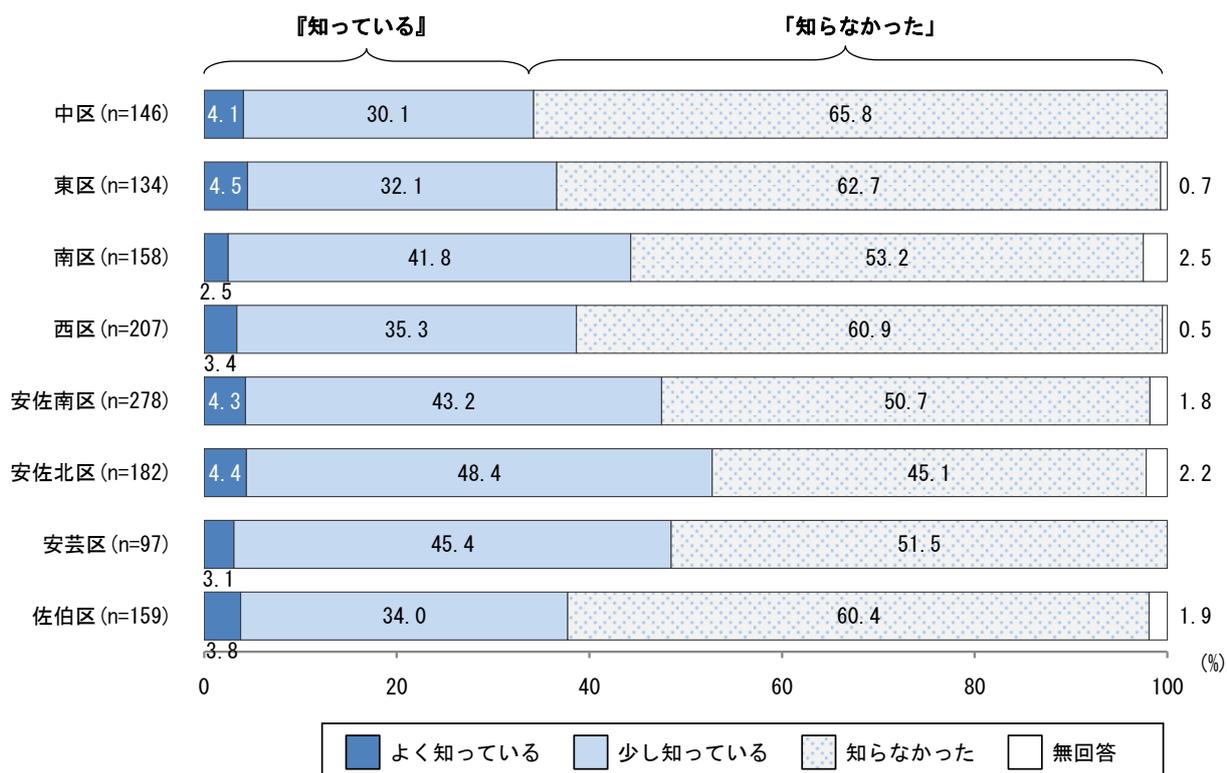
安全なまちづくりに関する活動の認知度について、『知っている』（「よく知っている」と「少し知っている」を合計した割合）との回答は42.9%、「知らなかった」との回答は55.8%となっている。前回調査と比較すると、『知っている』との回答は今回調査が前回調査を6.3ポイント下回っている。

【図表 安全なまちづくりに関する活動の認知度（年代別）】



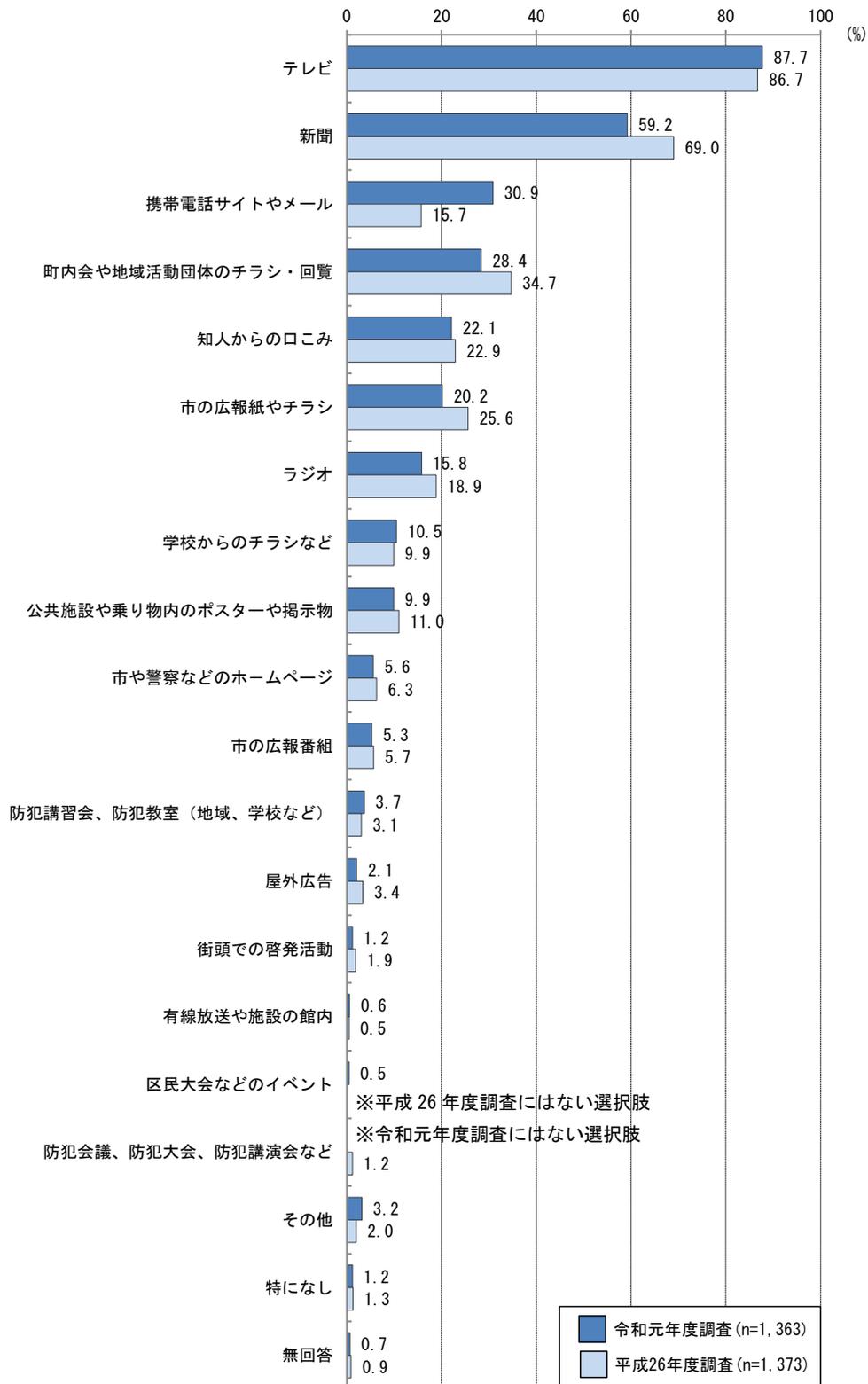
安全なまちづくりに関する活動の認知度について、年代別にみると、『知っている』との回答は70歳代で約6割と高くなっている。一方、30歳代は約2割と低く、子育て世代と高齢者世代との間で大きな開きがある。

【図表 安全なまちづくりに関する活動の認知度（居住地区別）】



安全なまちづくりに関する活動の認知度について、居住地区別にみると、『知っている』との回答は安佐南区、安佐北区、安芸区で約5割と高くなっている。

問 18 あなたは、おおむねこの1年間で犯罪や防犯に関する情報をどこから入手しましたか。  
(〇は、いくつでも)



犯罪や防犯に関する情報入手媒体について、「テレビ」との回答が87.7%と最も高く、次いで「新聞」(59.2%)、「携帯電話サイトやメール」(30.9%)などの順となっている。

依然として防犯に関する情報は、テレビや新聞での入手が圧倒的に多くなっている。

前回調査と比較すると、「新聞」との回答は9.8ポイント、「町内会や地域活動団体のチラシ・回

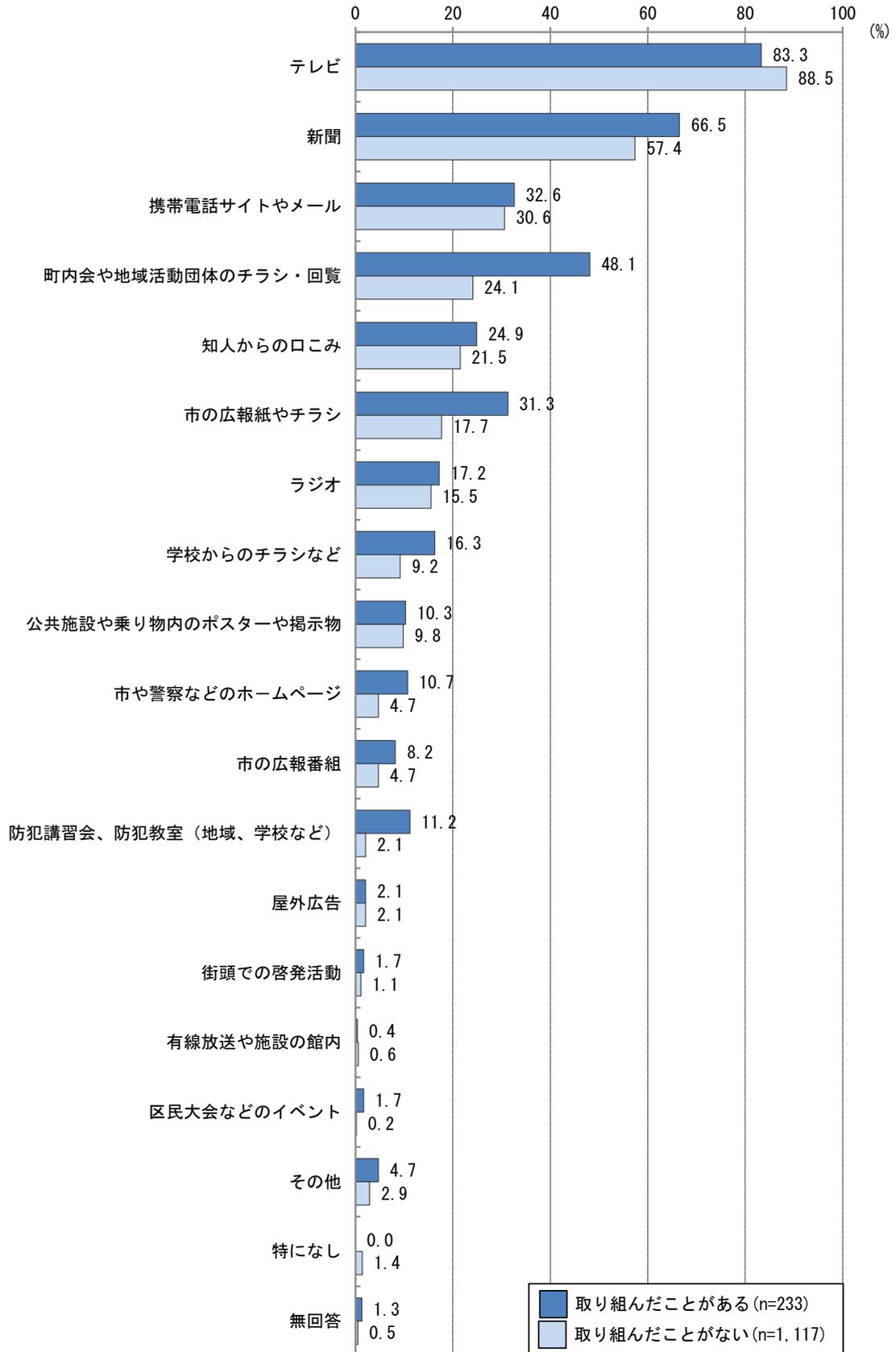
覧」との回答は 6.3 ポイント、「市の広報誌やチラシ」との回答は 5.4 ポイント今回調査が前回調査を下回っている。一方、「携帯電話サイトやメール」との回答は今回調査が前回調査を 15.2 ポイント上回っている。

【図表 犯罪や防犯に関する情報入手媒体（年代別）】

		件数	テレビ	新聞	携帯電話サイトやメール	町内会や地域活動団体のチラシ・回覧	知人からの口こみ	市の広報紙やチラシ	ラジオ
全体		1,363	87.7	59.2	30.9	28.4	22.1	20.2	15.8
年代別	10歳代	21	85.7	23.8	33.3	0.0	23.8	4.8	4.8
	20歳代	99	91.9	34.3	41.4	4.0	18.2	4.0	4.0
	30歳代	163	85.3	34.4	54.0	14.1	20.2	6.7	13.5
	40歳代	238	82.4	47.1	49.2	24.4	21.0	11.8	13.4
	50歳代	217	89.4	63.6	38.2	22.1	18.4	18.4	19.8
	60歳代	246	91.5	69.5	23.2	31.7	25.2	24.4	16.7
	70歳代	259	87.6	78.8	9.3	47.5	23.9	35.5	21.6
	80歳以上	117	87.2	72.6	2.6	44.4	25.6	32.5	13.7

犯罪や防犯に関する情報入手媒体について、年代別にみると、すべての年代で「テレビ」との回答が高くなっている。

【図表 犯罪や防犯に関する情報入手媒体（防犯活動への取組の有無別）】

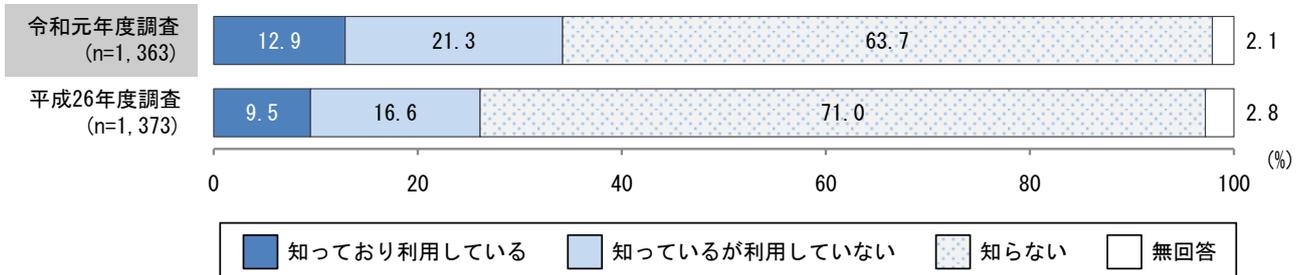


犯罪や防犯に関する情報入手媒体について、防犯活動への取組の有無別にみると、「テレビ」との回答は防犯活動に取り組んだことがない人（88.5%）がある人（83.3%）を5.2ポイント上回

っている。一方、「町内会や地域活動団体のチラシ・回覧」、「市の広報紙やチラシ」との回答は防犯活動に取り組んだことがある人がない人を10.0ポイント以上上回っている。

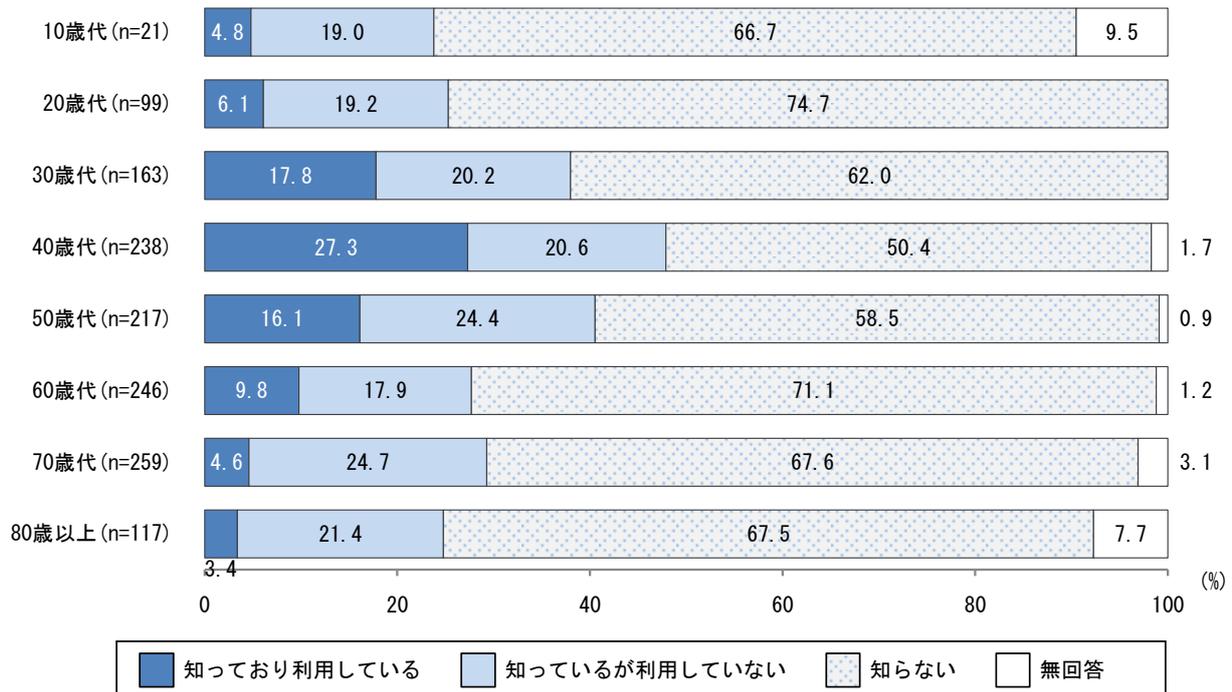
つまり、防犯活動に取り組んでいる人は、市や町、警察など地域のチラシやホームページなどで情報を入手する人が多くなっているが、取り組んでいない人はテレビで情報を入手する人が多い。

問 19 本市では、防災情報メールで避難勧告等の緊急情報を提供しています。その中で希望される方には、不審者情報や犯罪情報を提供していることを、あなたは知っていますか。  
(○は、1つ)



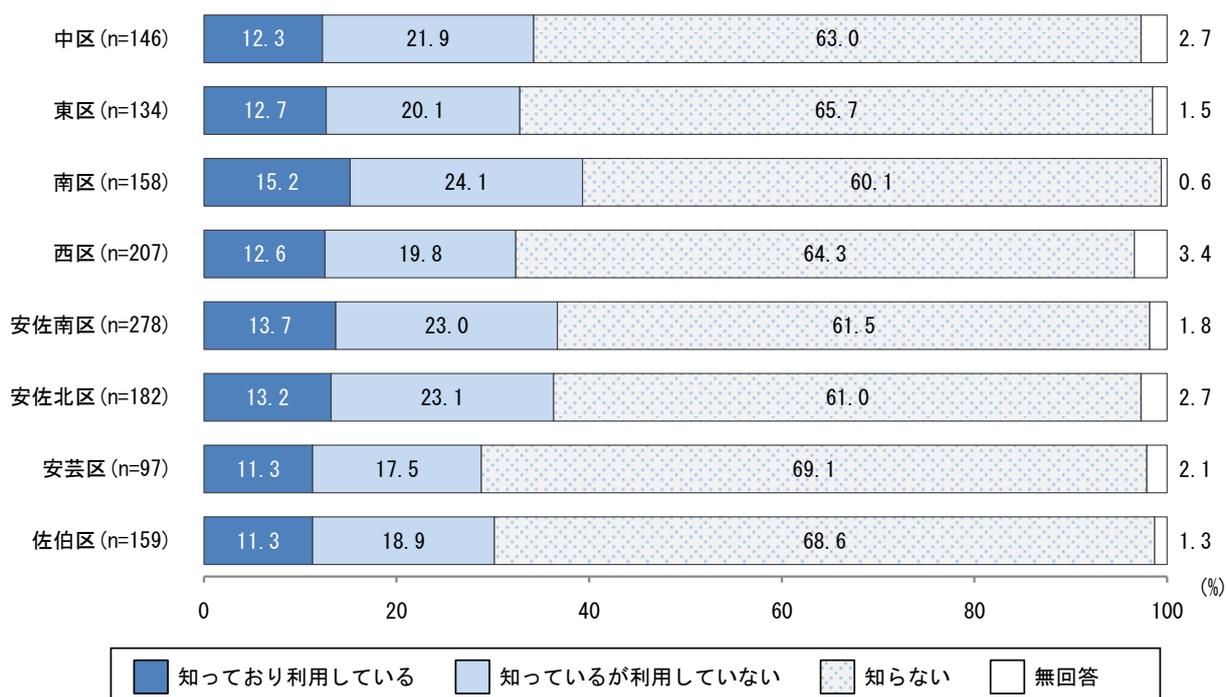
防災情報メールによる情報提供の認知度について、「知っており利用している」との回答が12.9%、「知っているが利用していない」との回答が21.3%、「知らない」との回答が63.7%となっている。前回調査と比較すると、「知らない」との回答は今回調査が前回調査を7.3ポイント下回っており、認知度は若干上がっているといえる。

【図表 防災情報メールによる情報提供の認知度（年代別）】



防災情報メールによる情報提供の認知度について、年代別にみると、「知っており利用している」との回答は40歳代が約3割と高くなっている。

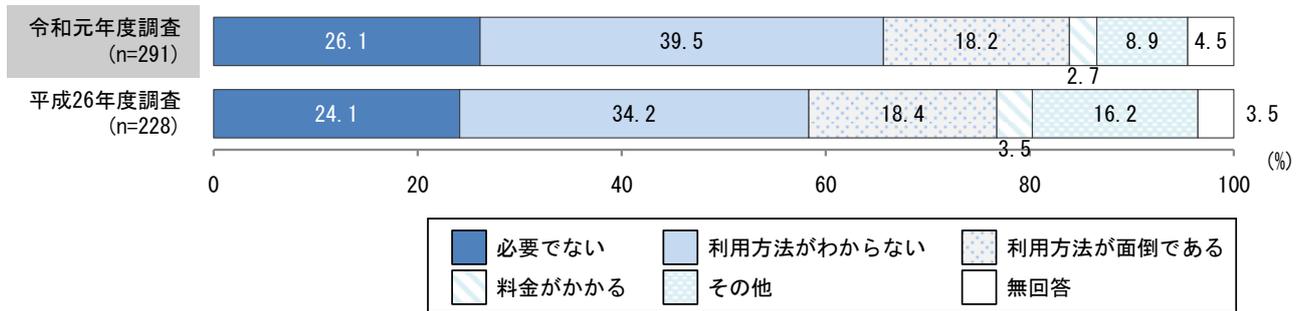
【図表 防災情報メールによる情報提供の認知度（居住地区別）】



防災情報メールによる情報提供の認知度について、居住地区別にみると、大きな差はみられない。

問 20 【問 19 で「2 知っているが利用していない」と回答された方】

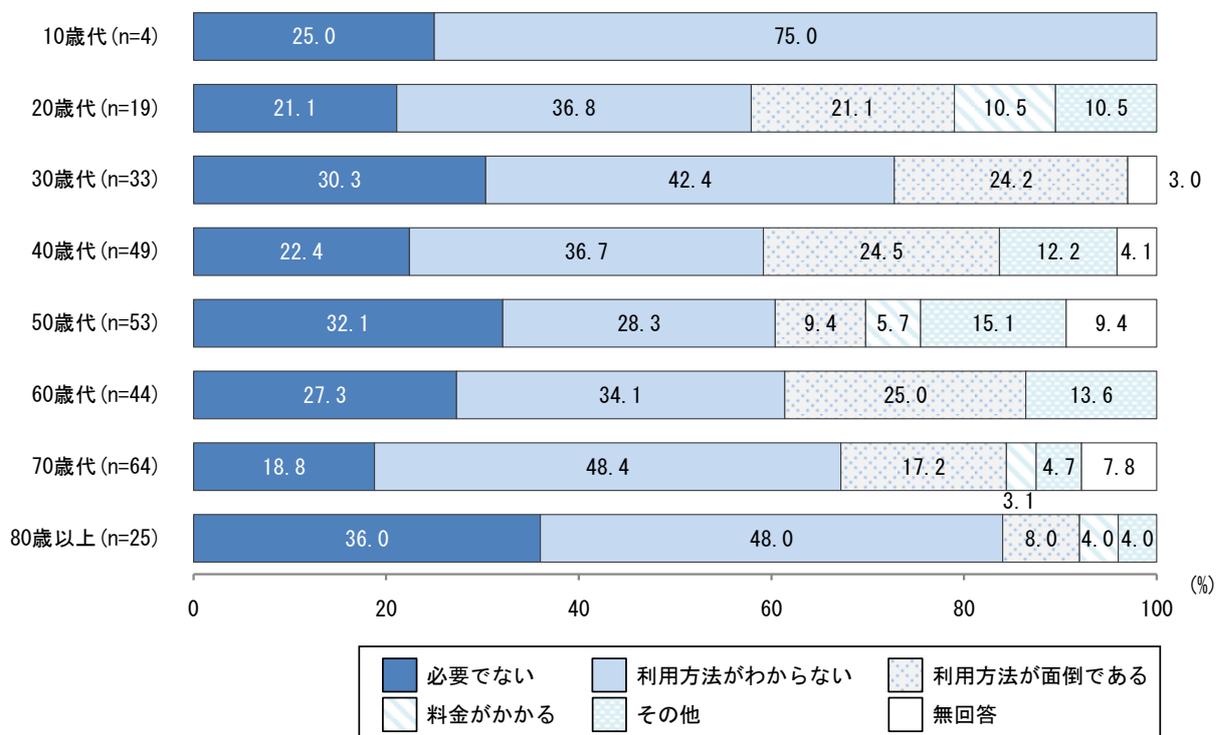
知っているが、利用していない理由をお答えください。(〇は、1つ)



防災情報メールによる情報提供を利用していない理由について、「利用方法がわからない」との回答は 39.5%と最も高く、次いで「必要でない」(26.1%)、「利用方法が面倒である」(18.2%)などの順となっている。

前回調査と比較すると、大きな差はみられない。

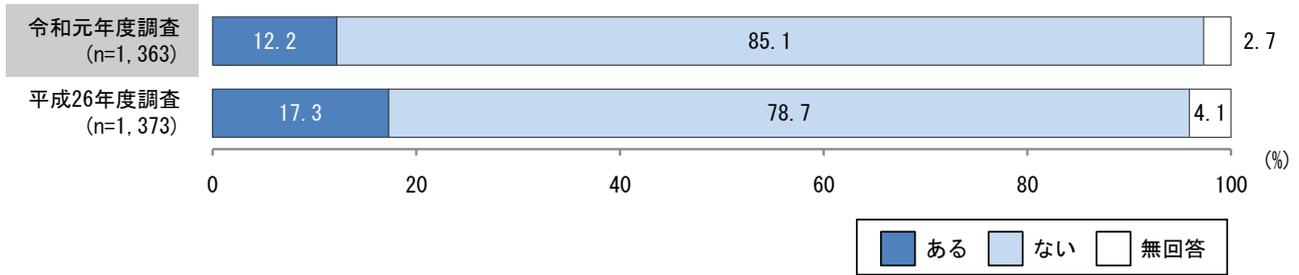
【図表 防災情報メールによる情報提供を利用していない理由 (年代別)】



防災情報メールによる情報提供を利用していない理由について、年代別にみると、50歳代を除くすべての年代で「利用方法がわからない」との回答が高く、50歳代は「必要でない」との回答が高くなっている。

問 21 あなたは、インターネット上でトラブルに巻き込まれたことがありますか。

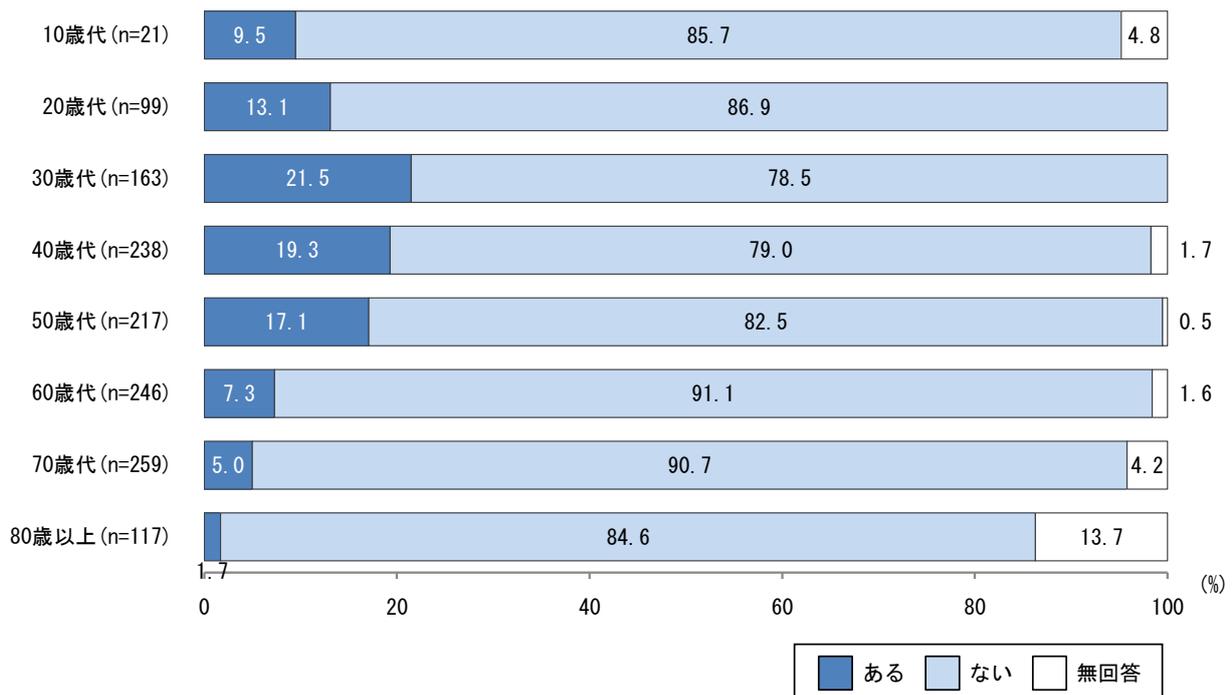
(○は、1つ)



インターネット上でトラブルに巻き込まれた経験の有無について、「ある」との回答が12.2%、「ない」との回答が85.1%となっている。

前回調査と比較すると、「ある」との回答は今回調査が前回調査を5.1ポイント下回っている。

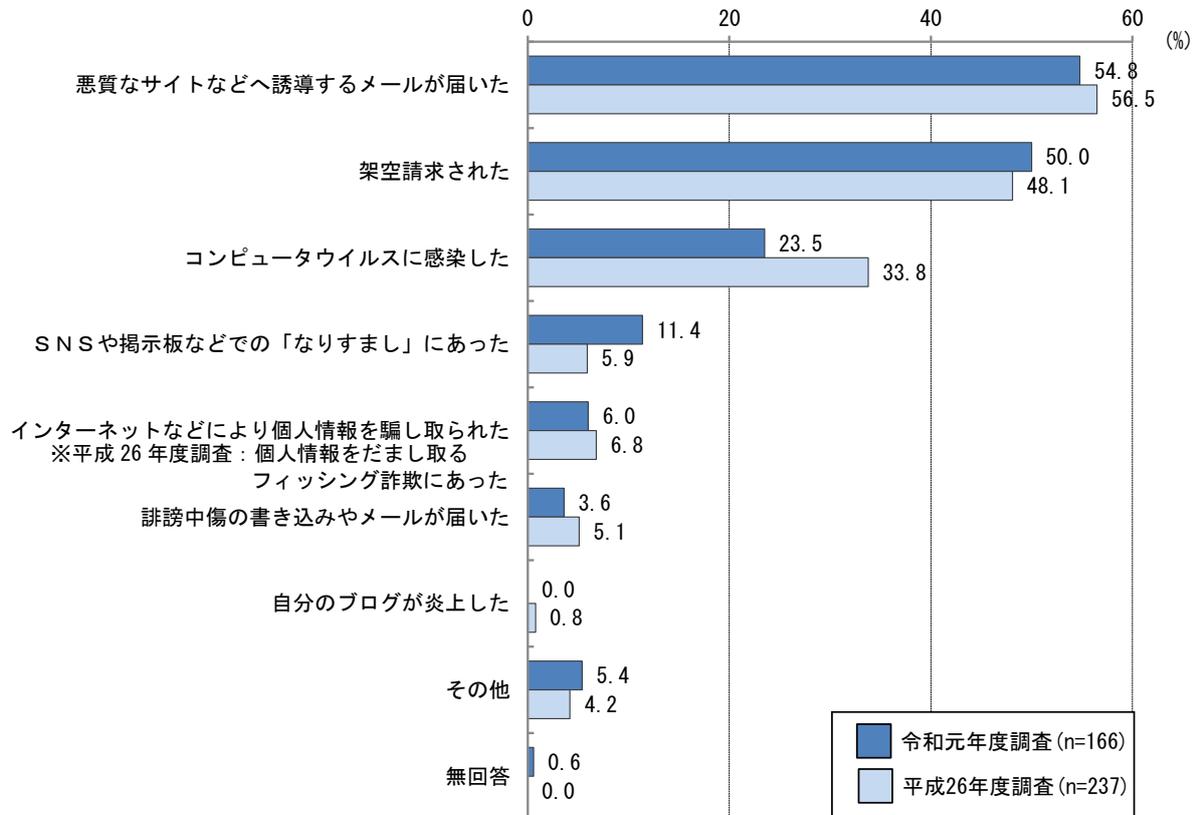
【図表 インターネット上でトラブルに巻き込まれた経験の有無（年代別）】



インターネット上でトラブルに巻き込まれた経験の有無について、年代別にみると、30～50歳代で「ある」との回答が2割前後と高くなっている。

問 22 【問 21 で、「1 ある」と回答された方】

どのようなトラブルに巻き込まれたか、お答えください。(〇は、いくつでも)



インターネット上で巻き込まれたトラブルの内容について、「悪質なサイトなどへ誘導するメールが届いた」との回答が 54.8% と最も高く、次いで「架空請求された」(50.0%)、「コンピュータウイルスに感染した」(23.5%) などの順となっている。

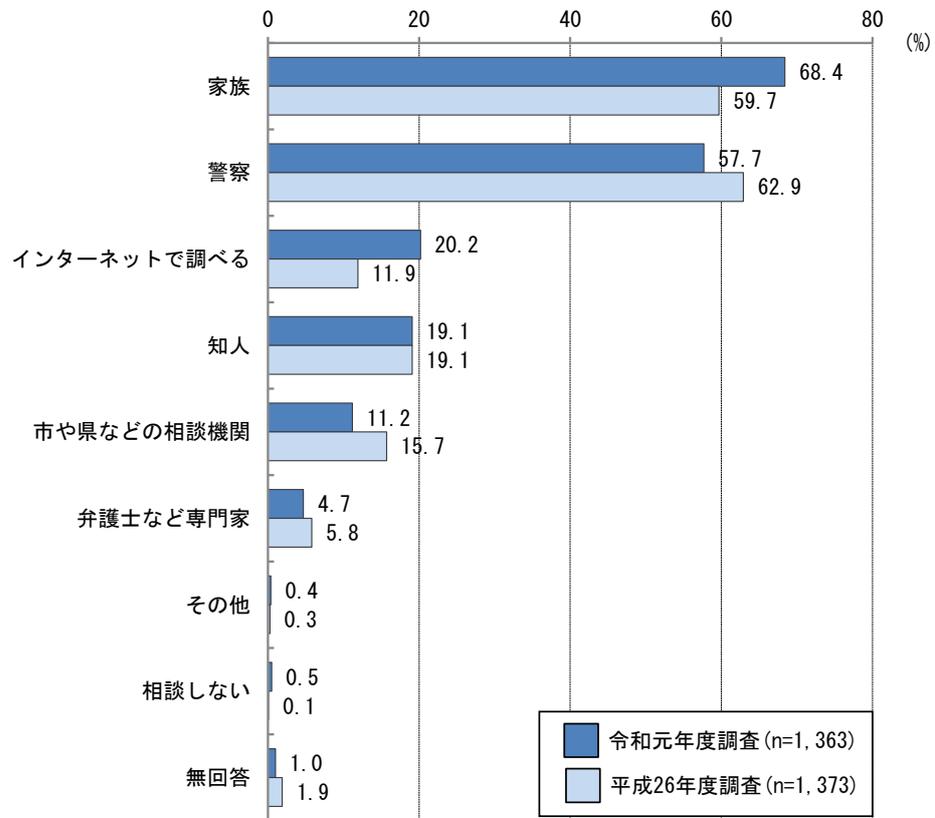
前回調査と比較すると、「コンピュータウイルスに感染した」との回答は今回調査が前回調査を 10.3 ポイント下回っている。一方、「SNSや掲示板などでの「なりすまし」にあった」との回答は今回調査が前回調査を 5.5 ポイント上回っている。

【図表 インターネット上で巻き込まれたトラブルの内容（年代別）】

		(%)						
		件数	悪質なサイトなどへ誘導するメールが届いた	架空請求された	コンピュータウイルスに感染した	「SNSや掲示板などであった」「なりすまし」に	「より個人情報などを騙し取られた」	誹謗中傷の書き込みやメールが届いた
全体		166	54.8	50.0	23.5	11.4	6.0	3.6
年代別	10歳代	2	0.0	50.0	0.0	0.0	0.0	50.0
	20歳代	13	38.5	69.2	15.4	7.7	0.0	15.4
	30歳代	35	60.0	57.1	17.1	14.3	14.3	0.0
	40歳代	46	56.5	50.0	23.9	6.5	6.5	6.5
	50歳代	37	64.9	37.8	24.3	18.9	2.7	0.0
	60歳代	18	38.9	55.6	33.3	11.1	5.6	0.0
	70歳代	13	53.8	38.5	30.8	7.7	0.0	0.0
	80歳以上	2	50.0	50.0	50.0	0.0	0.0	0.0

インターネット上で巻き込まれたトラブルの内容について、年代別にみると、30歳代は「悪質なサイトなどへ誘導するメールが届いた」、「架空請求された」、40～50歳代は「悪質なサイトなどへ誘導するメールが届いた」との回答が高くなっている。

問 23 あなたが、犯罪にあうかもしれないと不安を感じた場合に相談するとしたら、次のうちどれですか。(〇は、2つ以内)

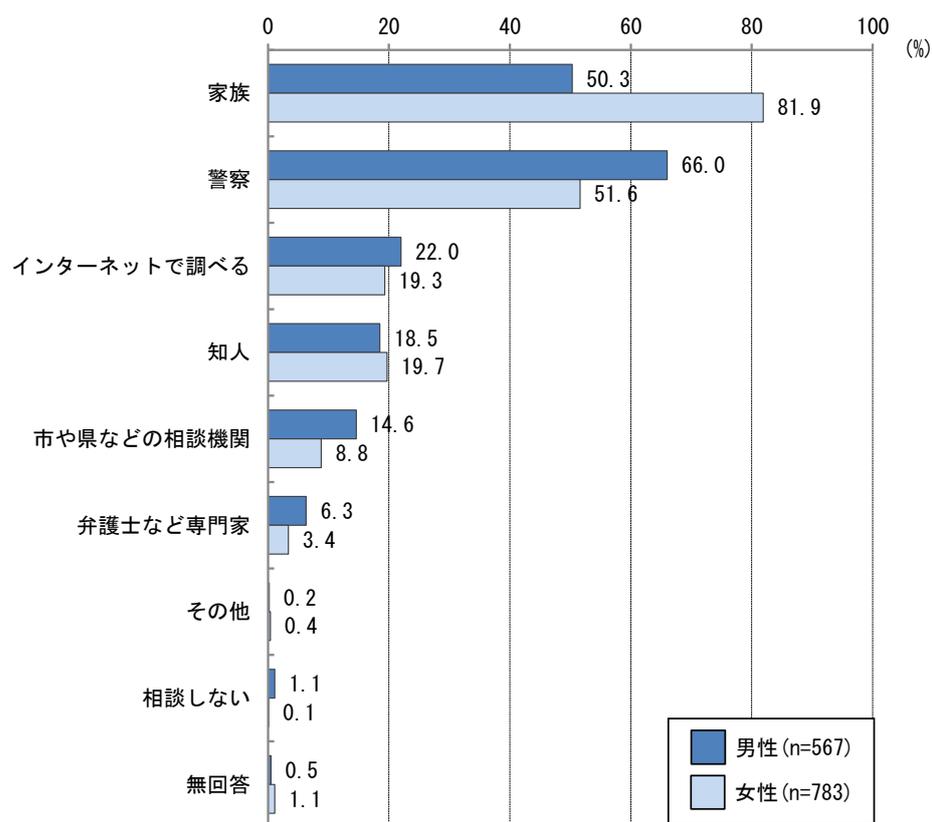


犯罪にあうかもしれないと不安を感じた場合の相談先について、「家族」との回答が68.4%と最も高く、次いで「警察」57.7%などの順となっている。

犯罪にあうかもしれないと不安を感じた場合は家族や警察に相談する人が圧倒的に多い。

前回調査と比較すると、「家族」との回答は8.7ポイント、「インターネットで調べる」との回答は8.3ポイント今回調査が前回調査を上回っている。一方、「警察」との回答は今回調査が前回調査を5.2ポイント下回っている。

【図表 犯罪にあうかもしれないと不安を感じた場合の相談先（性別）】



犯罪にあうかもしれないと不安を感じた場合の相談先について、性別にみると、「家族」との回答は女性（81.9%）が男性（50.3%）を31.6ポイント上回っている。一方、「警察」との回答は男性（66.0%）が女性（51.6%）を14.4ポイント、「市や県などの相談機関」との回答は男性（14.6%）が女性（8.8%）を5.8ポイント上回っている。

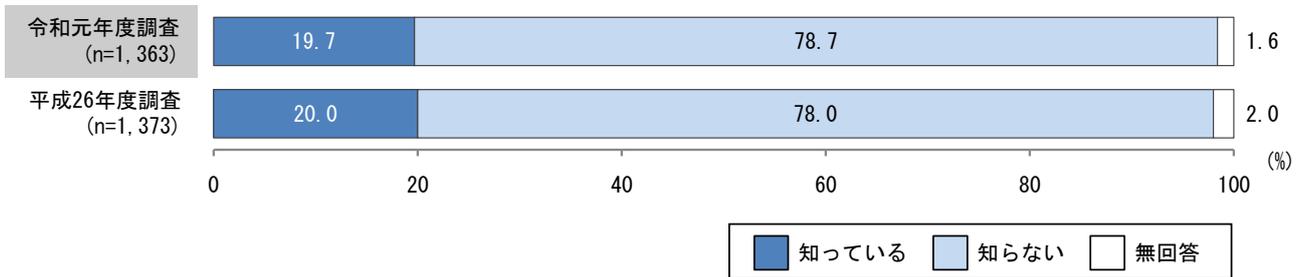
【図表 犯罪にあうかもしれないと不安を感じた場合の相談先（年代別）】

		(%)								
		件数	家族	警察	インターネットで調べる	知人	市や県などの相談機関	弁護士など専門家	その他	相談しない
全体		1,363	68.4	57.7	20.2	19.1	11.2	4.7	0.4	0.5
年代別	10歳代	21	66.7	38.1	47.6	9.5	0.0	0.0	0.0	4.8
	20歳代	99	87.9	33.3	28.3	28.3	5.1	1.0	0.0	0.0
	30歳代	163	70.6	44.8	30.7	22.1	8.6	4.3	0.0	1.2
	40歳代	238	73.5	49.2	32.4	21.8	7.1	4.6	0.8	0.0
	50歳代	217	64.5	59.0	26.3	19.8	9.7	8.3	0.0	0.5
	60歳代	246	63.0	66.7	17.1	15.9	16.7	5.7	0.4	0.4
	70歳代	259	66.4	67.6	4.6	15.4	17.0	4.2	0.4	0.8
	80歳以上	117	60.7	73.5	0.0	17.1	9.4	1.7	1.7	0.0

犯罪にあうかもしれないと不安を感じた場合の相談先について、年代別にみると、10～50歳代は「家族」、60～70歳代は「家族」、「警察」、80歳以上は「警察」との回答が高くなっている。

問 24 あなたは、本市に、暴力被害相談センターがあることを知っていますか。

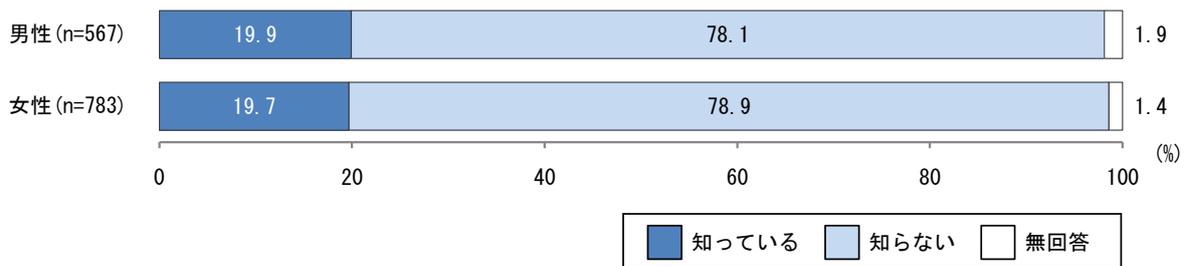
(○は、1つ)



暴力被害相談センターの認知度について、「知っている」との回答は19.7%、「知らない」との回答は78.7%となっている。

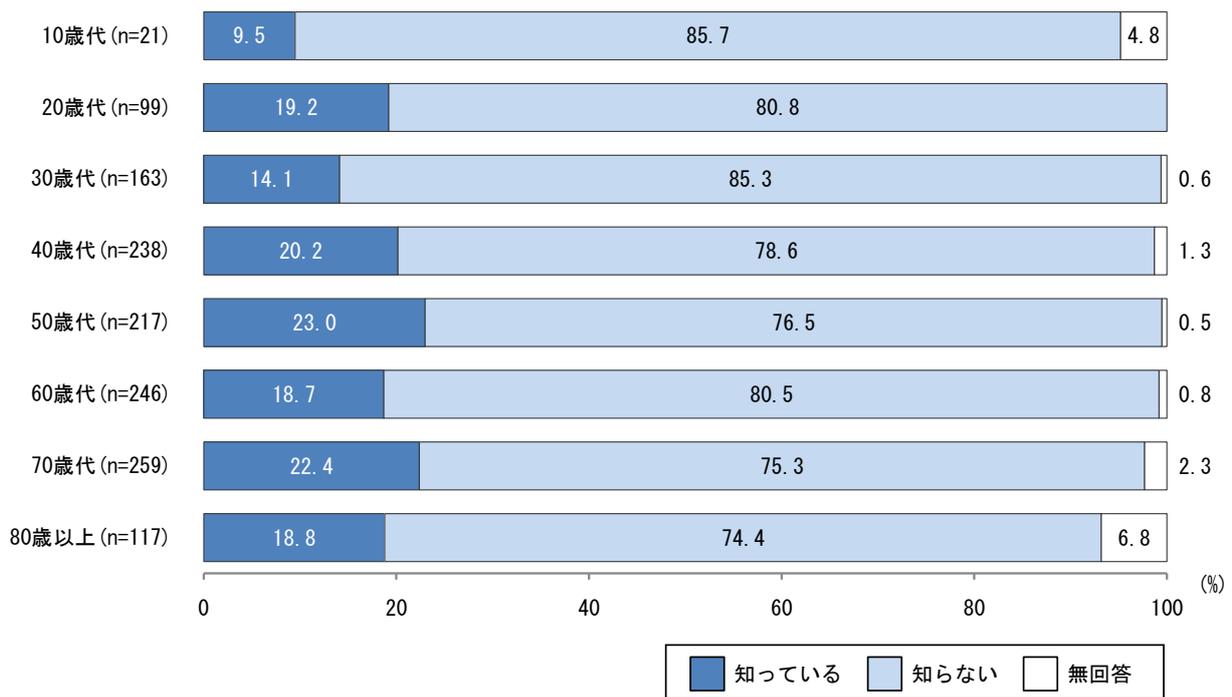
前回調査と比較すると、大きな差はみられない。

【図表 暴力被害相談センターの認知度（性別）】



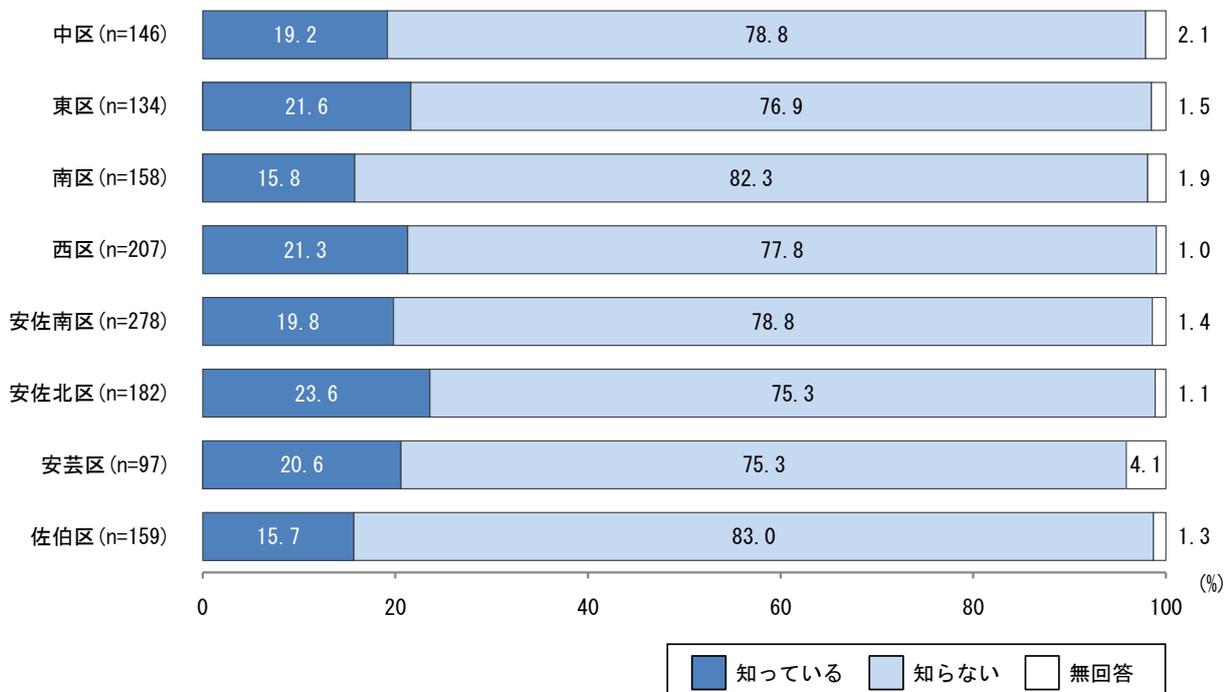
暴力被害相談センターの認知度について、性別にみると、大きな差はみられない。

【図表 暴力被害相談センターの認知度（年代別）】



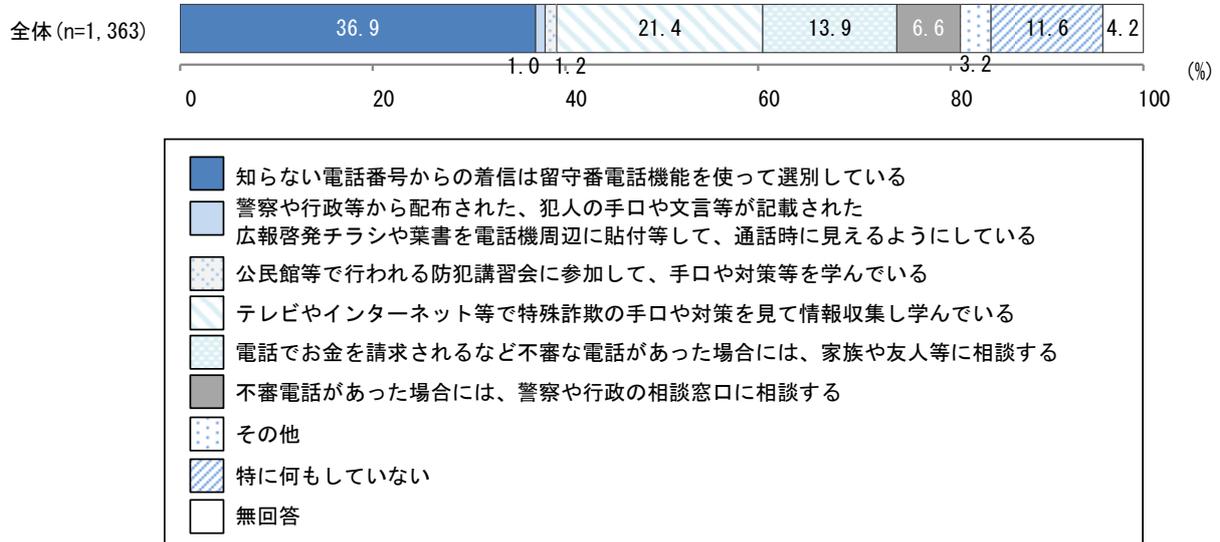
暴力被害相談センターの認知度について、年代別にみると、「知っている」との回答は10歳代で約1割と低くなっている。

【図表 暴力被害相談センターの認知度（居住地区別）】



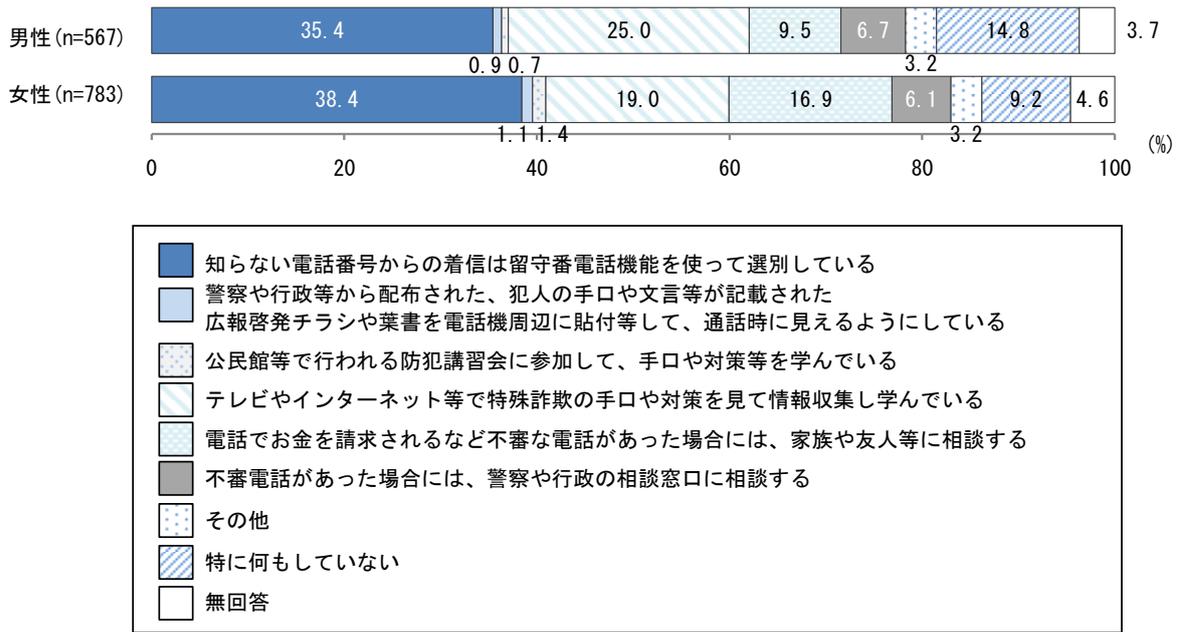
暴力被害相談センターの認知度について、居住地区別にみると、「知っている」との回答は南区、佐伯区が1割台半ばとやや低くなっている。

問 25 近年、なりすまし詐欺や架空請求詐欺などの特殊詐欺が発生していますが、あなたはどのような対策をとっていますか。対策をとっている中で、最も重要と考えるもの1つを選んでください。(〇は、1つ)



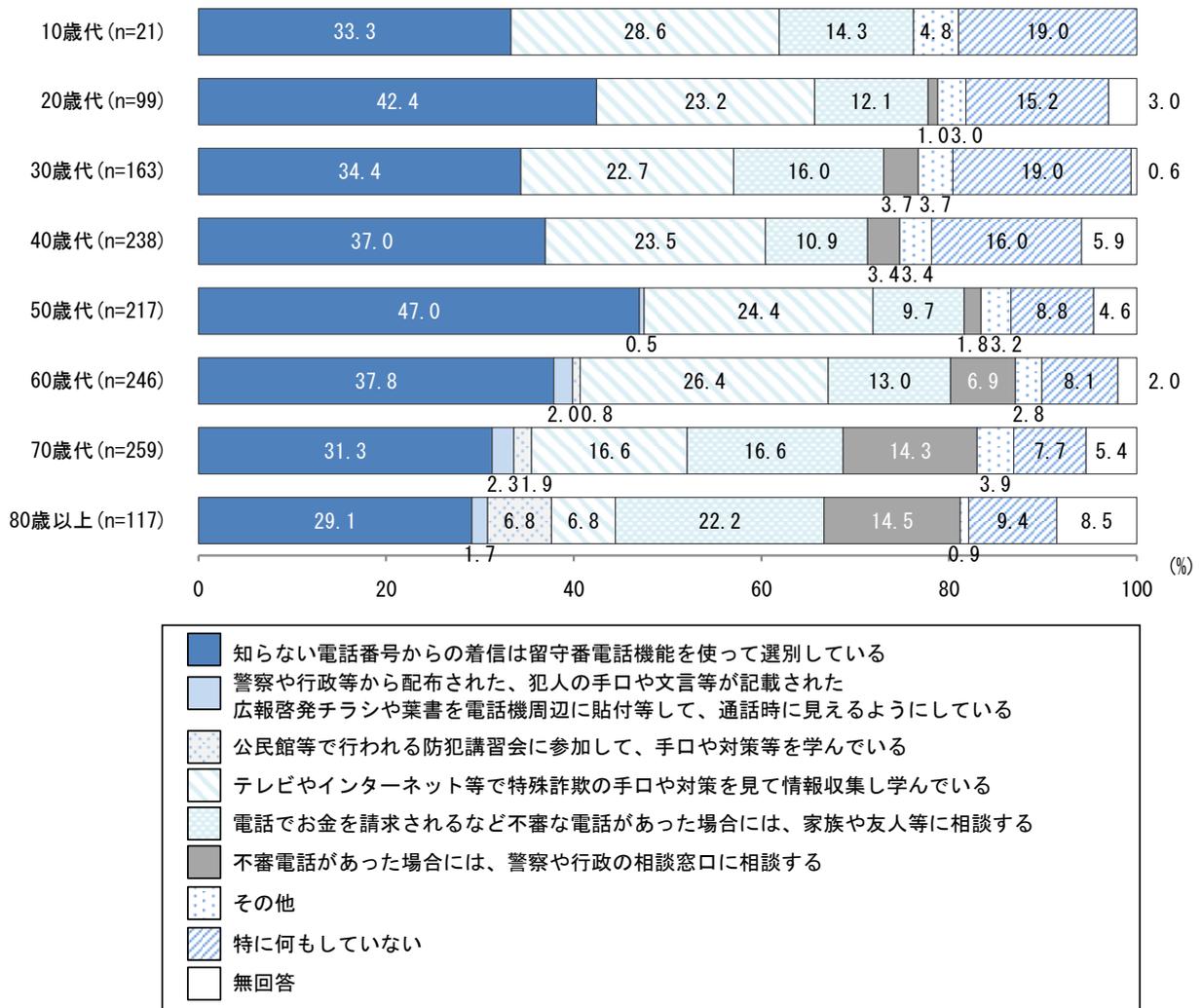
特殊詐欺の被害にあわないために行っている対策について、「知らない電話番号からの着信は留守番電話機能を使って選別している」との回答が36.9%と最も高く、次いで「テレビやインターネット等で特殊詐欺の手口や対策を見て情報収集し学んでいる」(21.4%)、「電話でお金を請求されるなど不審な電話があった場合には、家族や友人等に相談する」(13.9%)などの順となっている。

【図表 特殊詐欺の被害にあわないためにとっている対策（性別）】



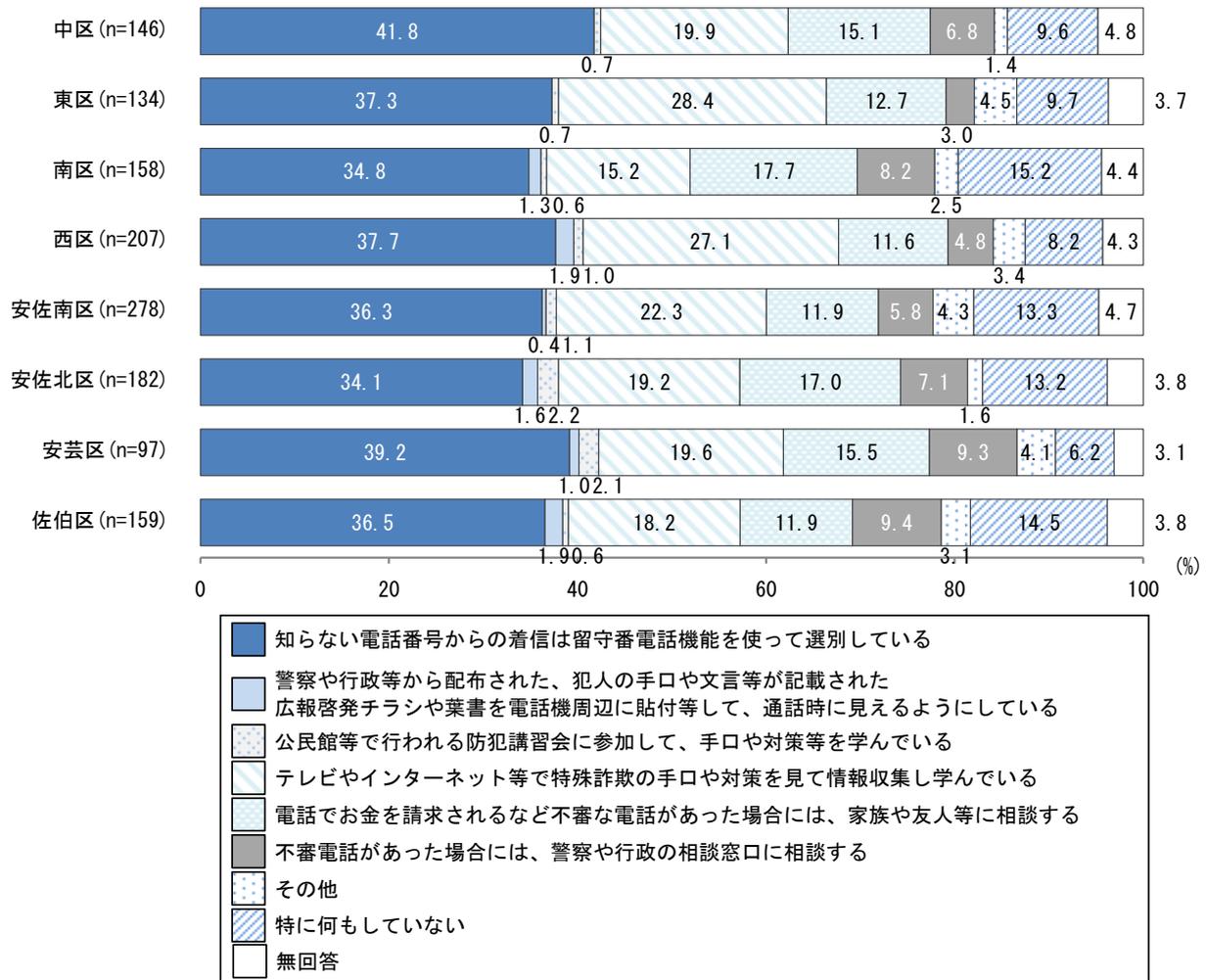
特殊詐欺の被害にあわないためにとっている対策について、性別にみると、「テレビやインターネット等で特殊詐欺の手口や対策を見て情報収集し学んでいる」との回答は男性（25.0%）が女性（19.0%）を6.0ポイント上回っている。「特に何もしていない」との回答は男性（14.8%）が女性（9.2%）を5.6ポイント上回っている。一方、「電話でお金を請求されるなど不審な電話があった場合には、家族や友人等に相談する」との回答は女性（16.9%）が男性（9.5%）を7.4ポイント上回っている。

【図表 特殊詐欺の被害にあわないために行っている対策（年代別）】



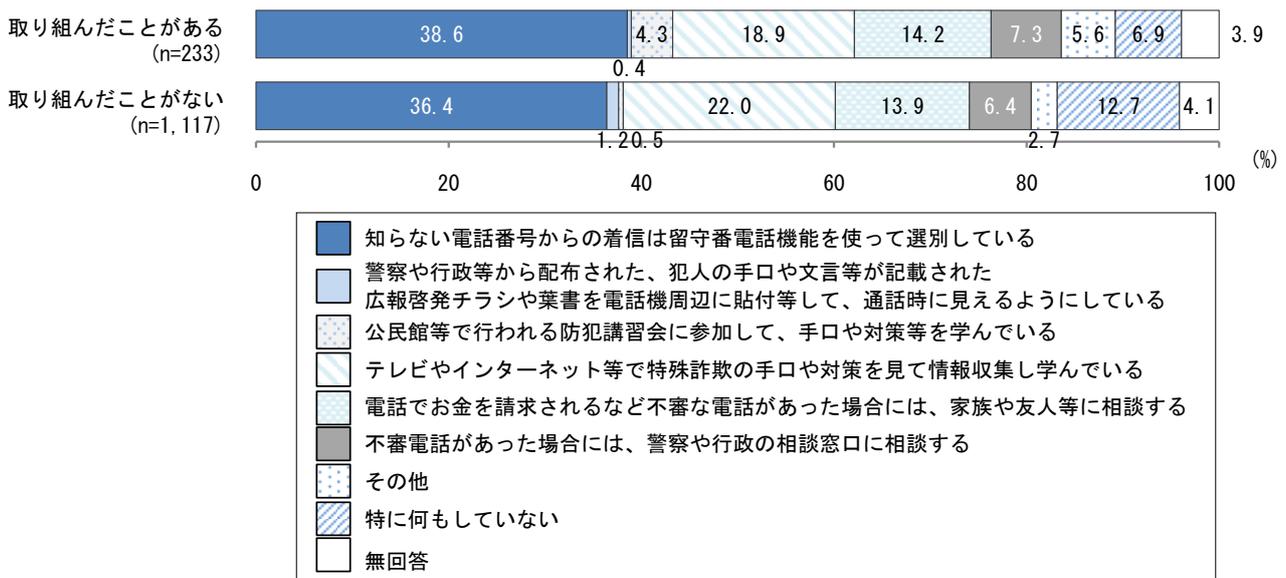
特殊詐欺の被害にあわないために行っている対策について、年代別にみると、すべての年代で「知らない電話番号からの着信は留守番電話機能を使って選別している」との回答が高くなっている。

【図表 特殊詐欺の被害にあわないために行っている対策（居住地区別）】



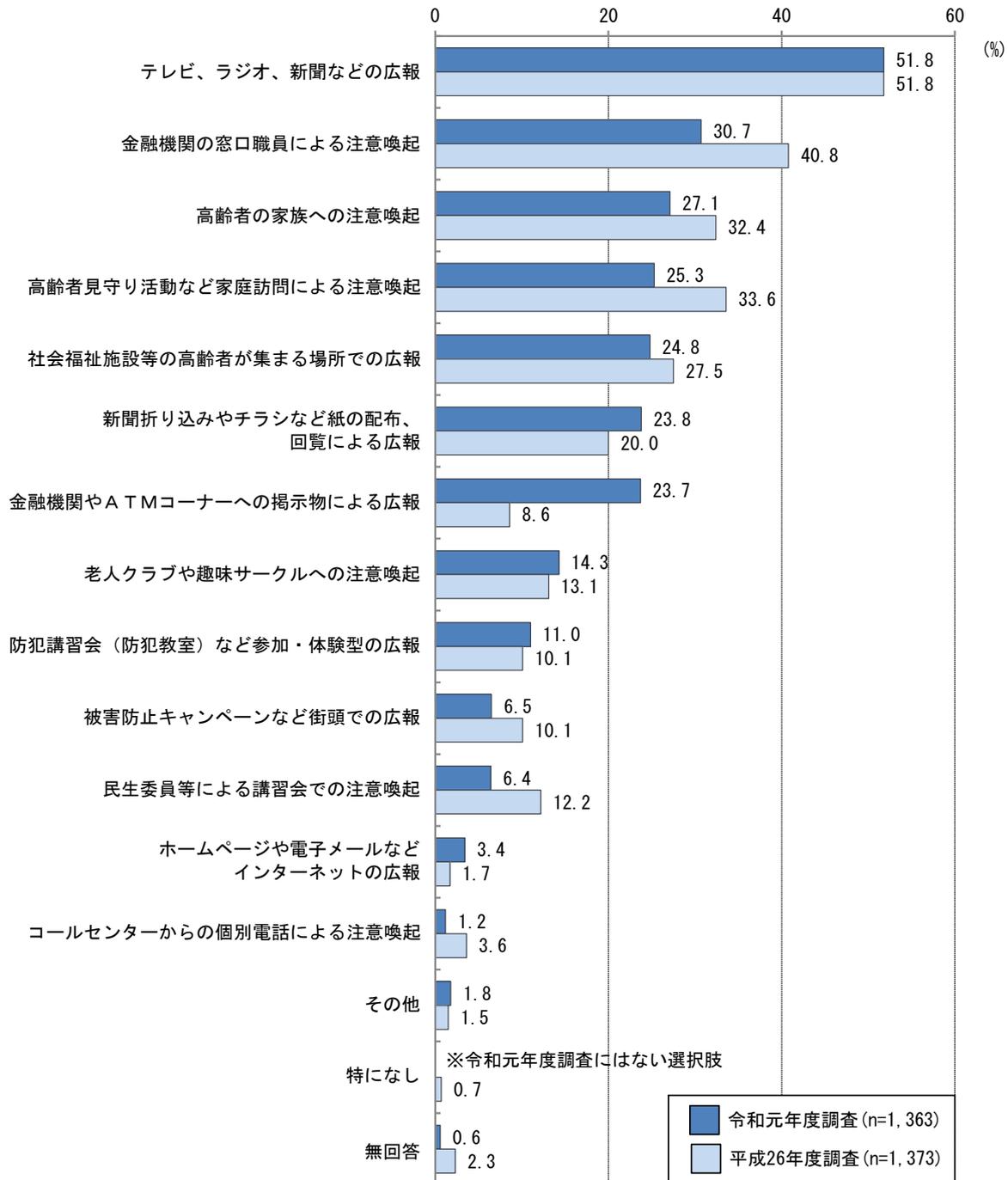
特殊詐欺の被害にあわないために行っている対策について、居住地区別にみると、すべての地区で「知らない電話番号からの着信は留守番電話機能を使って選別している」との回答が高くなっている。

【図表 特殊詐欺の被害にあわないために行っている対策（防犯活動への取組の有無別）】



特殊詐欺の被害にあわないために行っている対策について、防犯活動への取組の有無別にみると、「特に何もしていない」との回答は防犯活動を取り組んだことがない人(12.7%)がある人(6.9%)を5.7ポイント上回っている。

問 26 あなたは、被害者の多くを占める高齢者が特殊詐欺の被害にあわないため行政や警察が行う取組は何が有効だと思いますか。(〇は、3つ以内)



高齢者が特殊詐欺の被害にあわないために行政や警察が行うべき取組について、「テレビ、ラジオ、新聞などの広報」との回答が51.8%と最も高く、次いで「金融機関の窓口職員による注意喚起」(30.7%)、「高齢者の家族への注意喚起」(27.1%)などの順となっている。

高齢者が特殊詐欺の被害にあわないようにするために、テレビやラジオ、新聞などで広報することが有効であるといえる。

前回調査と比較すると、「金融機関等の窓口職員による注意喚起」との回答は10.1ポイント、「高齢者の家族への注意喚起」との回答は5.3ポイント、「高齢者見守り活動など家庭訪問による注意

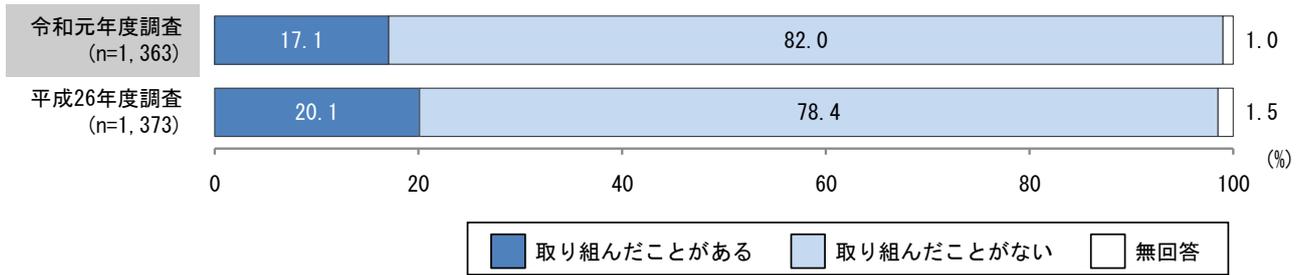
喚起」との回答は 8.3 ポイント、「民生委員等による講習会での注意喚起」との回答は 5.8 ポイント  
 今回調査が前回調査を下回っている。一方、「金融機関やATMコーナーへの掲示物による広報」  
 との回答は今回調査が前回調査を 15.1 ポイント上回っている。

【図表 高齢者が特殊詐欺の被害にあわないために行政や警察が行うべき取組（年代別）】

		(%)							
		件数	テレビ、ラジオ、新聞などの広報	金融機関の窓口職員による注意喚起	高齢者の家族への注意喚起	高齢者訪問による活動など	社会福祉施設等での高齢者集まる場所での広報	新聞折り込み、チラシなど	金融機関やATMコーナーへの掲示物による広報
全体		1,363	51.8	30.7	27.1	25.3	24.8	23.8	23.7
年代別	10歳代	21	47.6	9.5	42.9	33.3	23.8	19.0	9.5
	20歳代	99	39.4	27.3	38.4	23.2	39.4	24.2	19.2
	30歳代	163	40.5	30.7	33.1	28.2	28.8	16.6	25.2
	40歳代	238	47.9	29.4	37.0	30.3	26.1	21.0	21.4
	50歳代	217	48.4	41.9	27.2	31.3	25.8	16.6	28.1
	60歳代	246	56.1	32.1	25.2	21.5	28.5	20.7	26.8
	70歳代	259	61.8	27.4	16.2	19.3	13.5	37.5	24.7
	80歳以上	117	61.5	24.8	13.7	22.2	20.5	29.9	13.7

高齢者が特殊詐欺の被害にあわないために行政や警察が行うべき取組について、年代別にみると、20～30歳代を除くすべての年代で「テレビ、ラジオ、新聞などの広報」との回答が高くなっている。

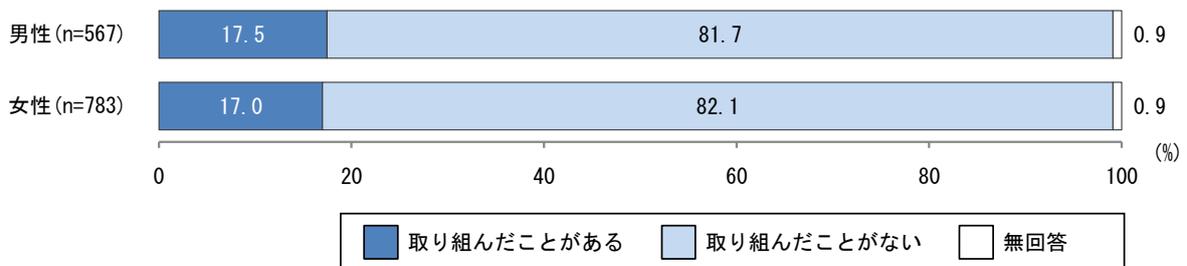
問 27 あなたは、地域で防犯活動に取り組んだことがありますか。(〇は、1つ)



防犯活動への取組の有無について、「取り組んだことがある」との回答が17.1%、「取り組んだことがない」との回答が82.0%となっている。

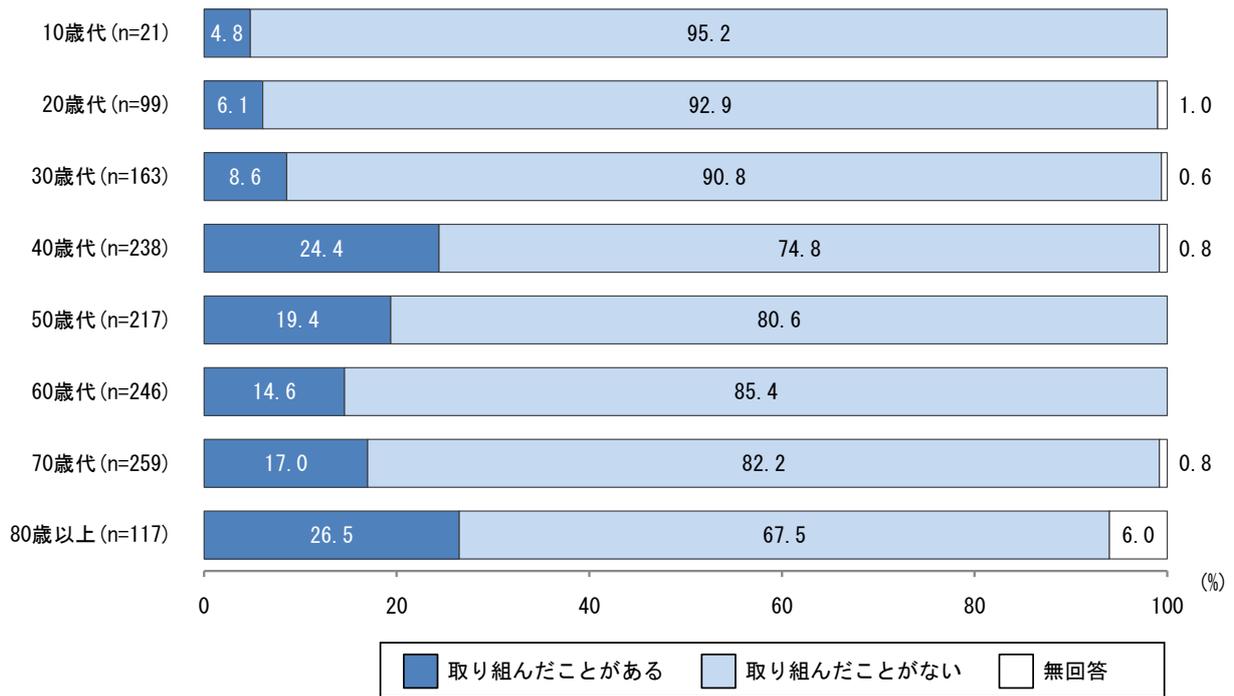
前回調査と比較すると、大きな差はみられない。

【図表 防犯活動への取組の有無（性別）】



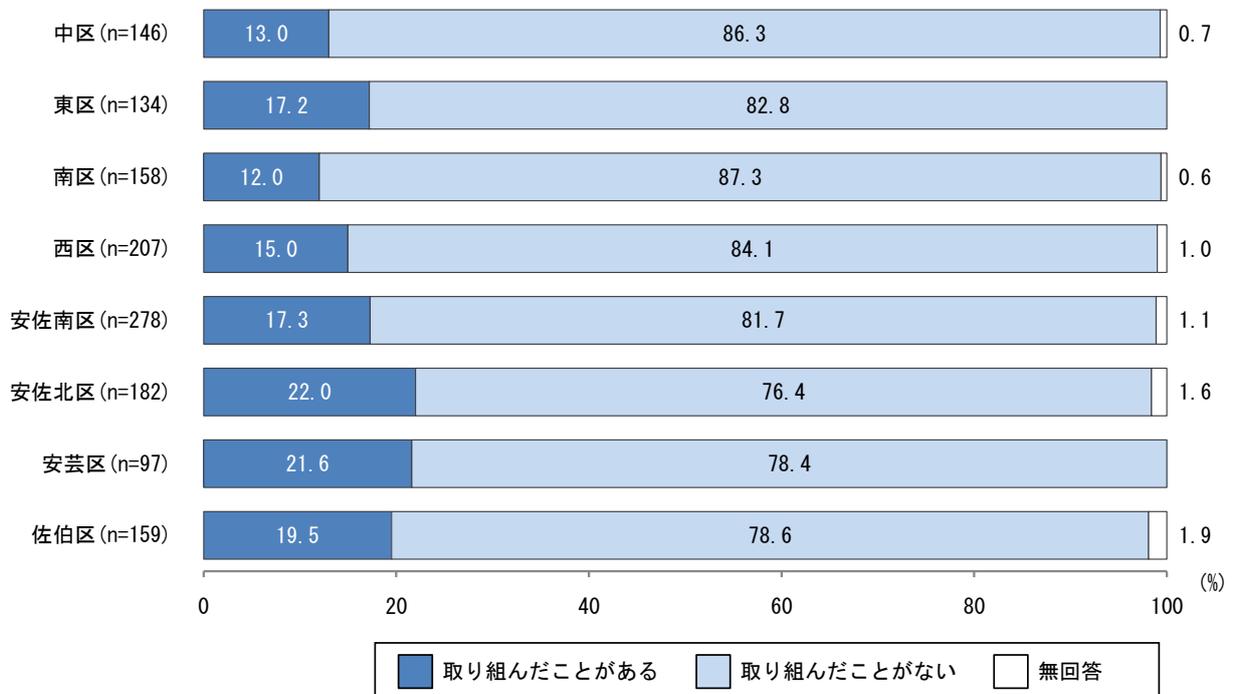
防犯活動への取組の有無について、性別にみると、大きな差はみられない。

【図表 防犯活動への取組の有無（年代別）】



防犯活動への取組の有無について、年代別にみると、「取組んだことがある」との回答は40歳代、80歳以上で2割台半ばと高くなっている。

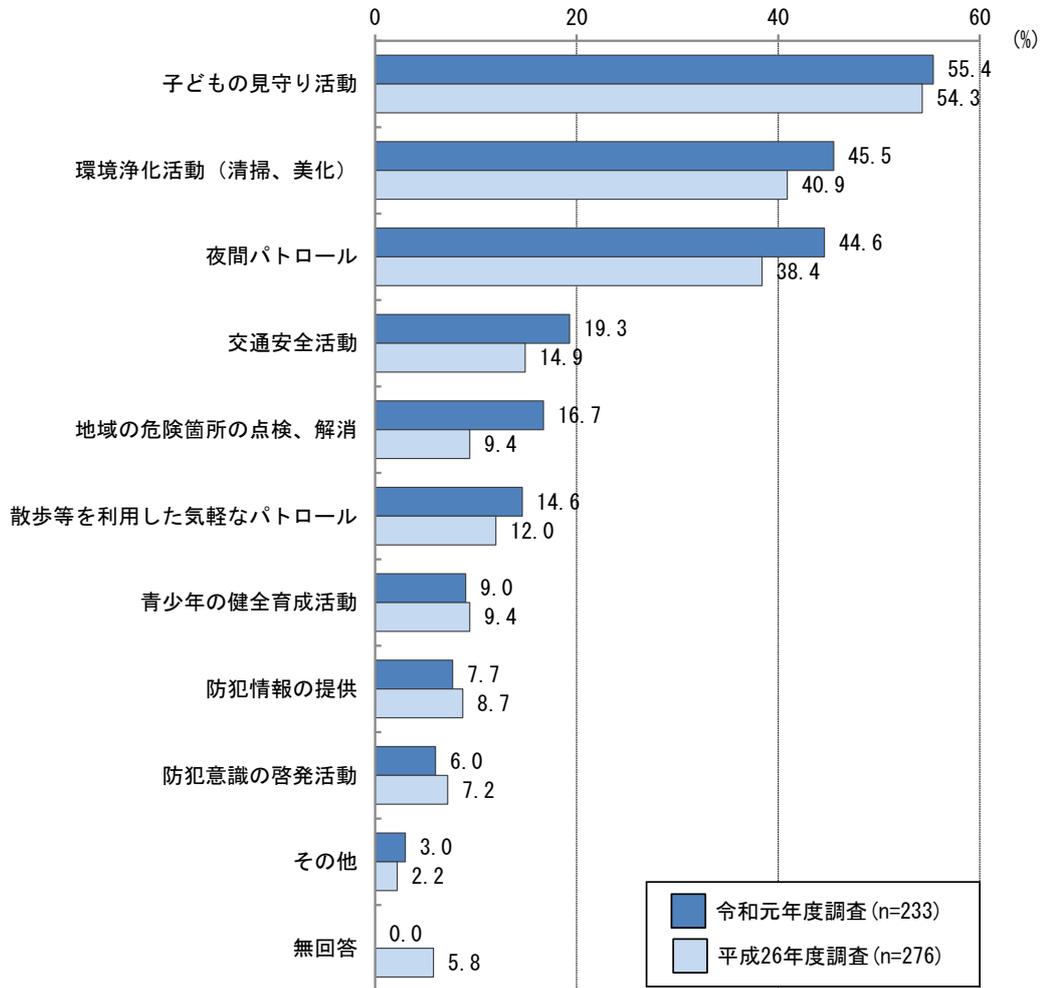
【図表 防犯活動への取組の有無（居住地区別）】



防犯活動への取組の有無について、居住地区別にみると、大きな差はみられない。

問 28 【問 27 で、「1 取り組んだことがある」と回答された方】

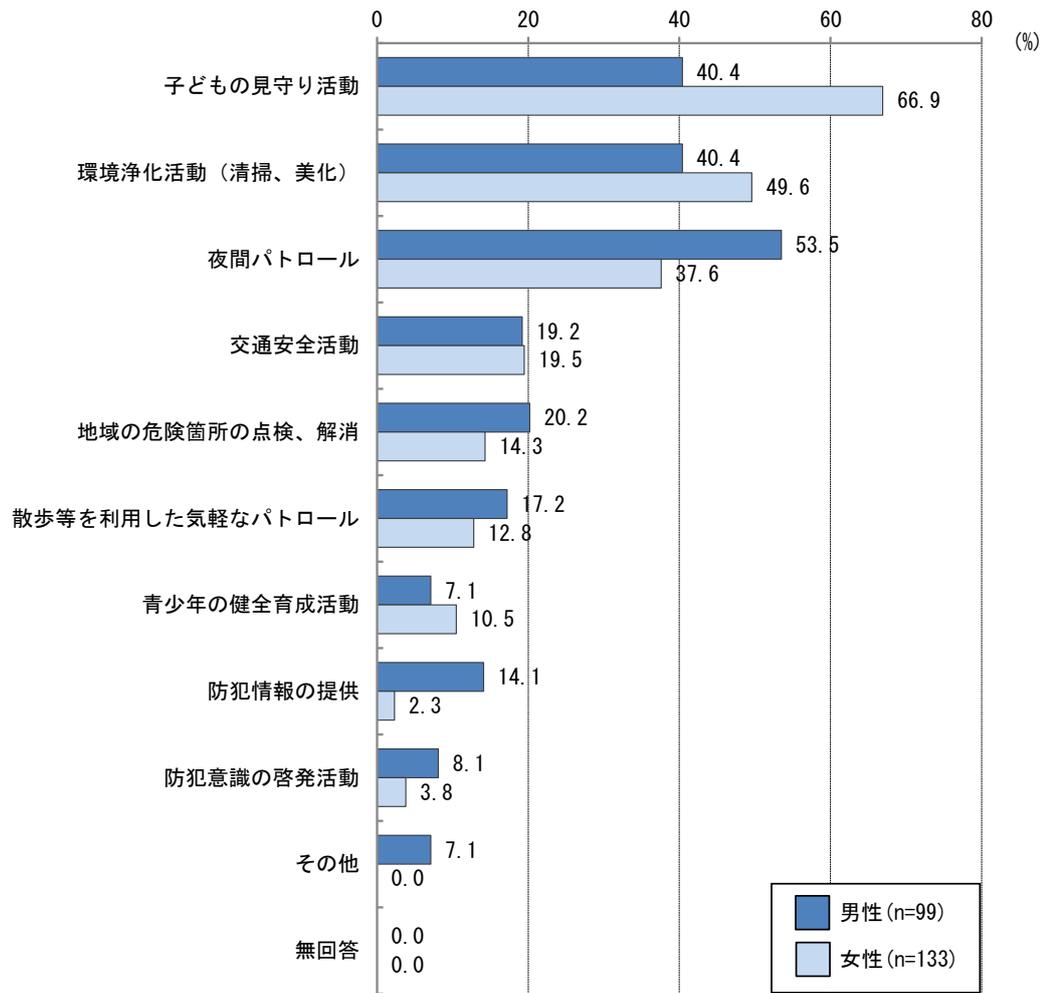
取り組んだことがある活動内容を回答してください。(〇は、いくつでも)



取り組んだことがある活動内容について、「子どもの見守り活動」との回答が 55.4%と最も高く、次いで「環境浄化活動 (清掃、美化)」(45.5%)、「夜間パトロール」(44.6%) などの順となっている。

前回調査と比較すると、「夜間パトロール」との回答は今回調査が前回調査を 6.2 ポイント上回っている。

【図表 取り組んだことがある活動内容（性別）】



取り組んだことがある活動内容について、性別にみると、「子どもの見守り活動」との回答は女性（66.9%）が男性（40.4%）を26.5ポイント、「環境浄化活動（清掃、美化）」との回答は女性（49.6%）が男性（40.4%）を9.2ポイント上回っている。一方、「夜間パトロール」との回答は男性（53.5%）が女性（37.6%）を15.9ポイント、「地域の危険箇所の点検、解消」との回答は男性（20.2%）が女性（14.3%）を5.9ポイント、「防犯情報の提供」との回答は男性（14.1%）が女性（2.3%）を11.8ポイント上回っている。

【図表 取り組んだことがある活動内容（年代別）】

		件数							(%)
			子どもの見守り活動	掃、環境浄化活動（清美化）	夜間パトロール	交通安全活動	検、地域の危険箇所の点検、解消	な散歩等を利用した気軽なパトロール	青少年の健全育成活動
全体		233	55.4	45.5	44.6	19.3	16.7	14.6	9.0
年代別	10歳代	1	0.0	100.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0
	20歳代	6	16.7	83.3	16.7	50.0	0.0	0.0	0.0
	30歳代	14	71.4	28.6	35.7	7.1	14.3	21.4	7.1
	40歳代	58	72.4	39.7	39.7	10.3	20.7	13.8	5.2
	50歳代	42	54.8	45.2	45.2	16.7	4.8	7.1	7.1
	60歳代	36	44.4	41.7	61.1	27.8	25.0	8.3	19.4
	70歳代	44	45.5	50.0	52.3	20.5	22.7	13.6	11.4
	80歳以上	31	54.8	54.8	32.3	29.0	12.9	35.5	6.5

取り組んだことがある活動内容について、年代別にみると、40～50歳代は「子どもの見守り活動」、60歳代は「夜間パトロール」、80歳以上は「子どもの見守り活動」、「環境浄化活動（清掃、美化）」との回答が高くなっている。

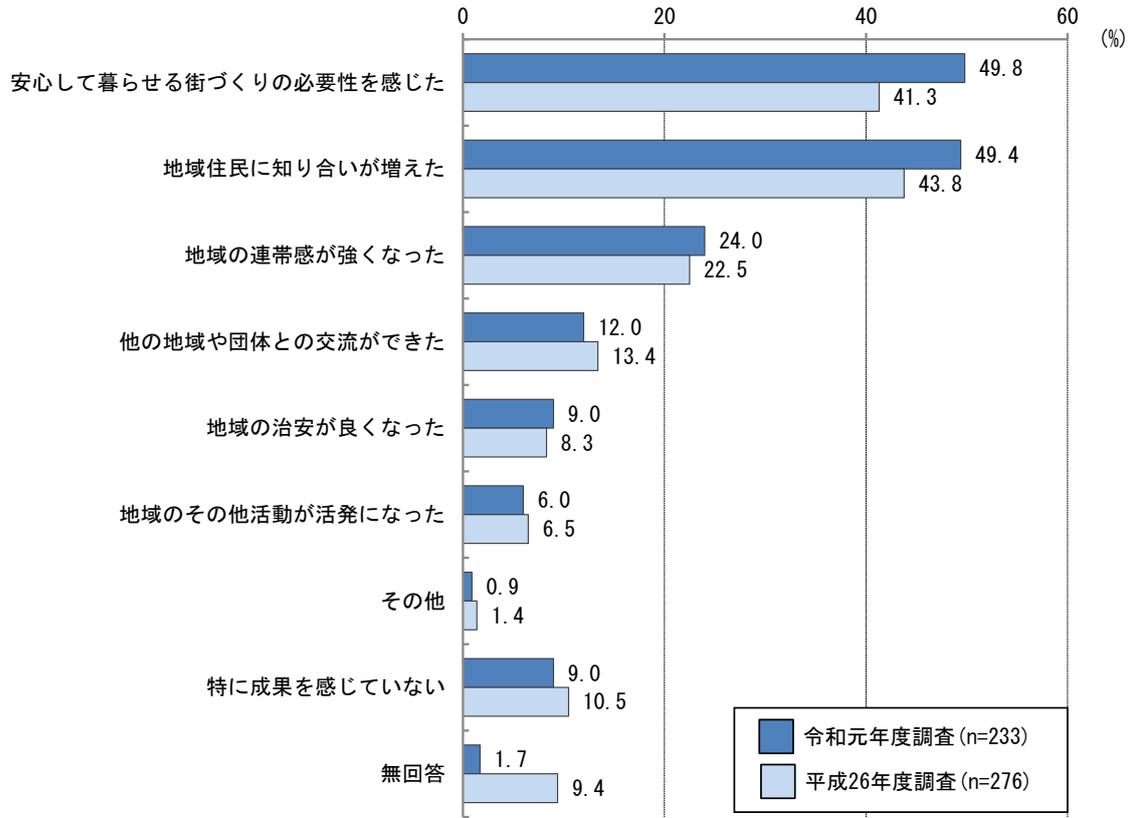
【図表 取り組んだことがある活動内容（居住地区別）】

		件数							(%)
			子どもの見守り活動	掃、環境浄化活動（清美化）	夜間パトロール	交通安全活動	検、地域の危険箇所の点検、解消	な散歩等を利用した気軽なパトロール	
全体		233	55.4	45.5	44.6	19.3	16.7	14.6	
居住地区別	中区	19	63.2	26.3	57.9	15.8	5.3	5.3	
	東区	23	39.1	43.5	56.5	17.4	26.1	17.4	
	南区	19	47.4	63.2	36.8	21.1	15.8	10.5	
	西区	31	61.3	54.8	29.0	32.3	29.0	16.1	
	安佐南区	48	58.3	33.3	50.0	10.4	10.4	14.6	
	安佐北区	40	40.0	55.0	42.5	17.5	17.5	12.5	
	安芸区	21	76.2	57.1	42.9	28.6	19.0	23.8	
	佐伯区	31	64.5	38.7	41.9	19.4	12.9	16.1	

取り組んだことがある活動内容について、居住地区別にみると、西区、安佐南区、安芸区、佐伯区は「子どもの見守り活動」との回答が高くなっている。

問 29 【問 27 で、「1 取り組んだことがある」と回答された方】

防犯活動に取り組んで、どのような成果があったと感じていますか。(〇は、いくつでも)



防犯活動の成果について、「安心して暮らせる街づくりの必要性を感じた」との回答が 49.8%と最も高く、次いで「地域住民に知り合いが増えた」(49.4%)、「地域の連帯感が強くなった」(24.0%)などの順となっている。

防犯活動に取り組み、「安心して暮らせる街づくりの必要性を感じた」、「地域住民に知り合いが増えた」といった成果を感じている。

前回調査と比較すると、「安心して暮らせる街づくりの必要性を感じた」との回答は 8.5 ポイント、「地域住民に知り合いが増えた」との回答は 5.6 ポイント今回調査が前回調査を上回っている。

【図表 防犯活動の成果（年代別）】

		件数	く安心の必要性を感じた	増えた地域住民に知り合いが	なつた地域の連帯感が強く	流他の地域や団体との交	た地域の治安が良くなつ	発地域のその他活動が活	その他	い特に成果を感じていな
全体		233	49.8	49.4	24.0	12.0	9.0	6.0	0.9	9.0
年代別	10歳代	1	0.0	0.0	100.0	100.0	0.0	0.0	0.0	0.0
	20歳代	6	33.3	33.3	16.7	16.7	16.7	16.7	0.0	16.7
	30歳代	14	50.0	50.0	14.3	14.3	7.1	0.0	0.0	14.3
	40歳代	58	43.1	41.4	15.5	0.0	10.3	1.7	0.0	13.8
	50歳代	42	45.2	54.8	23.8	7.1	7.1	4.8	2.4	9.5
	60歳代	36	47.2	55.6	27.8	16.7	5.6	8.3	0.0	5.6
	70歳代	44	61.4	47.7	31.8	22.7	13.6	11.4	0.0	4.5
	80歳以上	31	58.1	58.1	29.0	16.1	6.5	6.5	3.2	6.5

防犯活動の成果について、年代別にみると、50～60歳代は「地域住民に知り合いが増えた」、70歳代は「安心して暮らせる街づくりの必要性を感じた」、80歳以上は「安心して暮らせる街づくりの必要性を感じた」、「地域住民に知り合いが増えた」との回答が高くなっている。

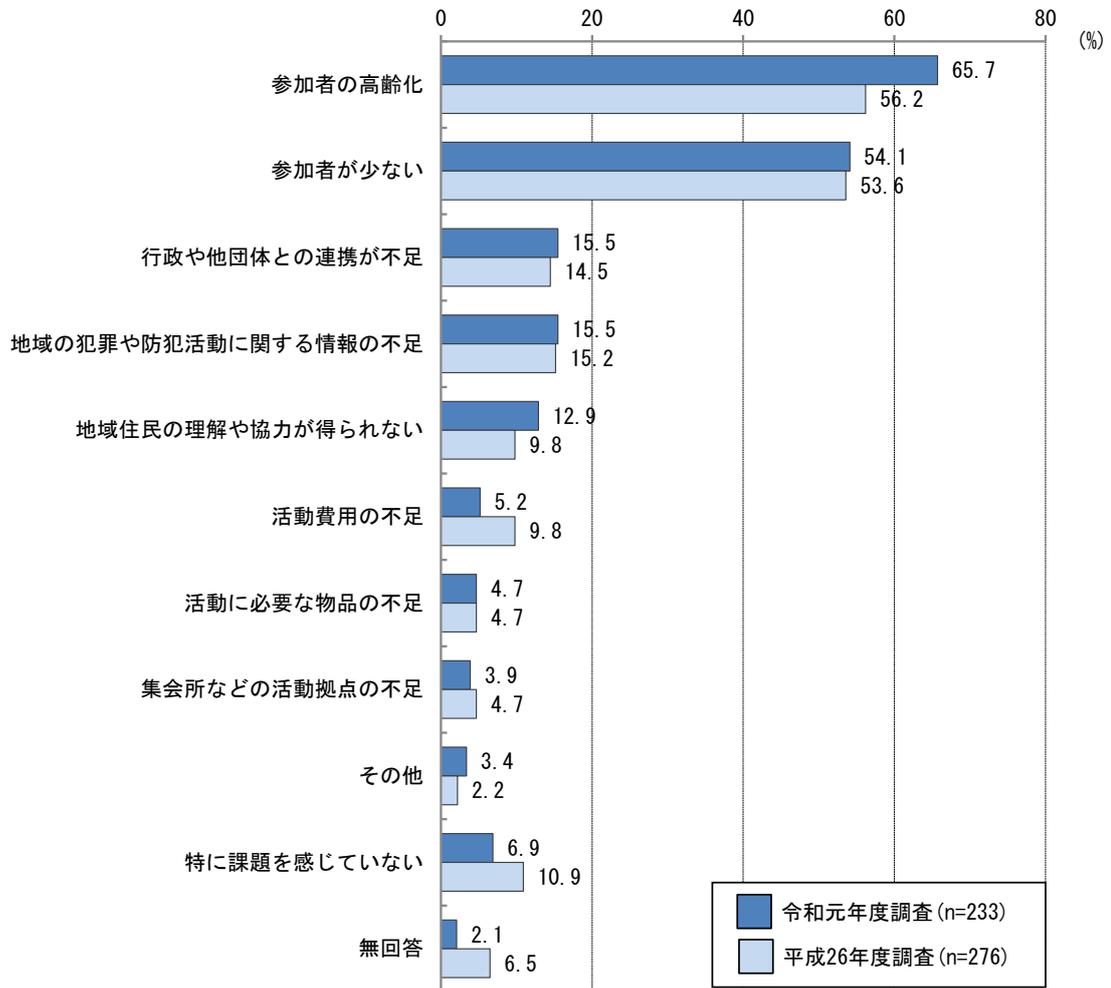
【図表 防犯活動の成果（居住地区別）】

		件数	く安心の必要性を感じた	増えた地域住民に知り合いが	なつた地域の連帯感が強く	流他の地域や団体との交	た地域の治安が良くなつ	発地域のその他活動が活	その他	い特に成果を感じていな
全体		233	49.8	49.4	24.0	12.0	9.0	6.0	0.9	9.0
居住地区別	中区	19	36.8	52.6	31.6	5.3	10.5	15.8	5.3	5.3
	東区	23	65.2	52.2	30.4	17.4	21.7	8.7	13.0	13.0
	南区	19	63.2	42.1	36.8	10.5	5.3	5.3	0.0	0.0
	西区	31	51.6	38.7	25.8	22.6	12.9	3.2	12.9	12.9
	安佐南区	48	54.2	43.8	22.9	6.3	6.3	8.3	6.3	6.3
	安佐北区	40	35.0	55.0	12.5	15.0	7.5	5.0	10.0	10.0
	安芸区	21	66.7	47.6	14.3	4.8	9.5	4.8	9.5	9.5
	佐伯区	31	35.5	64.5	29.0	12.9	3.2	0.0	12.9	12.9

防犯活動の成果について、居住地区別にみると、東区、安佐南区、安芸区は「安心して暮らせる街づくりの必要性を感じた」、安佐北区、佐伯区は「地域住民に知り合いが増えた」との回答が高くなっている。

問 30 【問 27 で、「1 取り組んだことがある」と回答された方】

防犯活動に取り組んで、どのような課題があると感じていますか。(〇は、いくつでも)



防犯活動の課題について、「参加者の高齢化」との回答が 65.7%と最も高く、次いで「参加者が少ない」(54.1%) などの順となっている。

防犯活動に取り組み、「参加者の高齢化」、「参加者が少ない」という課題が大きく占めている。

前回調査と比較すると、「参加者の高齢化」との回答は今回調査が前回調査を 9.5 ポイント上回っている。

【図表 防犯活動の課題（年代別）】

		(%)									
		参加者の高齢化	参加者が少ない	行政や他団体との連携が不足	地域の犯罪や防犯活動に関する情報の不足	地域住民の理解や協力が得られない	活動費用の不足	活動に必要な物品の不足	集会所などの活動拠点の不足	特に課題を感じていない	
全体		233	65.7	54.1	15.5	15.5	12.9	5.2	4.7	3.9	6.9
年代別	10歳代	1	100.0	0.0	0.0	0.0	100.0	0.0	0.0	0.0	0.0
	20歳代	6	50.0	66.7	0.0	0.0	16.7	0.0	0.0	0.0	16.7
	30歳代	14	64.3	50.0	21.4	0.0	14.3	0.0	7.1	0.0	7.1
	40歳代	58	51.7	55.2	17.2	19.0	1.7	5.2	5.2	3.4	10.3
	50歳代	42	54.8	54.8	16.7	14.3	9.5	7.1	4.8	0.0	9.5
	60歳代	36	72.2	61.1	16.7	22.2	22.2	2.8	8.3	8.3	0.0
	70歳代	44	81.8	50.0	13.6	15.9	13.6	2.3	2.3	6.8	6.8
	80歳以上	31	77.4	51.6	12.9	12.9	22.6	9.7	3.2	3.2	3.2

防犯活動の課題について、年代別にみると、40歳代は「参加者が少ない」、50～60歳代は「参加者の高齢化」、「参加者が少ない」、70歳代、80歳以上は「参加者の高齢化」との回答が高くなっている。

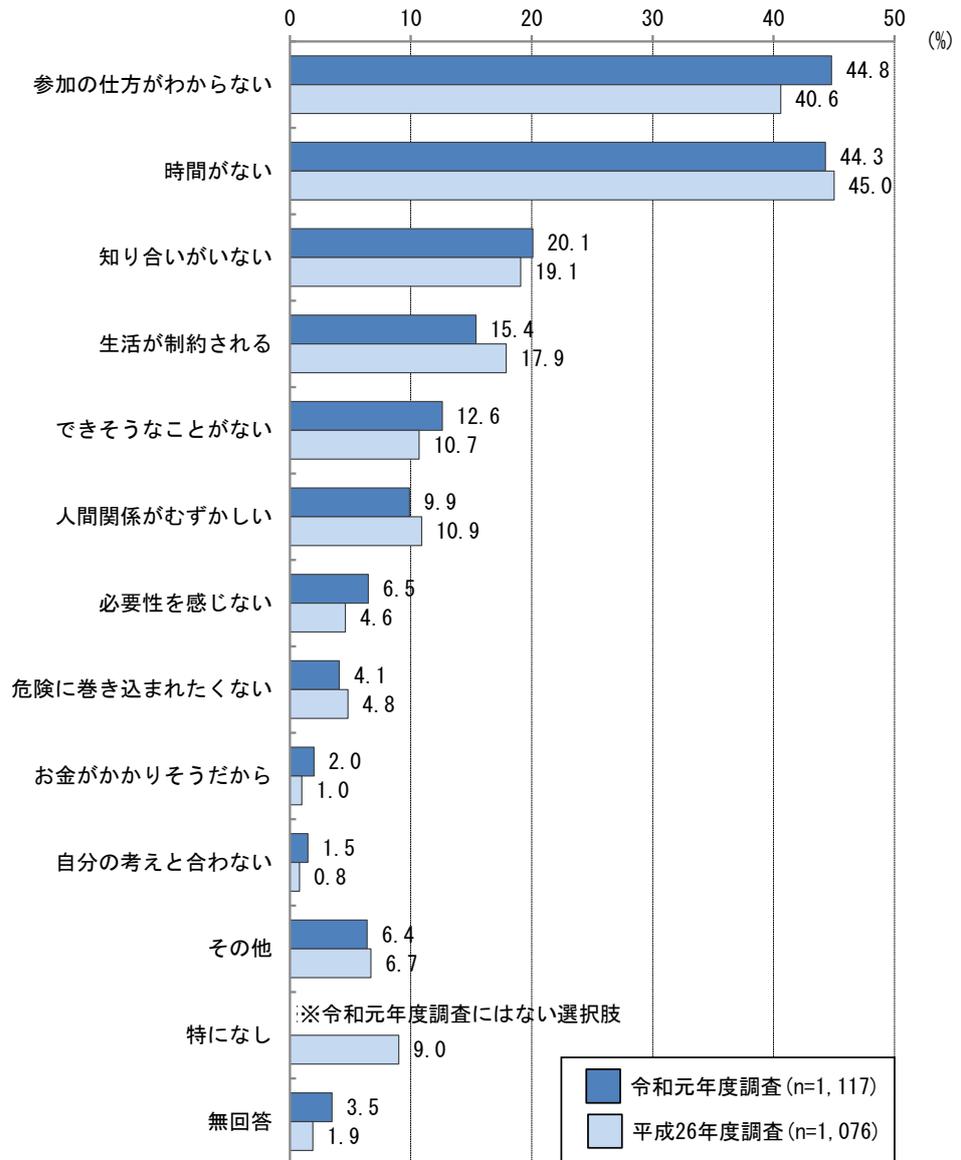
【図表 防犯活動の課題（居住地区別）】

		(%)									
		参加者の高齢化	参加者が少ない	行政や他団体との連携が不足	地域の犯罪や防犯活動に関する情報の不足	地域住民の理解や協力が得られない	活動費用の不足	活動に必要な物品の不足	集会所などの活動拠点の不足	特に課題を感じていない	
全体		233	65.7	54.1	15.5	15.5	12.9	5.2	4.7	3.9	6.9
居住地区別	中区	19	57.9	52.6	15.8	15.8	21.1	5.3	10.5	0.0	0.0
	東区	23	82.6	65.2	30.4	8.7	30.4	8.7	4.3	4.3	0.0
	南区	19	73.7	73.7	5.3	10.5	5.3	0.0	0.0	5.3	5.3
	西区	31	54.8	67.7	19.4	29.0	16.1	6.5	9.7	6.5	12.9
	安佐南区	48	58.3	45.8	16.7	14.6	8.3	6.3	6.3	6.3	4.2
	安佐北区	40	67.5	42.5	7.5	17.5	10.0	0.0	0.0	2.5	12.5
	安芸区	21	66.7	52.4	14.3	9.5	14.3	4.8	0.0	4.8	9.5
	佐伯区	31	71.0	51.6	16.1	12.9	6.5	6.5	6.5	0.0	6.5

防犯活動の課題について、居住地区別にみると、東区、安佐北区、佐伯区は「参加者の高齢化」、西区は「参加者が少ない」との回答が高くなっている。

問 31 【問 27 で、「2 取り組んだことがない」と回答された方】

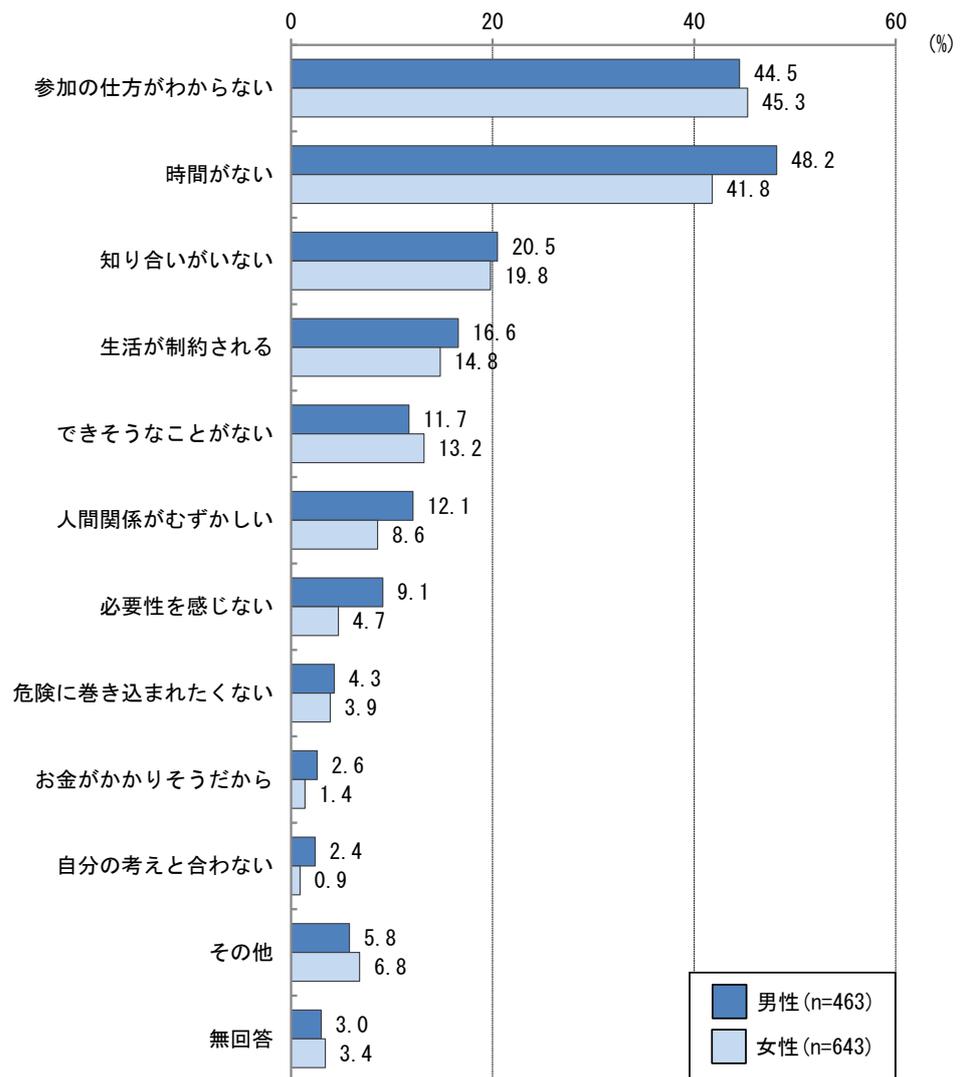
取り組んだことがない理由をお答えください。(〇は、3つ以内)



防犯活動に取り組んだことがない理由について、「参加の仕方がわからない」との回答が 44.8% と最も高く、次いで「時間がない」(44.3%) などの順となっている。

前回調査と比較すると、大きな差はみられない。

【図表 防犯活動に取り組んだことがない理由（性別）】



防犯活動に取り組んだことがない理由について、性別にみると、「時間がない」との回答は男性（48.2%）が女性（41.8%）を6.4ポイント上回っている。

【図表 防犯活動に取り組んだことがない理由（年代別）】

		件数	(%)						
			い参加の仕方がわからない	時間がない	知り合いがない	生活が制約される	できそうなことがない	人間関係がむずかしい	必要性を感じない
全体		1,117	44.8	44.3	20.1	15.4	12.6	9.9	6.5
年代別	10歳代	20	25.0	50.0	5.0	15.0	30.0	0.0	10.0
	20歳代	92	41.3	59.8	18.5	6.5	12.0	3.3	12.0
	30歳代	148	54.1	58.1	24.3	13.5	7.4	6.8	6.8
	40歳代	178	47.8	58.4	18.0	14.6	6.7	9.0	3.9
	50歳代	175	46.3	53.7	22.3	13.7	8.6	9.7	2.9
	60歳代	210	42.9	40.5	18.6	23.3	11.0	12.4	6.7
	70歳代	213	41.3	24.9	18.8	17.8	19.2	15.5	8.5
	80歳以上	79	41.8	10.1	24.1	6.3	27.8	7.6	7.6

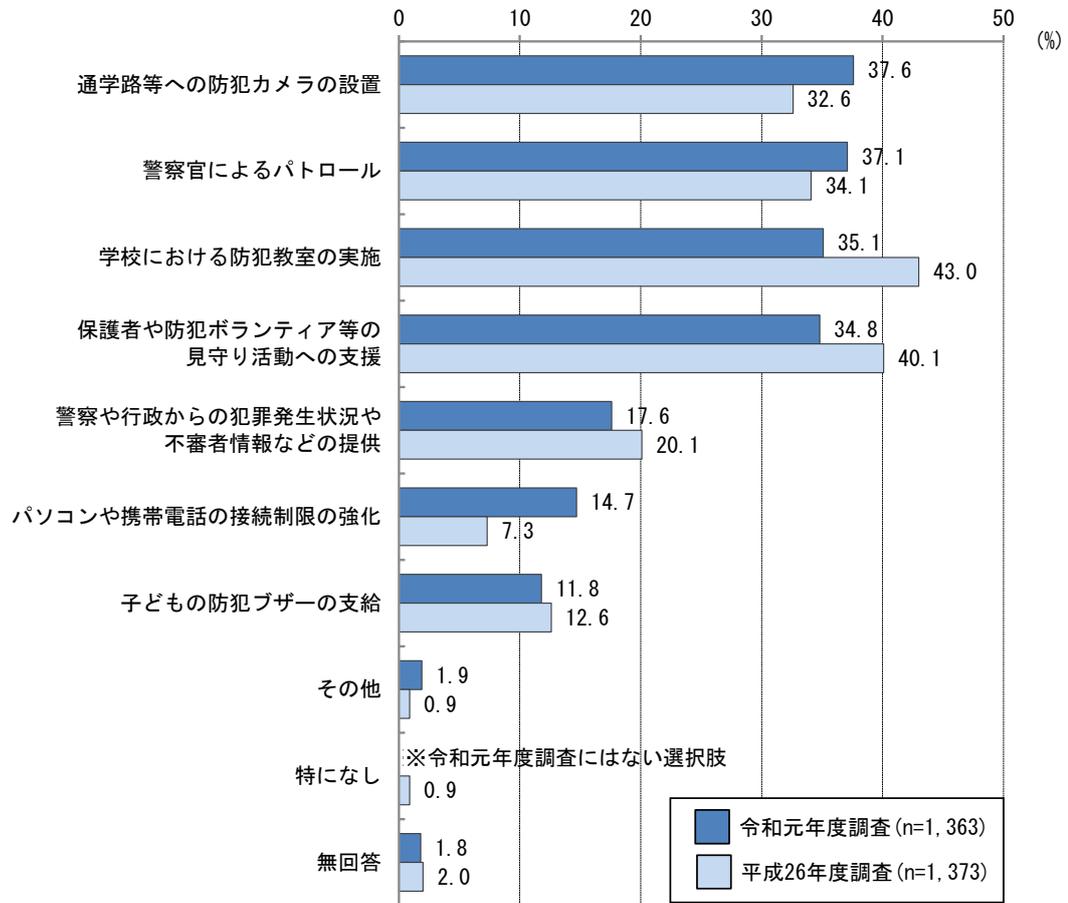
防犯活動に取り組んだことがない理由について、年代別にみると、20歳代、40～50歳代は「時間がない」、30歳代は「参加の仕方がわからない」、「時間がない」との回答が高くなっている。

【図表 防犯活動に取り組んだことがない理由（居住地区別）】

		件数	(%)						
			い参加の仕方がわからない	時間がない	知り合いがない	生活が制約される	できそうなことがない	人間関係がむずかしい	必要性を感じない
全体		1,117	44.8	44.3	20.1	15.4	12.6	9.9	6.5
居住地区別	中区	126	46.8	41.3	22.2	13.5	15.9	8.7	7.1
	東区	111	46.8	48.6	19.8	12.6	13.5	7.2	9.0
	南区	138	50.0	44.2	21.7	13.8	10.1	10.9	5.8
	西区	174	46.0	43.7	15.5	12.6	9.8	11.5	5.7
	安佐南区	227	42.3	46.3	23.8	18.1	11.5	9.3	7.0
	安佐北区	139	38.1	41.7	16.5	20.1	18.0	9.4	4.3
	安芸区	76	40.8	43.4	11.8	14.5	13.2	11.8	6.6
	佐伯区	125	48.0	44.8	24.8	16.0	11.2	11.2	7.2

防犯活動に取り組んだことがない理由について、居住地区別にみると、すべての居住地区で「参加の仕方がわからない」、「時間がない」との回答が高くなっている。

問 32 あなたは、子どもの安全対策として、行政や警察がどのような取組を強化することが必要と思われますか。(〇は、2つ以内)



子どもの安全対策として行政や警察が強化すべき取組について、「通学路等への防犯カメラの設置」との回答が37.6%と最も高く、次いで「警察官によるパトロール」(37.1%)、「学校における防犯教室の実施」(35.1%)、「保護者や防犯ボランティア等の見守り活動への支援」(34.8%)などの順となっている。

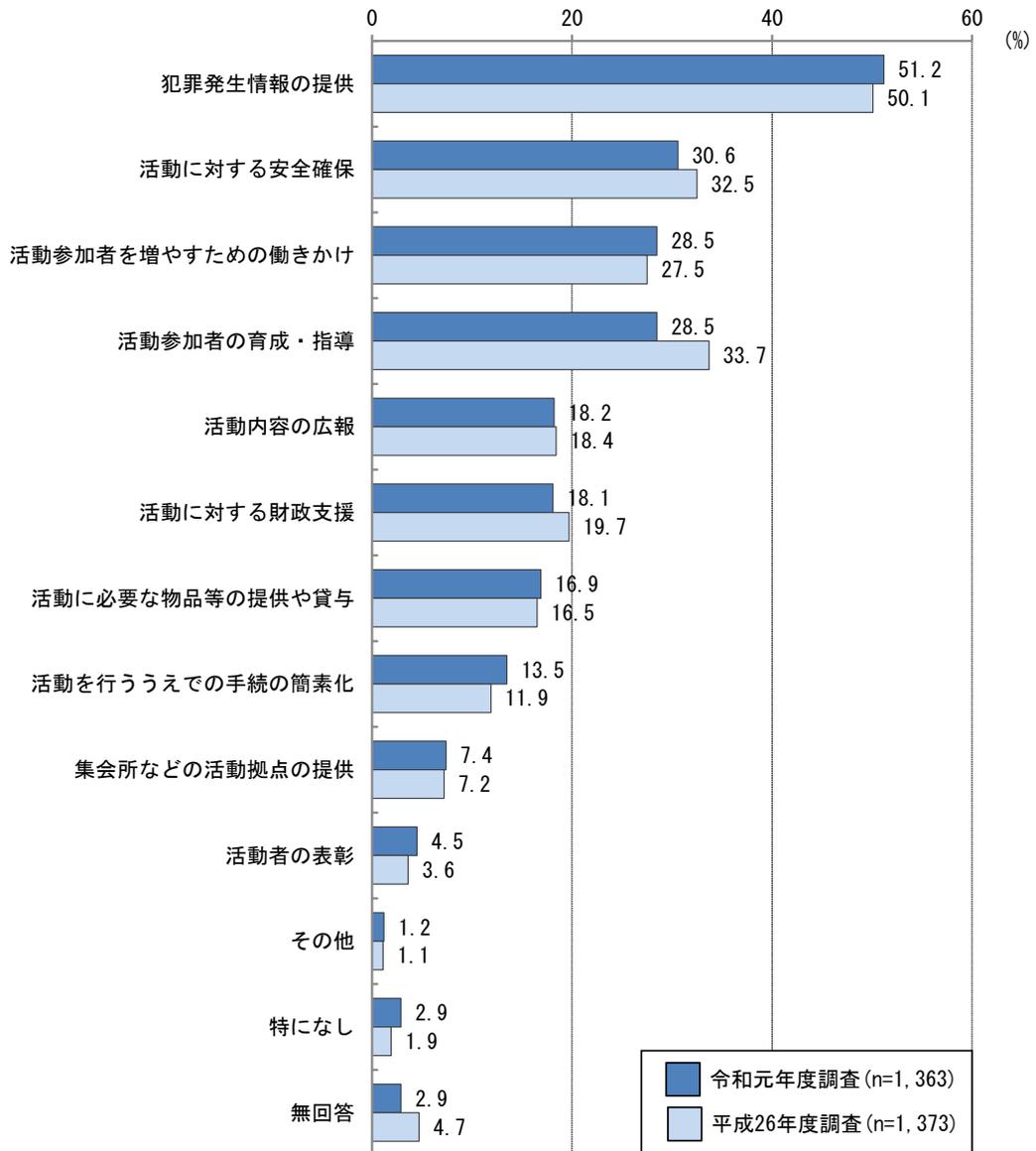
前回調査と比較すると、「通学路等への防犯カメラの設置」との回答は5.0ポイント、「パソコンや携帯電話の接続制限の強化」との回答は7.4ポイント今回調査が前回調査を上回っている。一方、「学校における防犯教室の実施」との回答は7.9ポイント、「保護者や防犯ボランティア等の見守り活動への支援」との回答は5.3ポイント今回調査が前回調査を下回っている。

【図表 子どもの安全対策として行政や警察が強化すべき取組（居住地区別）】

		(%)								
		件数	通学路等への防犯カメラの設置	警察官によるパトロール	学校における防犯教室の実施	保護者や防犯ボランティア等への支援	警察や行政からの犯罪発生状況や不審者情報などの提供	警察や行政からの犯罪発生状況や不審者情報などの提供	パソコンや携帯電話の接続制限の強化	子どもの防犯ブザーの支給
全 体		1,363	37.6	37.1	35.1	34.8	17.6	14.7	11.8	
居住地区別	中区	146	31.5	37.0	35.6	35.6	17.1	16.4	13.0	
	東区	134	45.5	28.4	40.3	40.3	12.7	17.2	12.7	
	南区	158	38.6	35.4	41.8	36.1	14.6	10.1	11.4	
	西区	207	38.6	37.2	31.9	31.4	19.3	19.3	10.1	
	安佐南区	278	36.3	40.6	33.1	36.7	16.5	14.0	11.5	
	安佐北区	182	39.6	36.3	30.2	35.2	18.7	11.5	13.7	
	安芸区	97	40.2	36.1	26.8	38.1	24.7	15.5	7.2	
	佐伯区	159	32.1	41.5	42.1	27.0	18.9	14.5	13.8	

子どもの安全対策として行政や警察が強化すべき取組について、居住地区別にみると、東区は「通学路等への防犯カメラの設置」との回答が高くなっている。

問 33 あなたは、地域や個人で取り組む防犯活動に対し、行政や警察がどのような支援をすれば良いと思いますか。(〇は、3つ以内)



地域や個人で取り組む防犯活動に対し、行政や警察がすれば良いと思う支援について、「犯罪発生情報の提供」との回答が51.2%と最も高く、次いで「活動に対する安全確保」(30.6%)、「活動参加者を増やすための働きかけ」、「活動参加者の育成・指導」(ともに28.5%)などの順となっている。

「犯罪発生情報の提供」との回答が圧倒的に高くなっている。

前回調査と比較すると、「活動参加者の育成・指導」との回答は今回調査が前回調査を5.2ポイント下回っている。

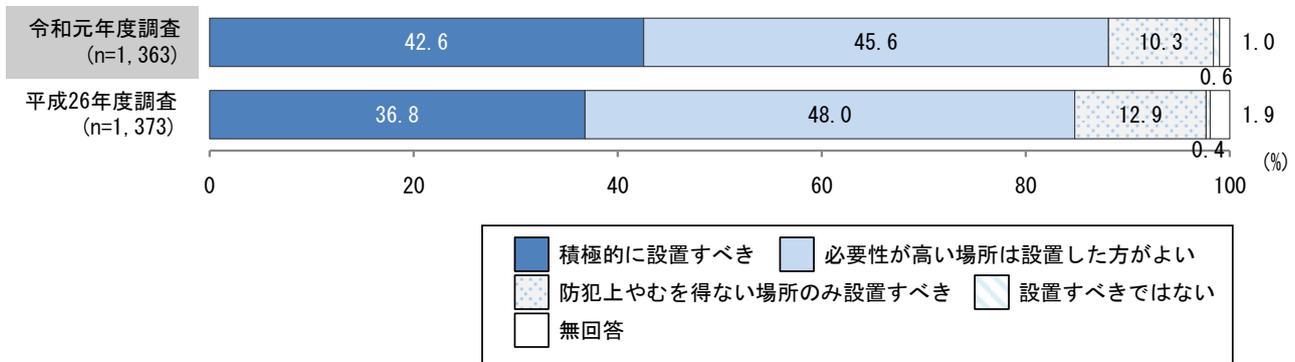
【図表 地域や個人で取り組む防犯活動に対し、  
行政や警察がすれば良いと思う支援（居住地区別）】

(%)

	件数	犯罪発生情報の提供	活動に対する安全確保	活動参加者を増やすための働きかけ	活動参加者の育成・指導	活動内容の広報	活動に対する財政支援	活動に必要な物品等の提供や貸与	活動を行ううえでの手の簡素化	
全体	1,363	51.2	30.6	28.5	28.5	18.2	18.1	16.9	13.5	
居住地区別	中区	146	52.1	32.2	24.0	34.9	14.4	17.8	18.5	11.0
	東区	134	50.0	28.4	29.9	34.3	23.1	19.4	14.9	20.1
	南区	158	48.7	29.7	36.7	27.2	21.5	14.6	10.8	13.9
	西区	207	54.6	31.4	27.1	24.2	22.7	23.2	20.8	9.2
	安佐南区	278	44.6	33.1	26.3	25.9	12.9	18.7	20.1	12.6
	安佐北区	182	57.1	29.7	28.6	30.8	17.0	14.3	12.1	13.7
	安芸区	97	54.6	28.9	32.0	25.8	15.5	19.6	19.6	14.4
	佐伯区	159	52.2	28.3	26.4	27.7	20.8	17.0	16.4	16.4

地域や個人で取り組む防犯活動に対し、行政や警察がすれば良いと思う支援について、居住地区別にみると、すべての居住地区で「犯罪発生情報の提供」との回答が高くなっている。

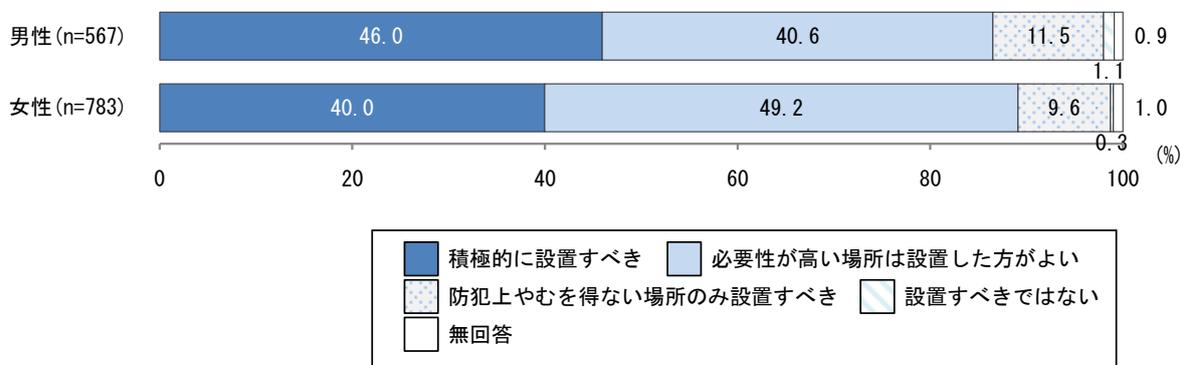
問 34 あなたは、公共の場所（道路、公園など）に防犯カメラを設置することについて、どのように思われますか。（エレベーター内や駅のホームなど特定施設内の管理のためのものは除く。）（○は、1つ）



防犯カメラの設置について、「必要性が高い場所は設置した方がよい」との回答が45.6%と最も高く、次いで「積極的に設置すべき」（42.6%）などの順となっている。

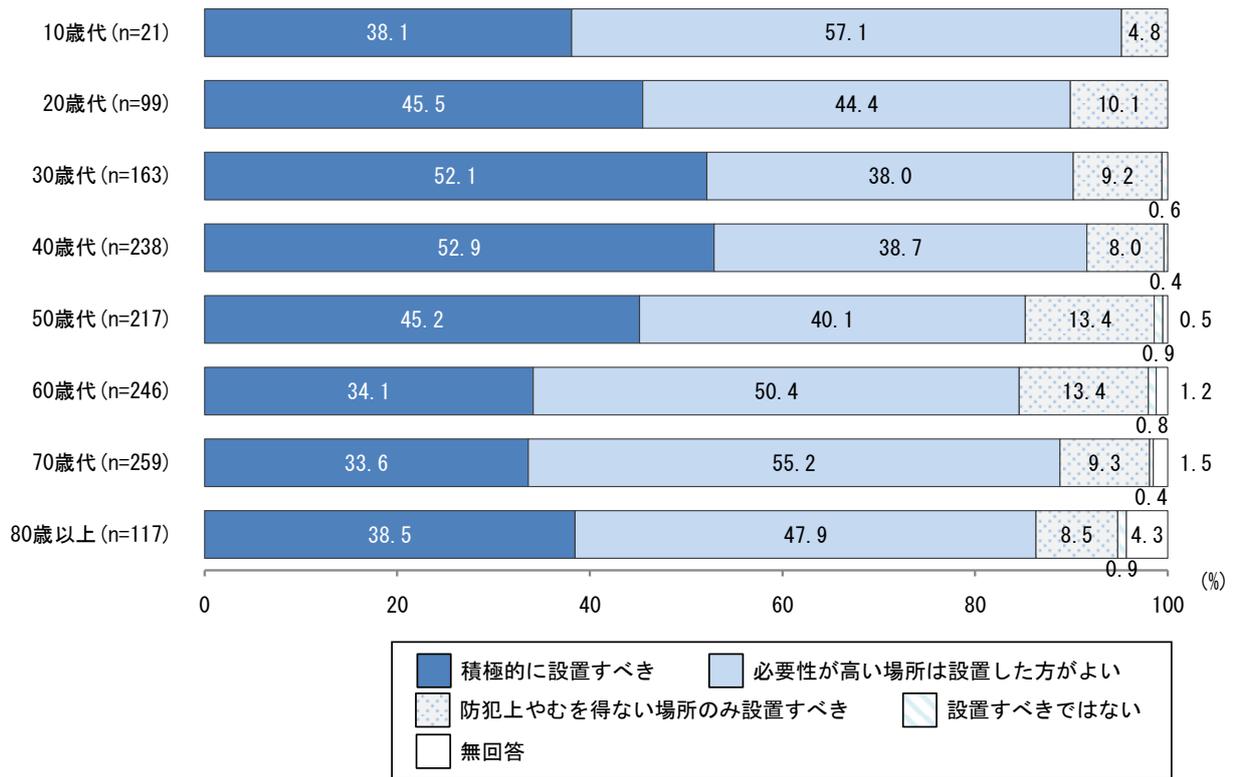
前回調査と比較すると、「積極的に設置すべき」との回答は、今回調査が前回調査を5.8ポイント上回っている。

【図表 防犯カメラの設置（性別）】



防犯カメラの設置について、性別にみると、「積極的に設置すべき」との回答は男性（46.0%）が女性（40.0%）を6.0ポイント上回っている。一方、「必要性が高い場所は設置した方がよい」との回答は女性が男性を8.6ポイント上回っている。

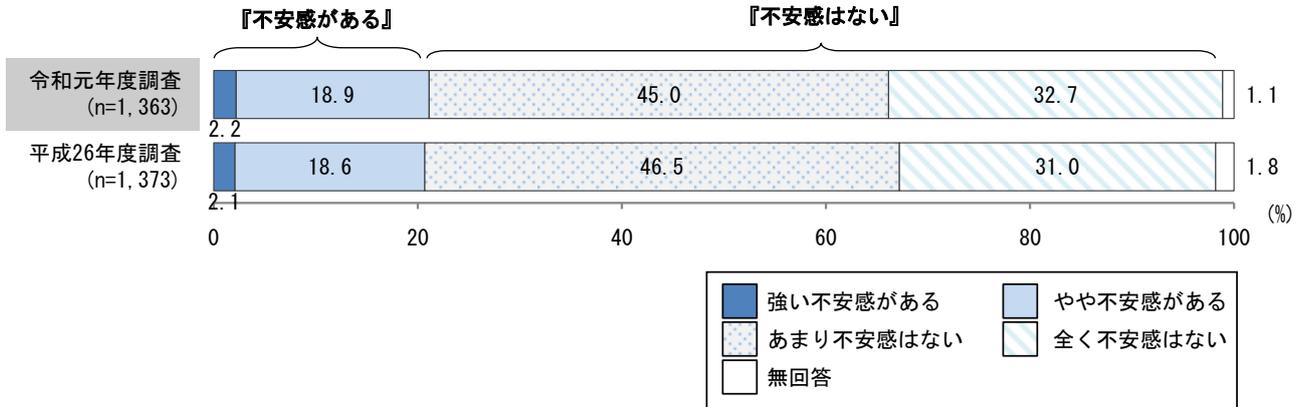
【図表 防犯カメラの設置（年代別）】



防犯カメラの設置について、年代別にみると、10歳代、60歳代、70歳代、80歳以上は「必要性が高い場所は設置した方がよい」30～40歳代は「積極的に設置すべき」との回答が高くなっている。

問 35 あなた自身が、防犯カメラで撮影されることについて、どのように思われますか。

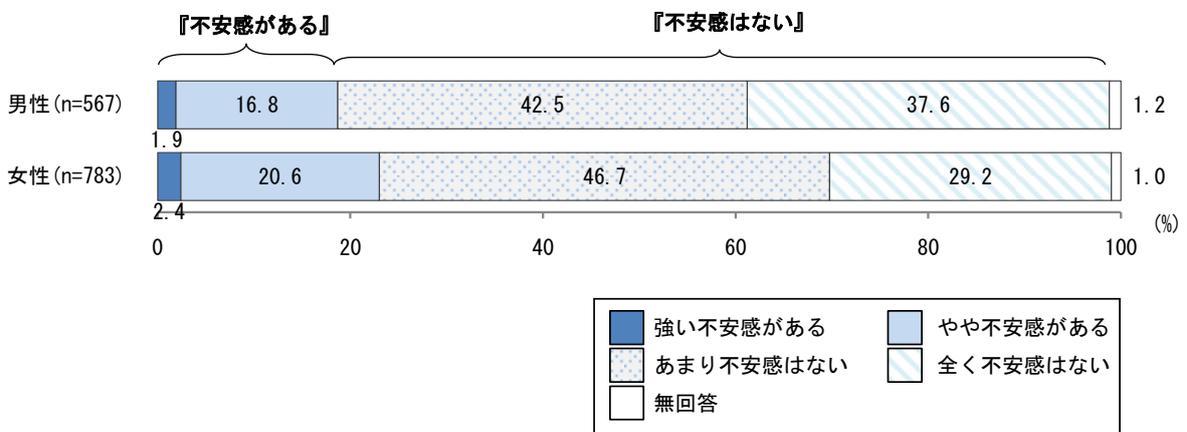
(○は、1つ)



防犯カメラで撮影されることについて、『不安感がある』（「強い不安感がある」と「やや不安感がある」を合計した割合）との回答は21.1%、『不安感はない』（「全く不安感はない」と「あまり不安感はない」を合計した割合）との回答は77.7%となっている。

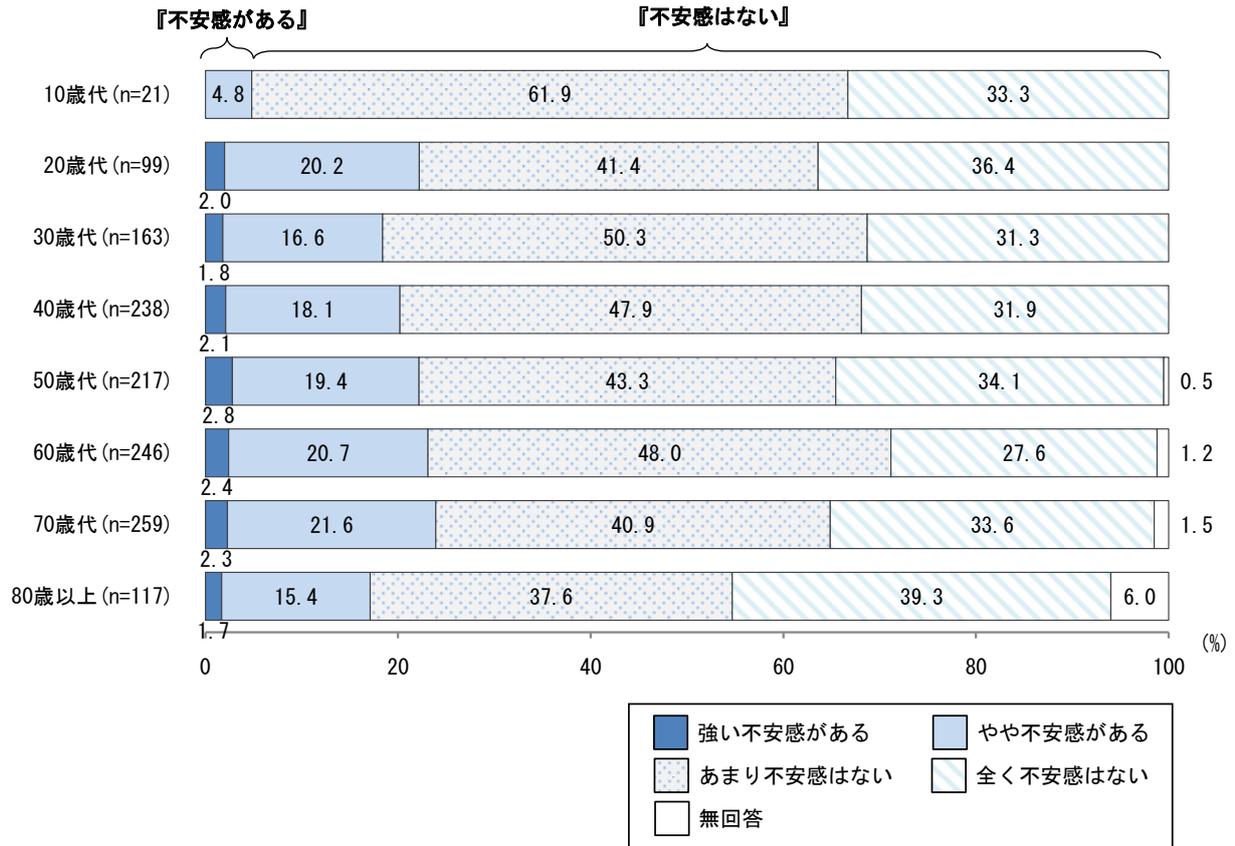
前回調査と比較すると、大きな差はなく、経年による不安感の変化はみられない。

【図表 防犯カメラで撮影されること（性別）】



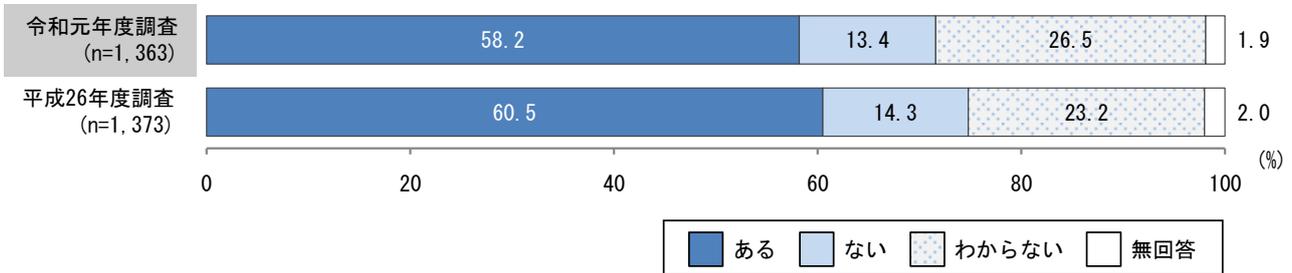
防犯カメラで撮影されることについて、性別にみると、大きな差はみられない。

【図表 防犯カメラで撮影されること（年代別）】



防犯カメラで撮影されることについて、年代別にみると、すべての年代で『不安感はない』との回答が7割を超え高くなっている。

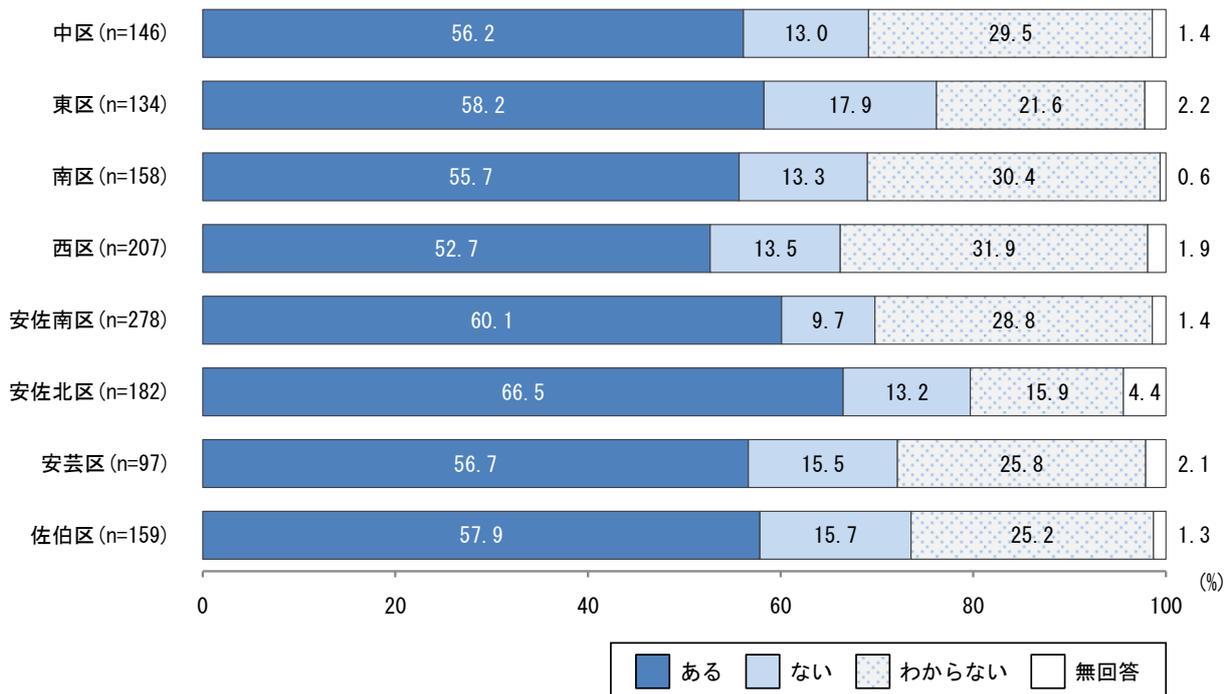
問 36 本市では、道路や公園の夜間における犯罪の未然防止のため、防犯灯等の設置に取り組んでいますが、あなたの自宅の近くの道路や公園に暗がりや死角はありますか。  
(○は、1つ)



自宅の近くの道路や公園における暗がりや死角の有無について、「ある」との回答が58.2%、「ない」との回答が13.4%、「わからない」との回答が26.5%となっている。

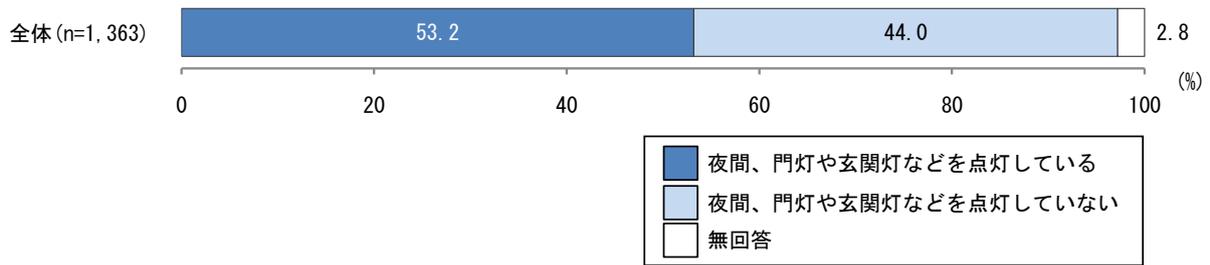
前回調査と比較すると、大きな差はみられない。

【図表 自宅の近くの道路や公園における暗がりや死角の有無（居住地区別）】



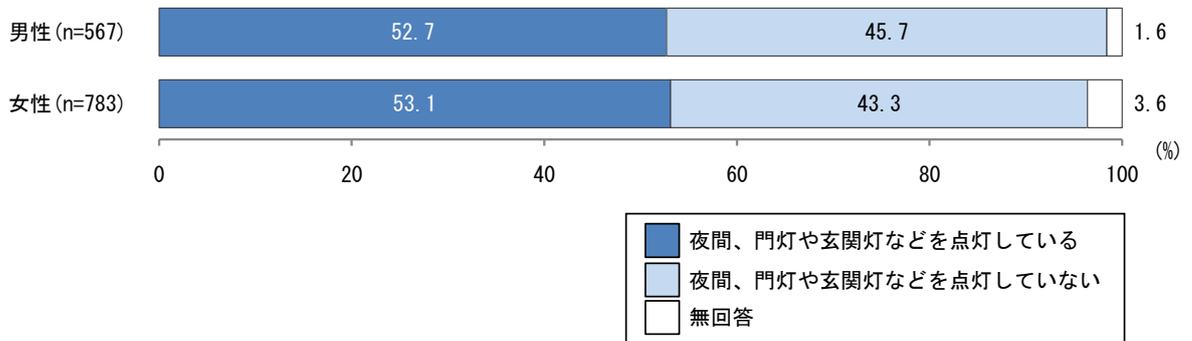
自宅の近くの道路や公園における暗がりや死角の有無について、居住地区別にみると、安佐北区で「ある」との回答が6割台半ばと高くなっている。

問 37 治安のため、夜間、家庭の門灯や玄関灯などを点灯していますか。(〇は、1つ)



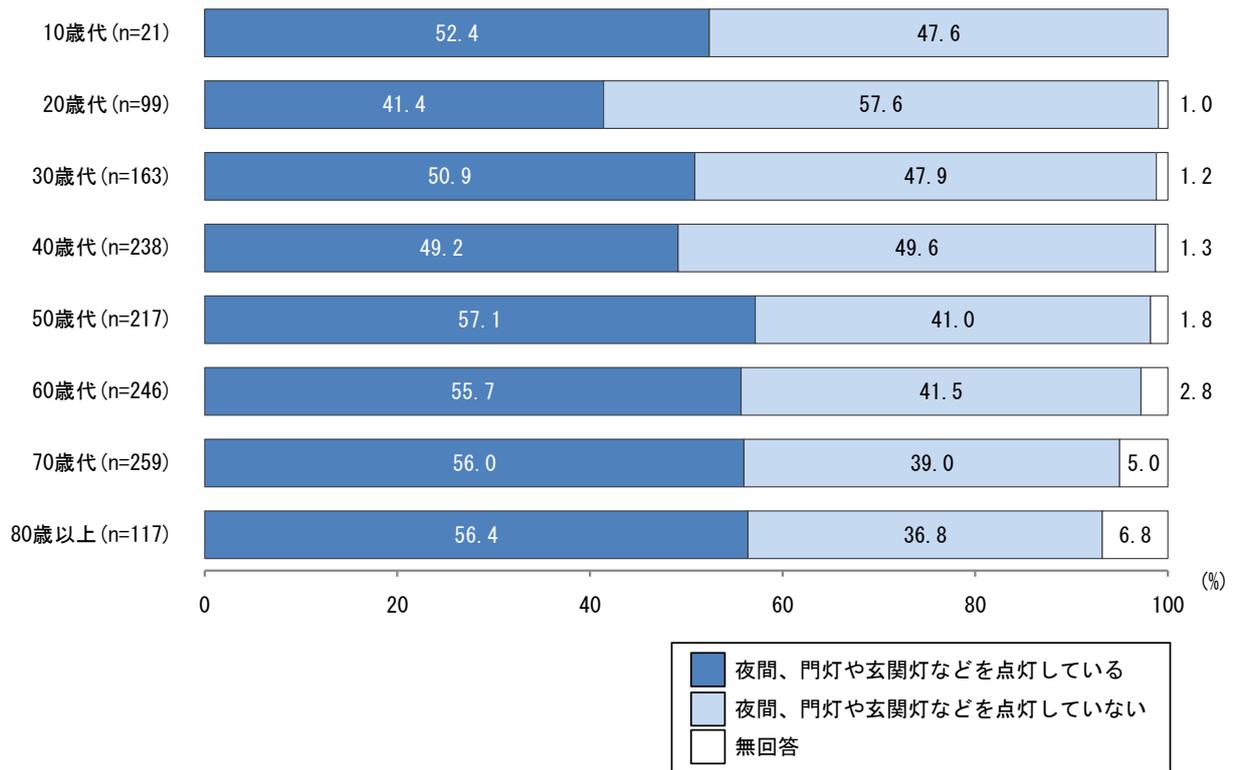
夜間の門灯や玄関灯などの点灯について、「夜間、門灯や玄関灯などを点灯している」との回答が53.2%、「夜間、門灯や玄関灯などを点灯していない」との回答が44.0%となっている。

【図表 夜間の門灯や玄関灯などの点灯（性別）】



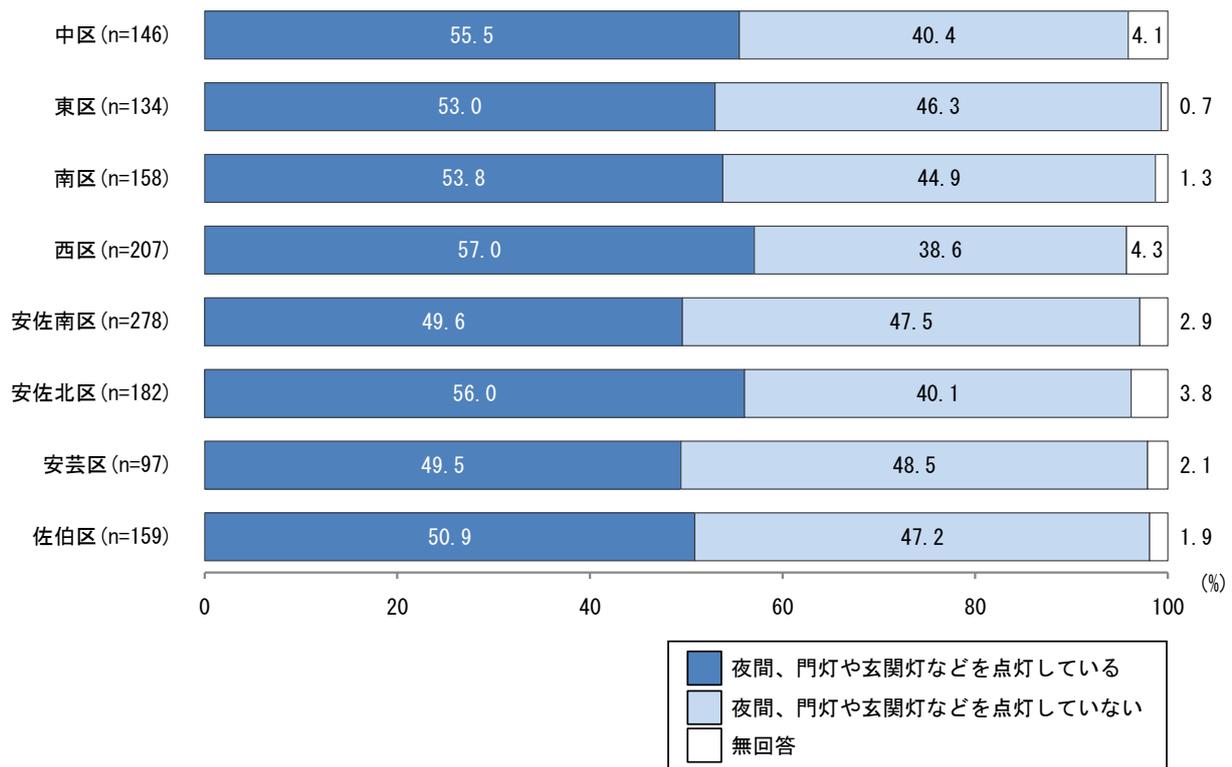
夜間の門灯や玄関灯などの点灯について、性別にみると、大きな差はみられない。

【図表 夜間の門灯や玄関灯などの点灯（年代別）】



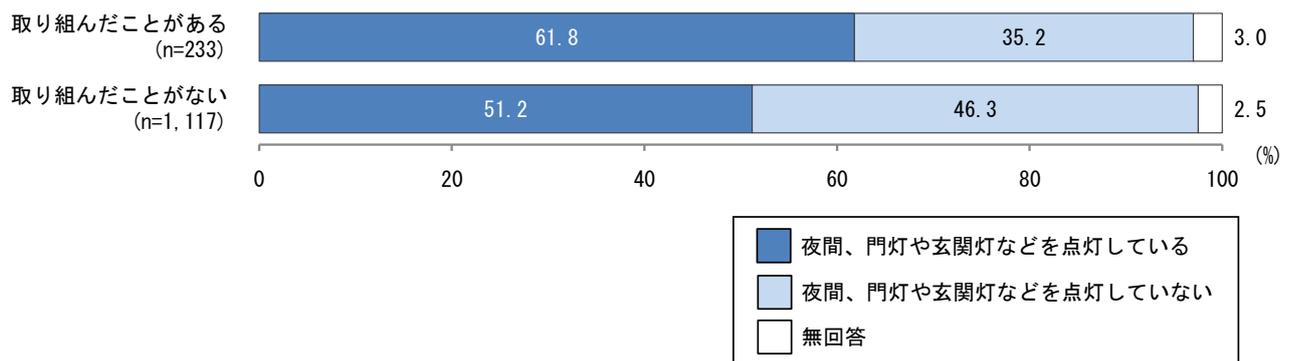
夜間の門灯や玄関灯などの点灯について、年代別にみると、「夜間、門灯や玄関灯などを点灯している」との回答が20歳代では4割超と他の年代に比べ低くなっている。

【図表 夜間の門灯や玄関灯などの点灯（居住地区別）】



夜間の門灯や玄関灯などの点灯について、居住地区別にみると、「夜間、門灯や玄関灯などを点灯している」との回答は安佐南区、安芸区で約5割とやや低くなっている。

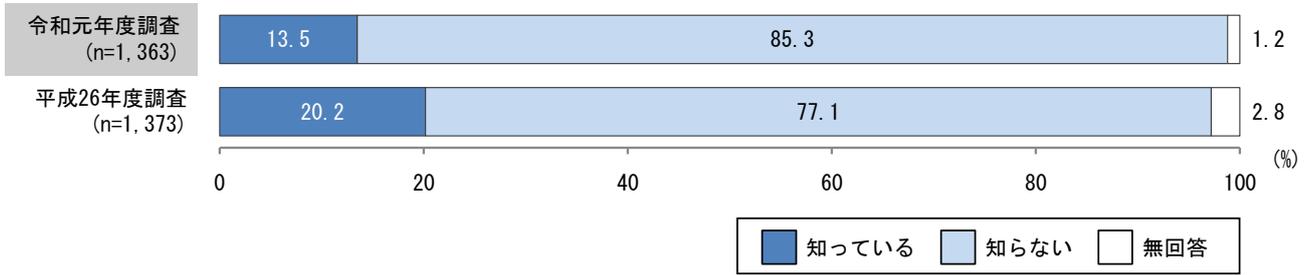
【図表 夜間の門灯や玄関灯などの点灯（防犯活動への取組の有無別）】



夜間の門灯や玄関灯などの点灯について、防犯活動への取組の有無別にみると、「夜間、門灯や玄関灯などを点灯している」との回答は取り組んだことがある人（61.8%）が取り組んだことがない人（51.2%）を10.6ポイント上回っている。

問 38 あなたは、本市が推進する「一家一事業所一点灯運動」を知っていますか。

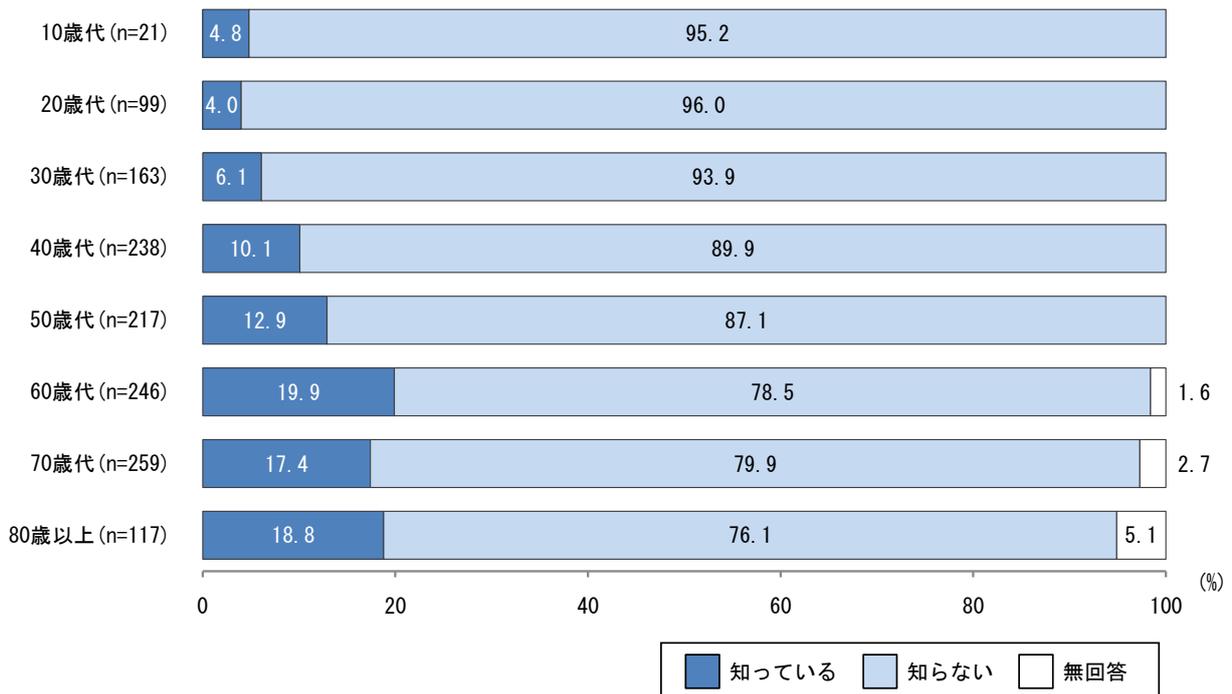
(〇は、1つ)



一家一事業所一点灯運動の認知度について、「知っている」との回答は13.5%、「知らない」との回答は85.3%となっている。

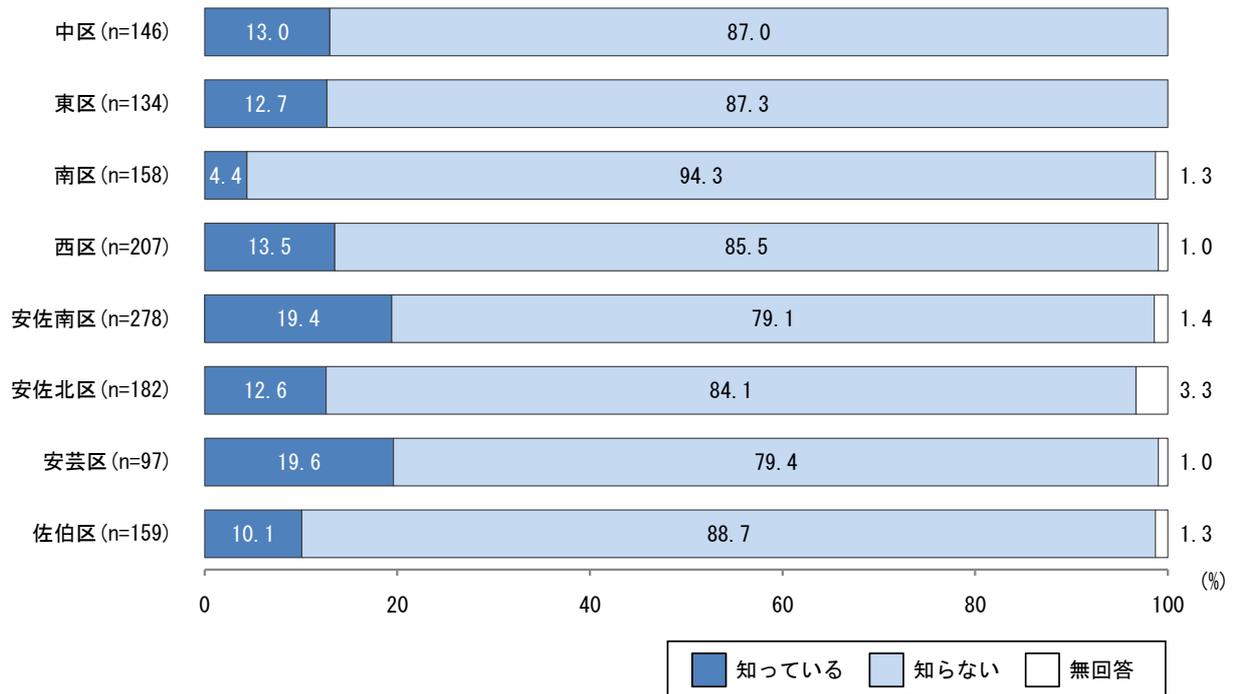
前回調査と比較すると、「知っている」との回答は今回調査が前回調査を6.7ポイント下回っており、認知度が前回調査より低くなっている。

【図表 一家一事業所一点灯運動の認知度（年代別）】



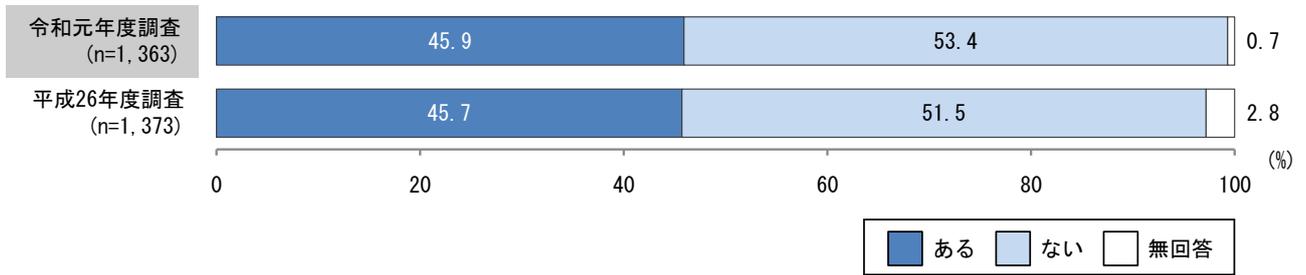
一家一事業所一点灯運動の認知度について、年代別にみると、「知っている」との回答は60歳代、70歳代、80歳以上で約2割と高くなっている。

【図表 一家一事業所一点灯運動の認知度（居住地区別）】



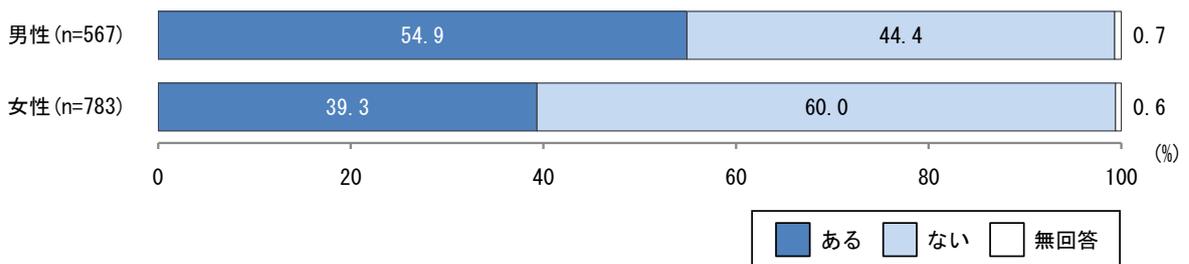
一家一事業所一点灯運動の認知度について、居住地区別にみると、「知っている」との回答は安佐南区、安芸区で約2割と高く、南区で1割未満と低くなっている。

問 39 あなたは、この1年間で繁華街の流川・薬研堀地区へ行ったことがありますか。  
(○は、1つ)



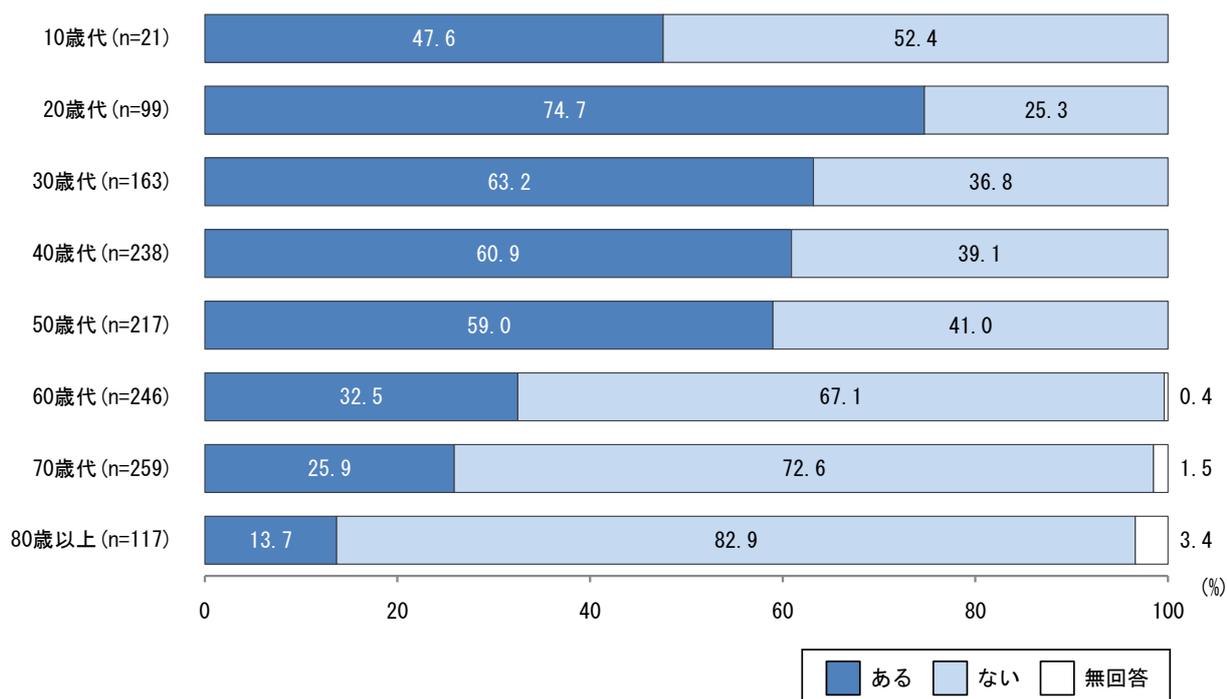
この1年間で流川・薬研堀地区へ行った経験の有無について、「ある」との回答は45.9%、「ない」との回答は53.4%となっている。  
前回調査と比較すると、大きな差はみられない。

【図表 この1年間で流川・薬研堀地区へ行った経験の有無（性別）】



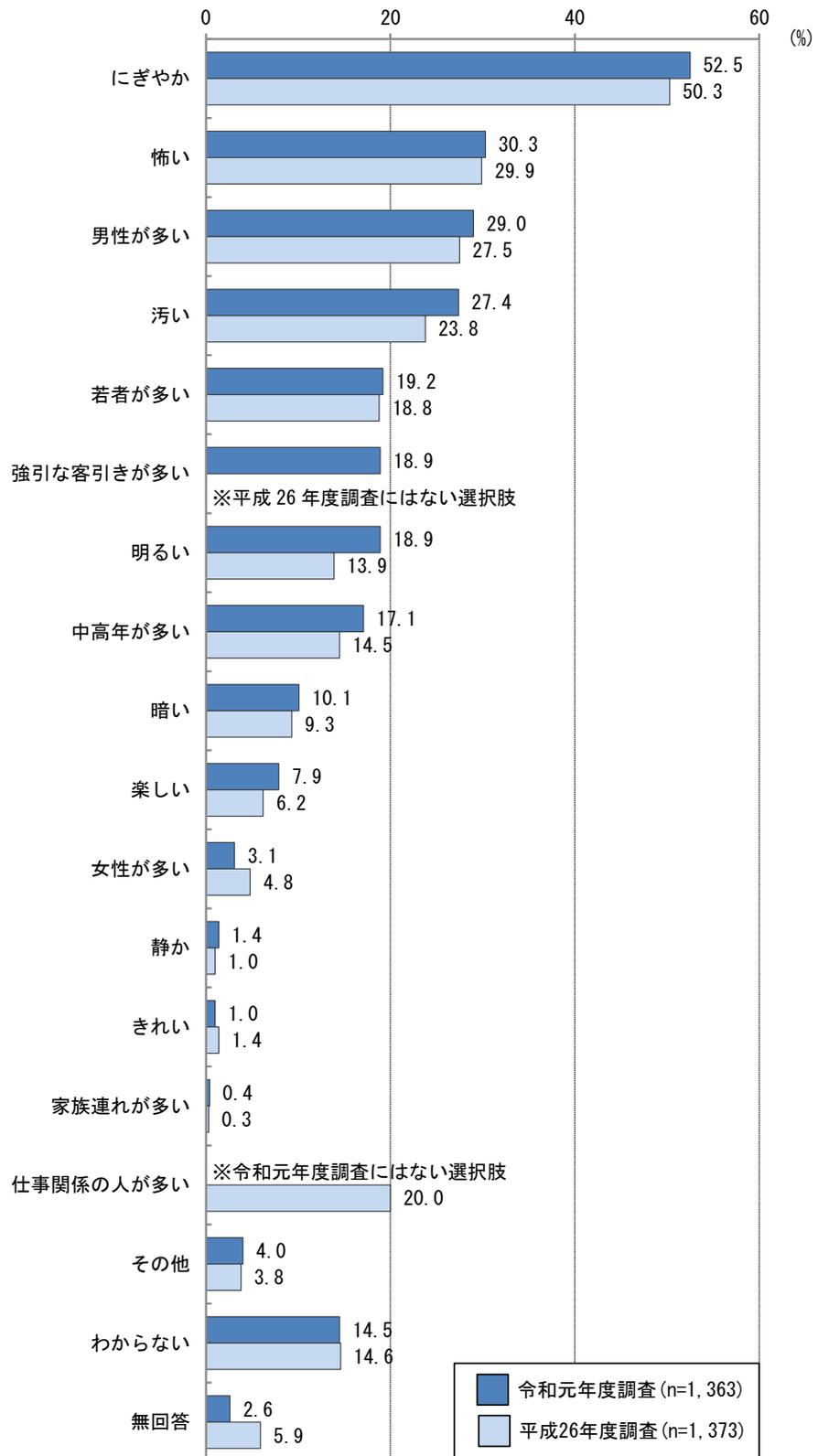
この1年間で流川・薬研堀地区へ行った経験の有無について、性別にみると「ある」との回答は男性（54.9%）が女性（39.3%）を15.6ポイント上回っている。

【図表 この1年間で流川・薬研堀地区へ行った経験の有無（年代別）】



この1年間で流川・薬研堀地区へ行った経験の有無について、年代別にみると「ある」との回答は10歳代を除き年代が上がるにつれて低くなっている。

問 40 本市では、繁華街の環境対策に取り組んでいますが、流川・薬研堀地区の印象（イメージ）をお答えください。（〇は、いくつでも）

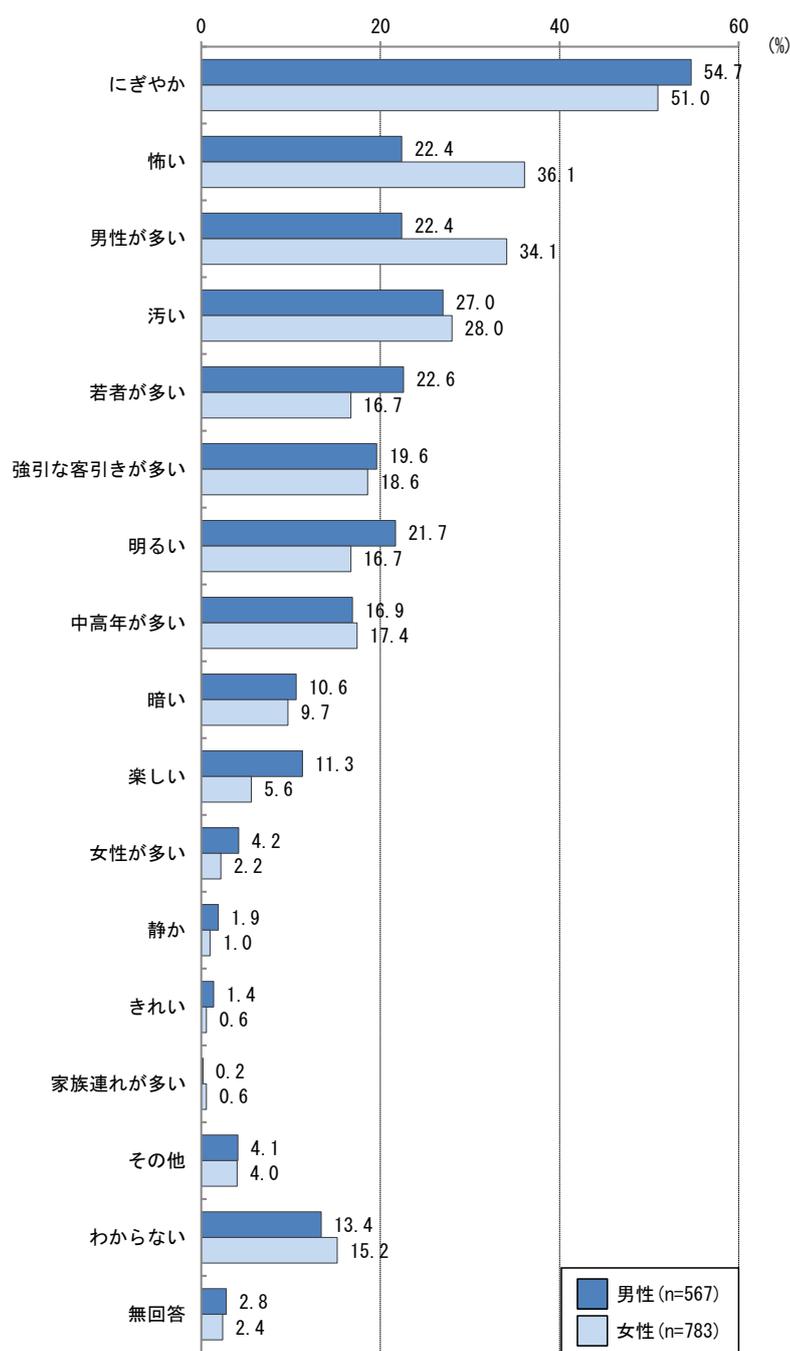


流川・薬研堀地区の印象について、「にぎやか」との回答は52.5%と最も高く、次いで「怖い」(30.3%)、「男性が多い」(29.0%)などの順となっている。

「にぎやか」との回答が圧倒的に高くなっている。

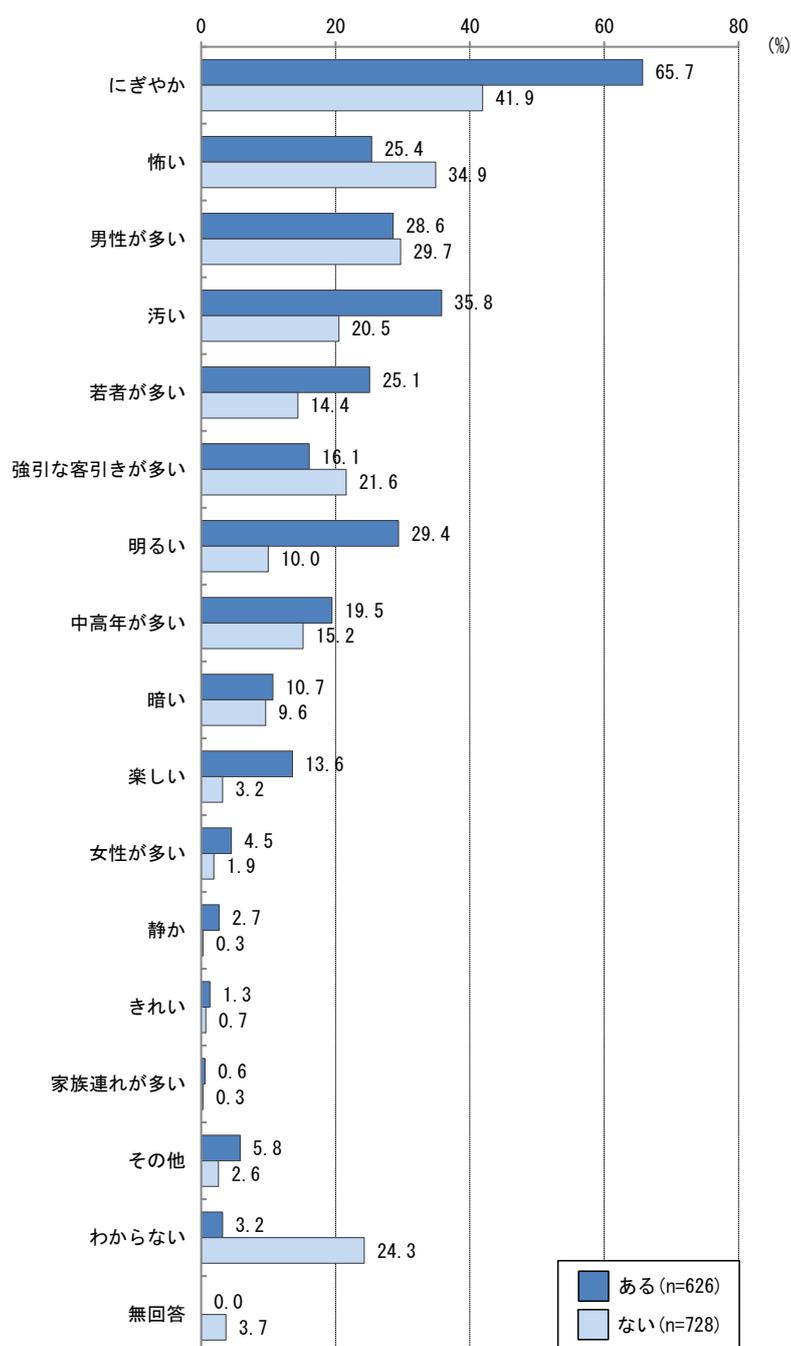
前回調査と比較すると、大きな差はなく、経年によるイメージの変化はみられない。

【図表 流川・薬研堀地区の印象（性別）】



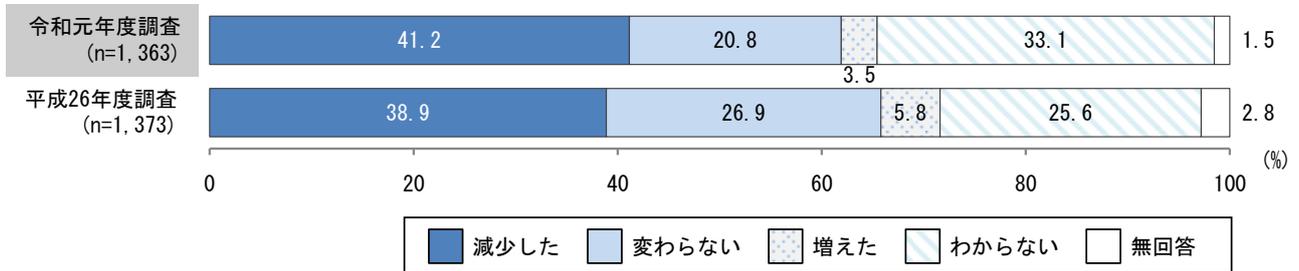
流川・薬研堀地区の印象について、性別にみると、「怖い」との回答は女性（36.1%）が男性（22.4%）を13.7ポイント、「男性が多い」との回答は女性（34.1%）が男性（22.4%）を11.7ポイント上回っている。一方、「若者が多い」との回答は男性（22.6%）が女性（16.7%）を5.9ポイント、「明るい」との回答は男性（21.7%）が女性（16.7%）を5.0ポイント、「楽しい」との回答は男性（11.3%）が女性（5.6%）を5.7ポイント上回っている。

【図表 流川・薬研堀地区の印象（流川・薬研堀に行った経験の有無別）】



流川・薬研堀地区の印象について、流川・薬研堀に行った経験の有無別にみると、「にぎやか」、「汚い」、「若者が多い」、「明るい」、「楽しい」との回答は流川・薬研堀に行った経験がある人がない人を10.0ポイント以上上回っており、「怖い」との回答は流川・薬研堀に行った経験がない人（34.9%）がある人（25.4%）を9.5ポイント上回っている。

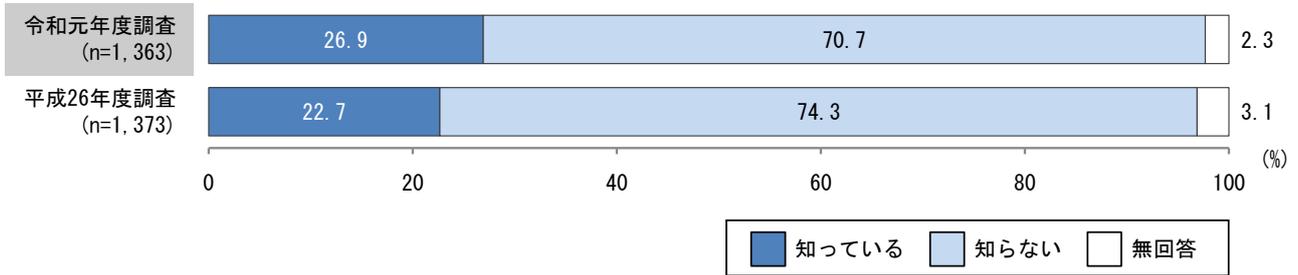
問 41 本市では、放置自転車対策として、駐輪場の整備や放置規制区域の拡大、放置自転車の撤去などに取り組んでいます。あなたは、以前（おおむね5年前）と比べて放置自転車は減少していると思いますか。（〇は、1つ）



以前と比べた放置自転車の数について、「減少した」との回答は41.2%、「変わらない」との回答は20.8%、「増えた」との回答は3.5%などとなっている。

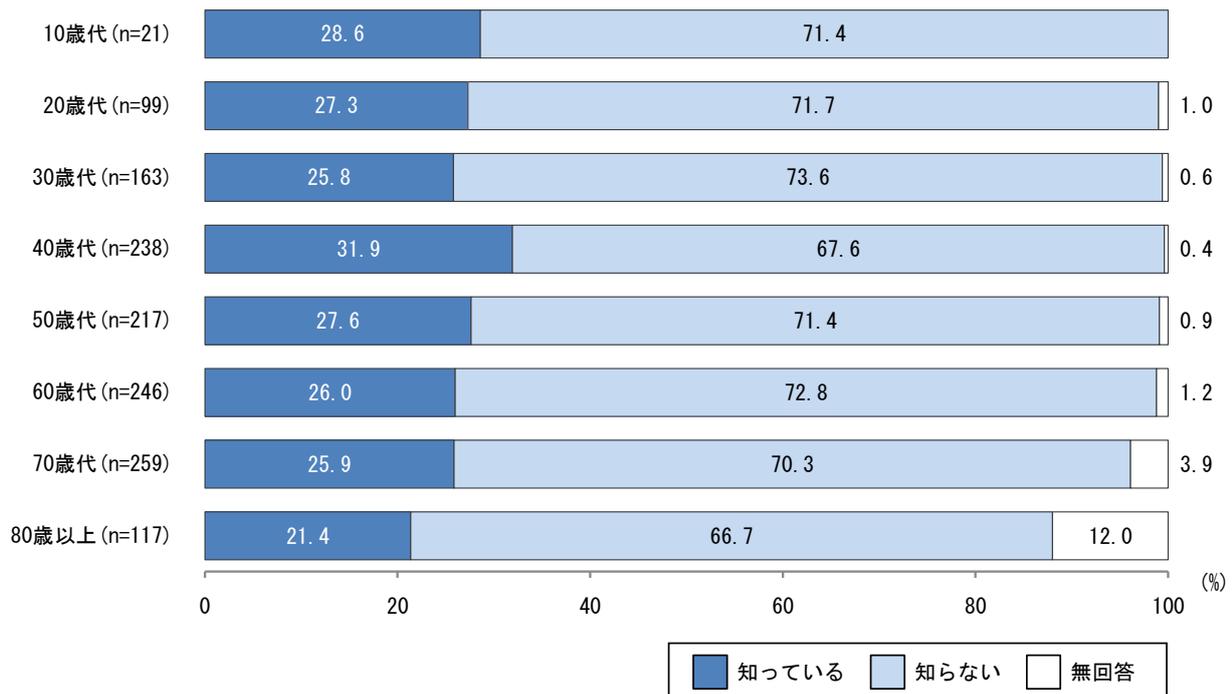
前回調査と比較すると、「変わらない」との回答は今回調査が前回調査を6.1ポイント下回っており、「わからない」との回答は今回調査が前回調査を7.5ポイント上回っている。

問 42 あなたは、行政などに犯罪被害者等のための相談窓口が設置されていることを知っていますか。(〇は、1つ)



犯罪被害者等のための相談窓口の認知度について、「知っている」との回答は26.9%、「知らない」との回答は70.7%となっている。  
 前回調査と比較すると、大きな差はみられない。

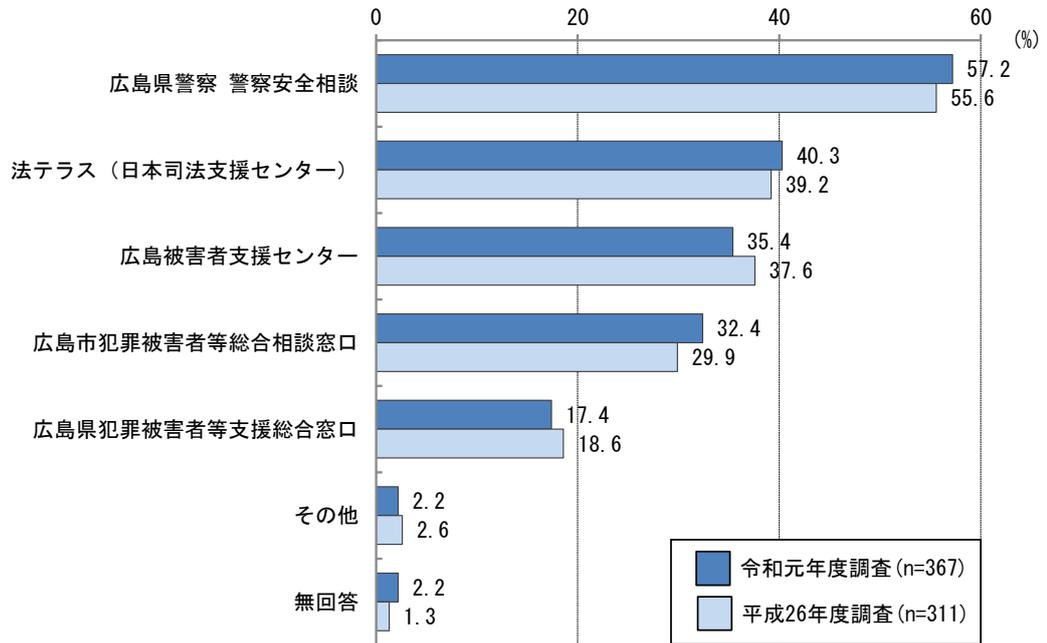
【図表 犯罪被害者等のための相談窓口の認知度（年代別）】



犯罪被害者等のための相談窓口の認知度について、年代別にみると、「知っている」との回答は80歳以上で2割超と低くなっている。

問 43 【問 42 で「1 知っている」と回答された方】

知っている相談窓口をお答えください。(〇は、いくつでも)



知っている相談窓口について、「広島県警察 警察安全相談」との回答が 57.2%と最も高く、次いで「法テラス (日本司法支援センター)」(40.3%)、「広島被害者支援センター」(35.4%)などの順となっている。

前回調査と比較すると、大きな差はみられない。

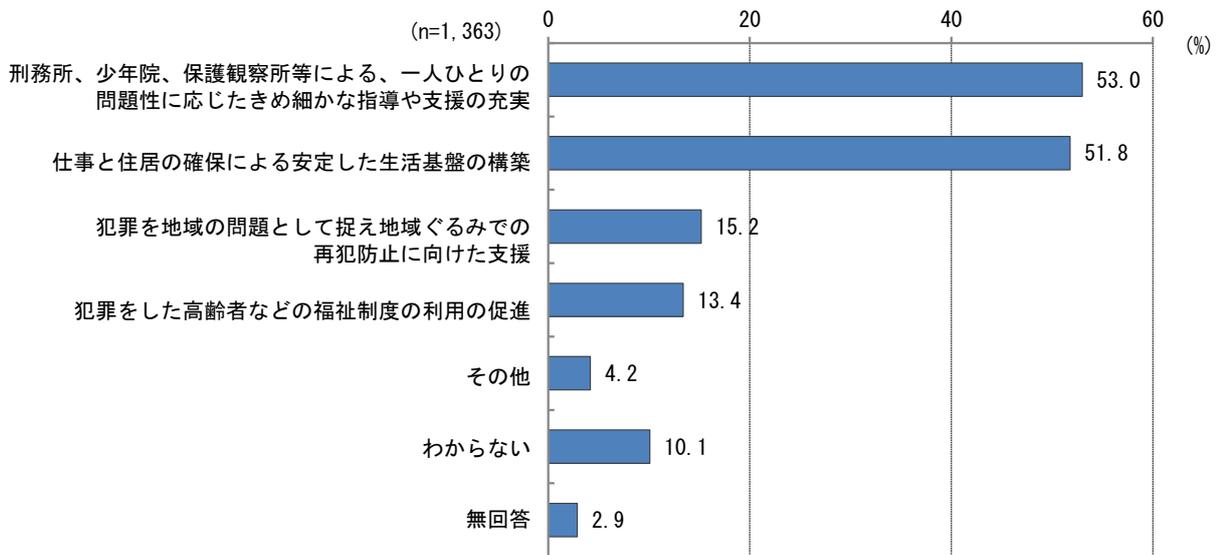
【図表 知っている相談窓口（年代別）】

		(%)							
		件数	広島県警察 警察安全 相談	法テラス（ 日本司法 支援センター）	広島被害者 支援セン ター	広島市犯罪 被害者等 総合相談 窓口	広島県犯罪 被害者等 支 援総合窓口	その他	無回答
全体		367	57.2	40.3	35.4	32.4	17.4	2.2	2.2
年代別	10歳代	6	33.3	0.0	33.3	50.0	0.0	0.0	0.0
	20歳代	27	51.9	44.4	33.3	25.9	14.8	0.0	3.7
	30歳代	42	57.1	54.8	50.0	35.7	19.0	0.0	0.0
	40歳代	76	55.3	55.3	27.6	25.0	14.5	3.9	1.3
	50歳代	60	55.0	53.3	28.3	33.3	21.7	0.0	1.7
	60歳代	64	54.7	34.4	39.1	37.5	20.3	1.6	0.0
	70歳代	67	65.7	20.9	37.3	34.3	14.9	6.0	3.0
	80歳以上	25	64.0	12.0	40.0	32.0	20.0	0.0	12.0

知っている相談窓口について、年代別にみると、30～50歳代は「広島県警察 警察安全相談」、  
「法テラス（日本司法支援センター）」、60歳代、70歳代、80歳以上は「広島県警察 警察安全相  
談」との回答が高くなっている。

問 44 あなたは、再犯防止のためには、具体的にどのようなことが必要だと思いますか。

(○は、2つ以内)



再犯防止に必要だと思うことについて、「刑務所、少年院、保護観察所等による、一人ひとりの問題性に  
応じたきめ細かな指導や支援の充実」との回答が 53.0%と最も高く、次いで「仕事と住居の確保による安定した生活基盤の構築」(51.8%)などの順となっている。

「刑務所、少年院、保護観察所等による、一人ひとりの問題性に  
応じたきめ細かな指導や支援の充実」、「仕事と住居の確保による安定した生活基盤の構築」が再犯防止のために必要とされている。

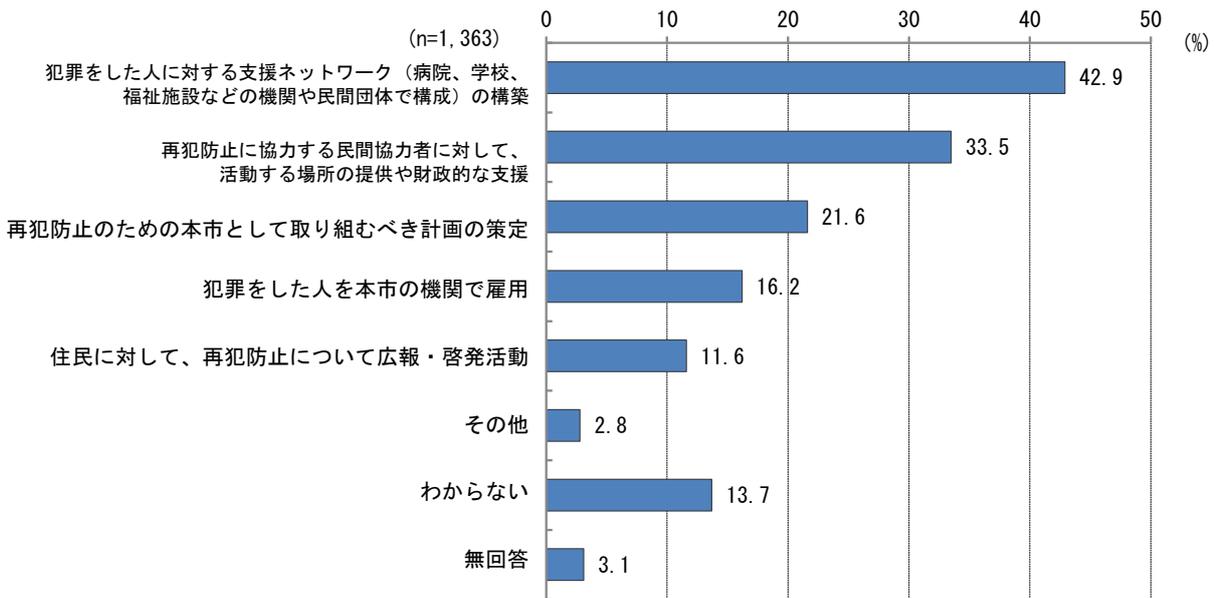


【図表 再犯防止に必要なだと思うこと（居住地区別）】

		(%)													
		件数	援助の充実 たきめ細かな 問題性に応じ	ひとり の 問題 による 一人 ひとりの 問題性	観察所等 少年院、 保護 観察所等 による 一人 ひとりの 問題性	刑務所、 少年院、 保護 観察所等 による 一人 ひとりの 問題性	構築 安定した 生活基盤 のよ	仕事と住居 の確保 に よ	再犯防止 に向けた 支援	犯罪を 地域 の問題 とし	進 の 福 祉 制 度 の 高 利 用 者 の な ど	犯罪を した 高 齢 者 の な ど	その他	わからない	無回答
全体		1,363	53.0	51.8	15.2	13.4	4.2	10.1	2.9						
居住地区別	中区	146	54.1	48.6	22.6	13.0	3.4	9.6	2.1						
	東区	134	53.0	57.5	23.1	11.9	6.0	7.5	0.7						
	南区	158	51.9	53.8	13.3	15.8	3.8	6.3	3.8						
	西区	207	57.5	49.3	11.6	12.6	5.3	12.6	3.4						
	安佐南区	278	52.9	52.2	13.7	11.5	3.6	10.4	2.5						
	安佐北区	182	50.0	52.2	12.1	13.7	2.2	11.5	4.4						
	安芸区	97	57.7	49.5	12.4	18.6	6.2	9.3	2.1						
	佐伯区	159	47.8	51.6	16.4	13.8	4.4	11.3	3.1						

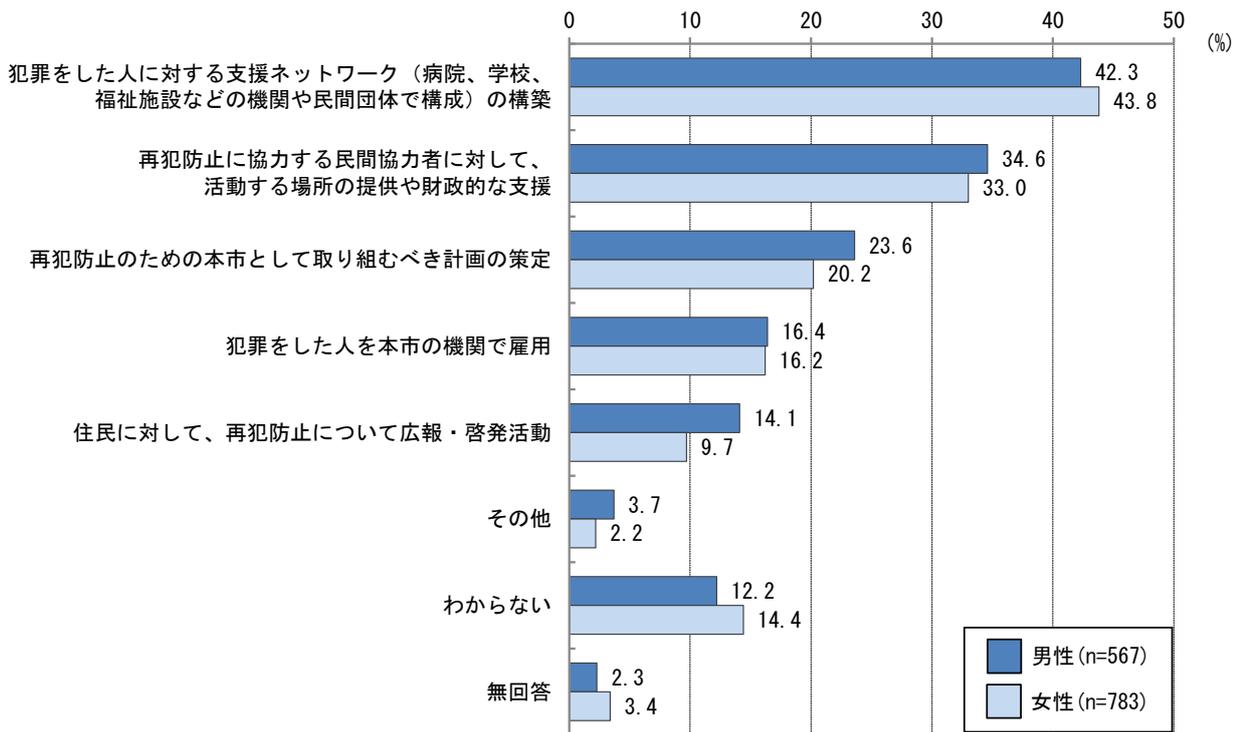
再犯防止に必要なだと思うことについて、居住地区別でみると、東区は「仕事と住居の確保による安定した生活基盤の構築」、西区、安芸区は「刑務所、少年院、保護観察所等による、一人ひとりの問題性に応じたきめ細かな指導や支援の充実」との回答が高くなっている。

問 45 再犯防止のために、本市は何をするべきだと思いますか。(〇は2つ以内)



再犯防止のために広島市がすべきことについて、「犯罪をした人に対する支援ネットワーク（病院、学校、福祉施設などの機関や民間団体で構成）の構築」との回答が42.9%と最も高く、次いで「再犯防止に協力する民間協力者に対して、活動する場所の提供や財政的な支援」（33.5%）、「再犯防止のための本市として取り組むべき計画の策定」（21.6%）などの順となっている。

【図表 再犯防止のために広島市がすべきこと（性別）】



再犯防止のために広島市がすべきことについて、性別にみると、大きな差はみられない。

【図表 再犯防止のために広島市がすべきこと（年代別）】

		件数	でな病支犯政動間再画と再機犯活止住そわわ無 構ど院援罪的す協犯のし犯関罪動に民の他からら回 成の院、ネをしなる力防のて防で罪につに対してして、報・再犯防 の機学ツした場者止定取止雇をした人をして、報・再犯防 の関校、ワ人への対協む組たのべき本計市 構や、フのの対協む組たのべき本計市 築民福ーにの対協む組たのべき本計市 間祉ク対供てする財活民 団施へす 体設る	42.9	33.5	21.6	16.2	11.6	2.8	13.7	3.1
全体	1,363		42.9	33.5	21.6	16.2	11.6	2.8	13.7	3.1	
年代別	10歳代	21	47.6	9.5	23.8	4.8	9.5	4.8	19.0	4.8	
	20歳代	99	50.5	28.3	23.2	24.2	4.0	3.0	7.1	2.0	
	30歳代	163	41.1	31.3	18.4	20.2	9.8	4.3	18.4	0.6	
	40歳代	238	45.0	31.9	20.2	16.0	10.5	3.4	16.0	1.3	
	50歳代	217	44.7	35.0	21.2	19.4	14.3	2.3	10.1	1.4	
	60歳代	246	46.3	41.5	23.6	13.0	11.8	2.8	12.2	2.0	
	70歳代	259	39.0	34.0	23.6	13.9	14.7	2.3	12.7	5.0	
	80歳以上	117	32.5	28.2	19.7	12.8	11.1	0.9	18.8	11.1	

再犯防止のために広島市がすべきことについて、年代別にみると、70歳代以下は「犯罪をした人に対する支援ネットワーク（病院、学校、福祉施設などの機関や民間団体で構成）の構築」との回答が高く、他に、60歳代は「再犯防止に協力する民間協力者に対して、活動する場所の提供や財政的な支援」との回答が高くなっている。

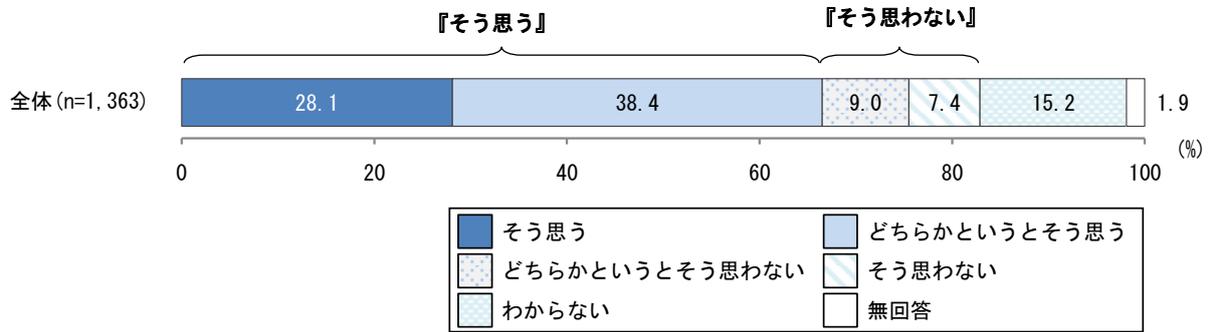
【図表 再犯防止のために広島市がすべきこと（居住地区別）】

(%)

	件数	でな病支犯政動間再画と再機犯活止住そわ無 構の院援罪的する協犯犯のして罪罪関動止民の他から回 成の、院、罪、的する協犯犯のして罪罪関動止民の他から回 の機、学、を、なする場者止止の取防のた組むの計 構関、校、し、なする場者止止の取防のた組むの計 築や、福、た、なする場者止止の取防のた組むの計 民社、ク、人、なする場者止止の取防のた組むの計 間社、ク、人、なする場者止止の取防のた組むの計 団社、ク、人、なする場者止止の取防のた組むの計 体社、ク、人、なする場者止止の取防のた組むの計	42.9	33.5	21.6	16.2	11.6	2.8	13.7	3.1
全体	1,363		42.9	33.5	21.6	16.2	11.6	2.8	13.7	3.1
居住地区別	中区	146	45.2	32.9	18.5	20.5	11.6	3.4	15.1	2.7
	東区	134	51.5	37.3	20.9	12.7	11.9	3.0	12.7	1.5
	南区	158	47.5	36.1	19.0	16.5	12.7	3.2	10.1	3.2
	西区	207	41.1	33.3	17.9	19.8	10.6	2.9	15.0	2.9
	安佐南区	278	46.4	30.2	21.6	14.7	9.0	1.8	15.8	2.9
	安佐北区	182	33.5	31.3	26.4	12.6	16.5	2.7	12.1	5.5
	安芸区	97	42.3	33.0	24.7	16.5	10.3	3.1	11.3	2.1
	佐伯区	159	37.1	37.1	25.2	17.0	11.3	3.1	14.5	2.5

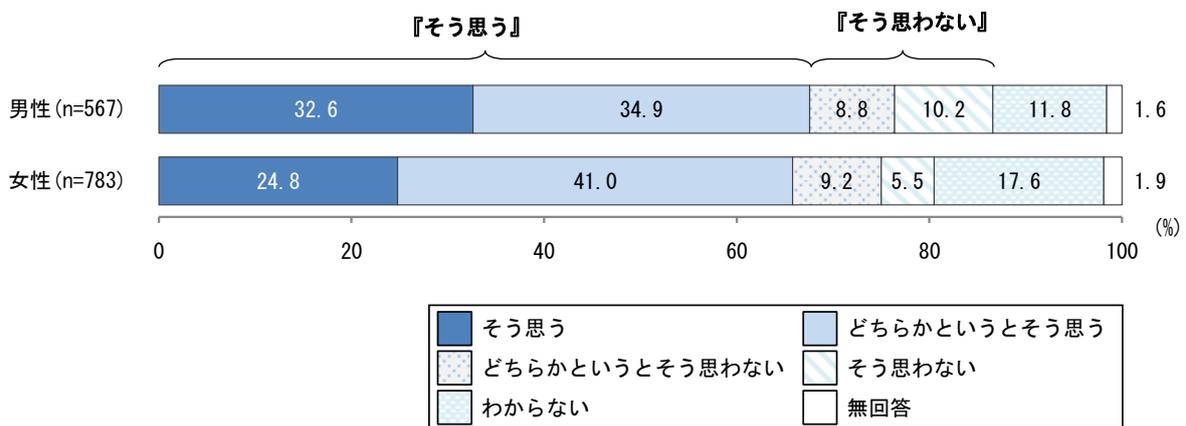
再犯防止のために広島市がすべきことについて、居住地区別にみると、安佐北区、佐伯区を除く地域で「犯罪をした人に対する支援ネットワーク（病院、学校、福祉施設などの機関や民間団体で構成）の構築」との回答が高くなっている。

問 46 『再犯防止のためには、犯罪をした人を社会から排除・孤立させるのではなく、再び受け入れることが自然にできる「誰一人取り残さない」社会の実現が大切である。』という意見について、どう思いますか。(〇は、1つ)



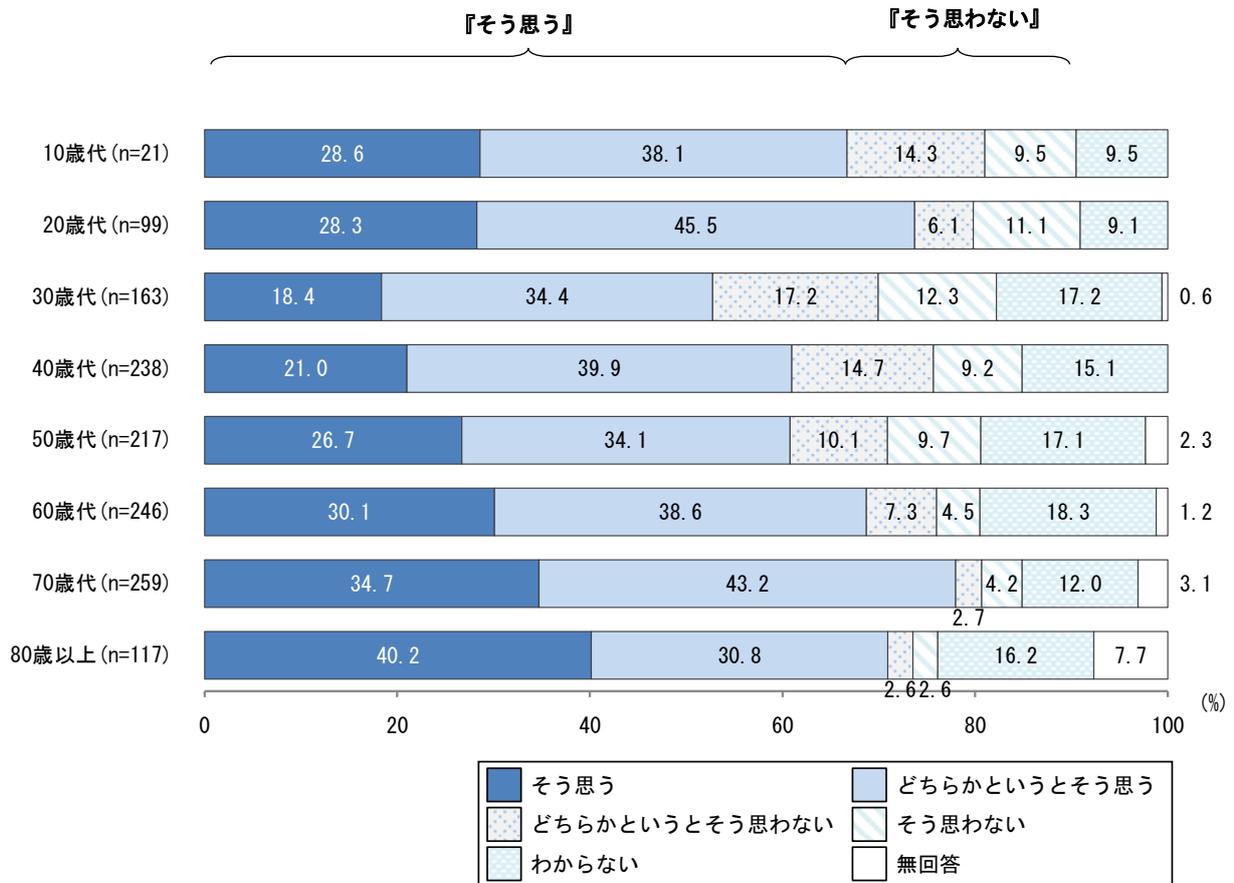
『再犯防止のためには、犯罪をした人を社会から排除・孤立させるのではなく、再び受け入れることが自然にできる「誰一人取り残さない」社会の実現が大切である。』という意見について、『『そう思う』(「そう思う」と「どちらかというと思う」を合計した割合)との回答が66.5%、『『そう思わない』(「そう思わない」と「どちらかというと思わない」を合計した割合)との回答が16.4%、「わからない」との回答が15.2%となっている。

【図表 『再犯防止のためには、犯罪をした人を社会から排除・孤立させるのではなく、再び受け入れることが自然にできる「誰一人取り残さない」社会の実現が大切である。』という意見について(性別)】



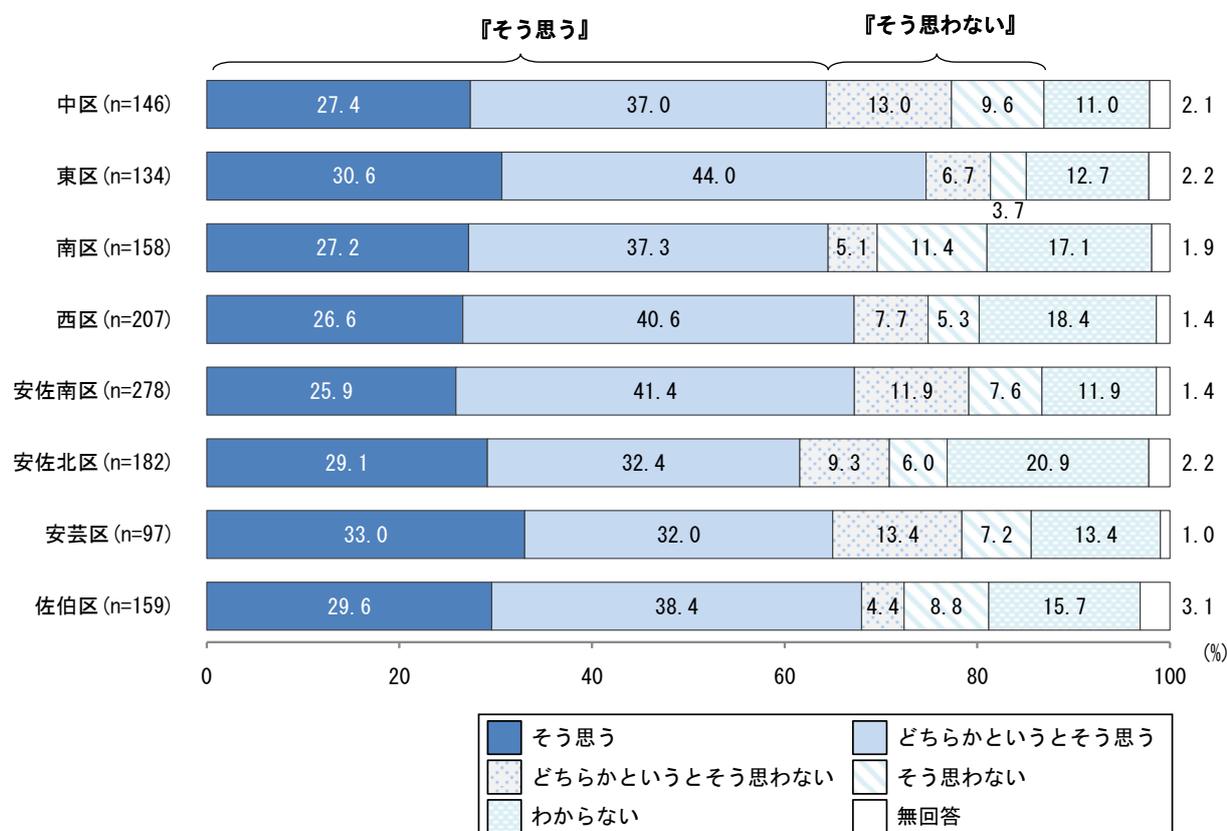
『再犯防止のためには、犯罪をした人を社会から排除・孤立させるのではなく、再び受け入れることが自然にできる「誰一人取り残さない」社会の実現が大切である。』という意見について、性別にみると、「わからない」との回答は女性(17.6%)が男性(11.8%)を5.8ポイント上回っている。

【図表 『再犯防止のためには、犯罪をした人を社会から排除・孤立させるのではなく、再び受け入れることが自然にできる「誰一人取り残さない」社会の実現が大切である。』という意見について（年代別）】



『再犯防止のためには、犯罪をした人を社会から排除・孤立させるのではなく、再び受け入れることが自然にできる「誰一人取り残さない」社会の実現が大切である。』という意見について、年代別にみると、30歳代で『そう思う』との回答が5割超とやや低くなっている。

【図表 『再犯防止のためには、犯罪をした人を社会から排除・孤立させるのではなく、再び受け入れることが自然にできる「誰一人取り残さない」社会の実現が大切である。』という意見について（居住地区別）】



『再犯防止のためには、犯罪をした人を社会から排除・孤立させるのではなく、再び受け入れることが自然にできる「誰一人取り残さない」社会の実現が大切である。』という意見について、居住地区別にみると、東区で『そう思う』との回答が7割台半ばと高くなっている。

# Ⅲ 自由意見



### Ⅲ 自由意見（意見総数 372 件より抜粋）

※複数の内容を含む意見があるため、意見の合計件数と内容別件数は一致しない。

#### 1 行政への意見・要望について（150 件）

意見・要望	性別	年代	居住地区
右側走行が徹底されておらず、イヤホンをしていたり、スマホを見ながら運転していたりと自転車の運転マナーが悪い。広島市の人は車の運転が荒く、信号のない横断歩道を渡ろうと思っても、止まってくれる車はほとんどいない。朝のラッシュ時にクラクションを鳴らされたこともある。広島市内は道路が狭いので、みんなイライラしながら運転している様子がわかる。すこしでも道路整備を進めてほしい。	女性	30 歳代	西区
夕方、帰宅途中の道路が暗く、人通りも少ないので、子どもが怖がっています。街灯を増やしていただけると嬉しいです。	男性	40 歳代	南区
放置自転車対策として、町中の大きな駐輪場まで行けない人の為にも、小さくても多くの駐輪場を設けてほしい。また、防犯の為にも、警官の見回りなど、身近に感じる防犯を行って頂きたい。小さな交番はなくなり、身近に警官と接する機会もない現在はいかなものかと思う。	女性	70 歳代	南区
広島市は夜、暗い感じがするので、全体的に街灯をもっと増やしてほしいです。車の運転マナーが非常に悪いというのが強い印象です。	女性	50 歳代	佐伯区
特に有効と思われる防犯カメラと防犯灯の設置、テレビなどによる防犯知識の向上を積極的に行っていただきたい。	男性	70 歳代	安佐南区
蓋のない用水路や側溝が多く、柵もない場合は特に危険。予算をとって対策してほしいです。	女性	40 歳代	安佐南区
車いすで移動がしやすいように、道路の段差をなくしてほしい。車いす用のスロープを付けてほしい。	男性	20 歳代	安佐南区
安全なまちづくりのためには、行政の取組のみならず、市民自らの動きも必要と考えています。そのためのサポートをよろしく願いいたします。	男性	50 歳代	佐伯区
小さいことでも受け止めてもらえる相談窓口を広めていただければと思います。	女性	40 歳代	中区
犯罪が起きそうな場所に防犯カメラを設置。市民に犯罪が起きた場所や手口の情報を知らせてほしい。	女性	50 歳代	安芸区

## 2 安心・安全に関する意見について（60件）

意見・要望	性別	年代	居住地区
防犯カメラの設置については否定的な意見もあるが、個人的には犯罪抑止に大きく貢献し、事件の早期解決に寄与していると感じている。安心・安全のためには有効なツールとして設置を促進していただきたい。	男性	50歳代	東区
銀行からのメールがよく来ますが、銀行に電話したら、「詐欺メールなので消してください。」と言われました。そのような情報が欲しいです。本物のようなメールで、あやうく開いて回答しそうになりました。どこかで騙されているのではないかと不安になります。将来、老後も安心して暮らせるよう、安心感のある社会になってほしいです。	女性	50歳代	佐伯区
バスや電車の最終便を少しでも遅くすることができるのであれば犯罪防止につながると思います。	女性	30歳代	東区
昔は、警察が各戸を訪れ、「変わったことは無いですか？」と声をかけたり、家族構成などメモしたり、少し言葉をかわすという風景があったものです。最近久しぶりにそういうことがあり、安心感があって良いものだと思います。防犯効果は大きいのではないかと思います。	女性	70歳代	安佐北区
インターネットを通じて子どもが連れ去りなどの犯罪に巻き込まれることが増えているのが不安です。10歳代の子どもの心は不安定なので、大人では想像できない様な考えに至ったり、とんでもないことをしたりする。しかし、幼さゆえの未熟さもあるので、大人がしっかりと支えてあげられる世の中になってほしいと思います。	女性	40歳代	東区
中区の街中を自転車で走るとき、歩道も車道も安全と感じない。人と自転車の事故も増え、事故の際、相手に支払うお金も多額になっている。安全に走りたいので対策して欲しいです。	男性	40歳代	中区

3 地域や町内に対する意見について（39件）

意見・要望	性別	年代	居住地区
安全なまちづくりをするには、人とのコミュニケーションが大事な ので、まずは住んでいる地区のご近所さんとあいさつや会話す ることが1番だと思います。これからもそれを心がけて生活して いきたいと思います。	女性	40歳代	安佐北区
子どものいない世帯では、近所づきあいも希薄なため、行政が 行っている様々な取組を知る機会が少ない様な気がします。	女性	50歳代	東区
人と人とのつながりが減少しつつあると感じる今こそ、家族や近 所、地域といった単位での交流を強めていく運動をするべきだ と感じる。身近なところから少しずつ、顔見知りを増やしたり、普 段からあいさつをかわしたりして、健やかな地域になってほし い。当日参加が可能なボランティア活動など、気軽に参加でき る活動をしていただきたい。行動したいが勇気がいるような時 は親子参加や友人同士など団体での参加がしやすい活動内容 にしていきたい。	女性	30歳代	安佐南区
安心・安全なまちづくりのため、地域との連携を密にとり、子ど もや女性、高齢者の安全が確保できるような取組を今後も続け てほしい。夜間に暗い場所の無いように防犯灯の増設、公園へ 通報装置の設置・増設をしてほしい。地域ボランティアへの配 慮をして安心・安全なまちづくりを官民協力して目指して、明る い広島市を目指してほしいです。	男性	40歳代	安佐南区
安全な街は理想だが、まずは町内近所との付き合いを大切に すべきと思います。	女性	60歳代	東区
団地に居住し45年、高齢化も進み、次の代の人達も移り住む 様になった。暗い場所もあり、夜の外出はできるだけ控えてい る。今一度点検を行っていただき、夜道の安全を図っていただ きたい。近所の方々とは日頃から声を掛けあっているので不審 者にも気付きやすい。子ども達の見守り安全パトロールをしな がら、みんなが安全で安心して暮らせる街であるよう願っていま す。このアンケートで知らなかった事を知る事ができました。あ りがとうございました。	女性	60歳代	西区
地域の絆づくりが大切、無関心が犯罪を誘発する。	男性	70歳代	安佐北区
再犯防止のパレードを本通方面だけでなく町村でも実施をして 地域に呼びかけパレードすることによって、みなさんの意識を高 めることができるのではと思っています。	女性	70歳代	中区

4 モラルやマナーについて (29 件)

意見・要望	性別	年代	居住地区
喫煙マナーが悪い。路上喫煙と未消火の吸殻のポイ捨てが目立つ。	男性	50 歳代	南区
交通ルールを守らない人が多いので、交通安全の指導をもっと頻繁にして欲しい。	男性	80 歳以上	東区
事故、トラブル防止のためにも、自転車マナーの向上に努めていただきたいです。車道、歩道を自由に走り、車道を逆走する人も多く、危険を感じる事が多々あります。子どもよりも大人のマナー違反が目立つように思います。	女性	30 歳代	東区
私は中区にある施設の警備をしていますが、車両の無断駐車や公園での不審者、また、施設における業務妨害を数多く経験しています。特に、ドライバーのマナーの悪さには困っております。駐車できる場所が少ないこともあるのですが、あまりにもマナーが悪いです。他の施設を利用するのに、別の駐車場を無断で使用し、嘘をついて警備員の注意をかわそうとします。運転免許の更新の時に道路交通法だけではなく、社会的マナーもとり入れた方が良くもありませんね。	男性	50 歳代	中区
学校が近くにあるのにスピードをおとさず走りぬける車が多い。歩行者がいるのにまったく止まらない車も多い。車の運転のマナーも安全なまちづくりに必要だと思う。	女性	50 歳代	南区

5 防犯教育について（20 件）

意見・要望	性別	年代	居住地区
インターネットや電話を使った犯罪が増えてきているが、対応方法がわからない人が多いと感じる。	男性	50 歳代	安芸区
「安全なまちづくり」の基本は、行政などの積極的な活動ではなく、家庭と地域などの教育だと痛感しています。	女性	50 歳代	佐伯区
心の豊かさがなくなると犯罪や犯罪者が増えると思う。家庭や学校で、勉強だけでなく人としての在り方や道徳などの教育が大切だと思う。	女性	40 歳代	安佐南区
犯罪が減っているということはいいことで安心しましたが、知らないことが多過ぎますね。防犯に取り組まれている方々の努力のおかげと感謝します。地道な情報提供・教育でモラルが向上していけば、結果に結びつくと思います。	男性	50 歳代	西区
「犯罪をしたらどうなるのか」ということについて、市民の理解が薄いことも犯罪がなくなる原因のひとつだと考えます。どのような刑が待っているのか、実刑後どのような社会的制裁を受けるのか、人生が変わってしまうのかなどが分からずに、犯罪に手を染めてしまう人はたくさんいるのではないのでしょうか。	男性	30 歳代	東区

6 防犯意識について（16 件）

意見・要望	性別	年代	居住地区
行政まかせにするのではなく、個人が自分の身は自分で守る自覚が必要だと思います。	女性	60 歳代	中区
一部のみではなく、個々が意識して協力しあい、助け合うまちづくりをしないと安全なまちづくりはむずかしいのかなと思います。	女性	50 歳代	佐伯区
広島市は安全か危険かと言われれば安全という印象が強い。どこが危険か、どのような防犯が必要か、再犯防止はどうあるべきかを話し合う前に、犯罪の要因となるものをなくしていける対策に重きをおくべきではないかと思う。	男性	20 歳代	佐伯区
望んでもいきなり法律を強化することは無理な話なので、一人ひとりが防犯に対して意識を向けるきっかけになるようなことをやっていけばよいと思います。また、犯罪をした人を受け入れる社会の実現よりも犯罪に手を染めようとする人を減らす社会の実現の方が大切だと思います。	女性	10 歳代	佐伯区
安全なまちづくりに対して様々な取組をされているようですが、自分自身は犯罪にまき込まれたことがないため、その取組について知らないことが多かったです。これからは少し、興味を持ってみたいと思います。一世帯毎に今回のようなお知らせを送ると、市民も興味をもってくれるかもしれませんね。	男性	30 歳代	西区

7 その他の意見について（99件）

意見・要望	性別	年代	居住地区
一人ひとりが安全に暮らせるようみんなが一生懸命努力しておられることに心から感謝いたします。	女性	70歳代	安芸区
このようなアンケートも必要だと思いました。こちらを回答していると知らないことも多かったので、もっと知ろうと思えるきっかけとなりました。	女性	30歳代	佐伯区
この調査票を見て、市が様々な犯罪対策をしておられることを初めて知りました。これからも犯罪は増加すると思われるので、対策をよろしく御願います。	女性	70歳代	南区

名 称 広島市安全なまちづくりに関する  
市民アンケート調査報告書  
発 行 広島市市民局市民安全推進課  
所 在 地 〒730 - 8586 広島市中区国泰寺町一丁目 6-34  
電話 082-504-2714  
FAX 082-504-2712  
発行年月 令和2年3月  
登録番号 広C2-2019-519